

基本計画書

基本計画											
事項	記入欄								備考		
計画の区分	学部の学科の設置										
フリガナ設置者	カワガキケン イテカクエン 学校法人 幾徳学園										
フリガナ大学の名称	カガワカクテク 神奈川工科大学（Kanagawa Institute of Technology）										
大学本部の位置	神奈川県厚木市下荻野1030										
大学の目的	本学では、教育基本法に則り、学校教育法の定める大学として広く知識を授けると共に深く専門の学芸を教授研究し、豊かな教養と円満な人格を備えた有為な人材を育て文化の発展と人類福祉の増進に寄与することを目的とする。										
新設学部等の目的	管理栄養学科では、栄養学分野に関する教育研究を通して、栄養学の学問体系の理解の基に、栄養学分野に関する基礎的な知識と技能を習得したうえで、栄養の理論と実践の関係を理解し、総合的に実践する応用能力を習得させることを目的とする。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	看護学部 [Faculty of Nursing]	年	人	年次人	人	学士 (栄養学)	年月 第1年次	神奈川県厚木市下荻野1030			
	管理栄養学科 [Department of Nutrition and Life Science]	4	80	-	320		令和2年4月 第1年次～ 第4年次				
計	4	80	-	320							
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	看護学部 臨床工学科（40）（平成31年4月届出予定） 応用バイオ科学部 栄養生命科学科（廃止）（Δ80） ※令和2年4月学生募集停止 工学部 臨床工学科（廃止）（Δ40） ※令和2年4月学生募集停止 令和2年4月名称変更予定 看護学部→健康医療科学部（令和元年9月届出予定）										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	看護学部 管理栄養学科	88 科目	22 科目	23 科目	133 科目	124 単位					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	※平成31年4月届出予定	
	新設	看護学部 管理栄養学科		8人 (8)	4人 (4)	0人 (0)	1人 (1)	13人 (13)	5人 (5)		76人 (76)
		看護学部 臨床工学科		8 (8)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	1 (1)		99 (99)
	既設	計		16 (16)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	25 (25)	6 (6)		- (-)
		工学部 機械工学科		7人 (7)	6人 (6)	0人 (0)	3人 (3)	16人 (16)	2人 (2)		116人 (116)
分	電気電子情報工学科		7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	101 (101)		
	応用化学科		5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	107 (107)		
	情報学部 情報工学科		14 (14)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	19 (19)	1 (1)	101 (101)		

基本計画書

基本計画									
教員組織の概要	既設	情報ネットワーク・コミュニケーション学科	10 (10)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	103 (103)
		情報メディア学科	8 (8)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	18 (18)	0 (0)	104 (104)
		創造工学部 自動車システム開発工学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	12 (12)	0 (0)	91 (91)
		ロボット・メカトロニクス学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	91 (91)
		ホームエレクトロニクス開発学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	95 (95)
		応用バイオ科学部 応用バイオ科学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	120 (120)
		看護学部 看護学科	9 (9)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	21 (21)	8 (8)	57 (57)
			基礎・教養教育センター	11 (11)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)
		教職教育センター	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	11 (11)
		情報教育研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)
		工学教育研究推進機構	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		教育開発センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	計	102 (102)	52 (52)	5 (5)	20 (20)	179 (179)	18 (18)	- (-)	
	合計	118 (118)	58 (58)	5 (5)	23 (23)	204 (204)	18 (18)	- (-)	
	教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計	
事務職員		48人 (48)		38人 (38)		93人 (93)			
技術職員		0 (0)		7 (7)		7 (7)			
図書館専門職員		0 (0)		14 (14)		14 (14)			
その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計		48 (48)		59 (59)		107 (107)			
校地等	区 分		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計		大学全体
	校舎敷地		87,669.16㎡	0㎡	0㎡		87,669.16㎡		
	運動場用地		38,015.93㎡	0㎡	0㎡		38,015.93㎡		
	小 計		125,685.09㎡	0㎡	0㎡		125,685.09㎡		
	そ の 他		8,818.66㎡	0㎡	0㎡		8,818.66㎡		
合計		134,503.75㎡	0㎡	0㎡		134,503.75㎡			
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		大学全体
		98,308.56㎡	0㎡		0㎡		98,308.56㎡		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体	
	77室	34室	94室	14室 (補助職員3人)		1 (補助職員0人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		看護学部 管理栄養学科			17 室				

基本計画書

基 本 計 画									
既設 大学等 の 状 況	電気電子工学専攻	2	16	—	32	修士（工学）	0.89	平成元年度	
	応用化学・バイオサイエンス専攻	2	16	—	32	修士（工学）	1.06	平成元年度	
	機械システム工学専攻	2	14	—	28	修士（工学）	0.8	平成2年度	
	情報工学専攻	2	18	—	36	修士（工学）	1.32	平成5年度	
	ロボット・メカトロニクスシステム専攻	2	6	—	12	修士（工学）	0.83	平成22年度	
	工学研究科博士後期課程								
	機械工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.25	平成5年度	
	電気電子工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.5	平成6年度	
	応用化学・バイオサイエンス専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.25	平成5年度	
	機械システム工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.63	平成5年度	
	情報工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.63	平成8年度	
附属施設の概要	<p>①名称：情報教育研究センター 目的：教育、研究、大学運営等の利用に供するとともに、コンピュータおよびネットワークの関連分野並びに情報教育に関する学術研究およびその実践。 所在地：神奈川県厚木市下荻野1030番地 設置年月日：昭和58年3月 規模等：総面積1,748㎡ ハードウェア 富士通社製パソコンFMV-ESPRIMO D550/B 348台</p> <p>②名称：工学教育研究推進機構 目的：研究、教育活動の支援および先端学術の研究により技術の発展と社会の福祉に寄与。 所在地：神奈川県厚木市下荻野1030番地 設置年月日：平成8年4月 規模等：総面積2,996㎡ 大型設備装置等（ナノテクノロジー用クリーンルーム等） 実験実習室（化学・物理、工作工場等）</p>								

教育課程等の概要															
(看護学部管理栄養学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通基盤教育	導入系	スタディスキル	1前	1				○						兼1	
	倫理系	生命倫理	3前	2			○							兼1	
	a群	暮らしの経済	1・2前後		2			○							兼2
		日本国憲法	1・2前後		2			○							兼3
		日本近現代史	1・2前後		2			○							兼1
		ヨーロッパの歴史と文化	1・2前後		2			○							兼1
		アジアの文化と社会	1・2前後		2			○							兼1
		少子高齢化と社会問題	1・2前後		2			○							兼1
		マスメディア論	1・2前後		2			○							兼2
		宗教と倫理	1・2前後		2			○							兼1
		比較文化論	1・2前後		2			○							兼1
		芸術論	1・2前後		2			○							兼1
		社会参加とボランティア	1・2前後		2			○							兼1
		国際化と異文化理解	1・2前後		2			○							兼2
		現代社会の心理学	1・2前後		2			○							兼3
		環境論	1・2前後		2			○							兼2
	人文社会科学演習	3通年		2			○							兼3	
	b群	哲学	2・3前後		2			○							兼2
		倫理学	2・3前後		2			○							兼1
		文学	2・3前後		2			○							兼2
		教育学	2・3前後		2			○							兼2
		心理学	2・3前後		2			○							兼3
	c群	政治学	2・3前後		2			○							兼2
		経済学	2・3前後		2			○							兼3
		法学	2・3前後		2			○							兼3
		社会学	2・3前後		2			○							兼2
		企業と経営	2・3前後		2			○							兼1
	スポーツ・健康系	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前		1				○						兼2
		健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後		1				○						兼2
		レクリエーションスポーツ	2前		1			○							兼1
		生涯スポーツ実技	2後		1			○							兼1
		学外スポーツ	1～4		1			○							兼1
	英語基礎系	英語Ⅰ	1前		1			○							兼1
		英語Ⅱ	1前後		1			○							兼2
		英語Ⅲ	1・2前後		1			○							兼6
		英語Ⅳ	1・2前後		1			○							兼8
		英語Ⅴ	2前後		1			○							兼5
		英語Ⅵ	2後		1			○							兼3
	言語応用系	科学技術英語Ⅰ	3前		1			○							兼1
		科学技術英語Ⅱ	3後		1			○							兼1
英会話Ⅰ		1前後		1			○							兼2	
英会話Ⅱ		1後		1			○							兼2	
総合英語演習		1前後		1			○							兼1	
TOEICⅠ		2・3前後		1			○							兼1	
TOEICⅡ		3前後		1			○							兼1	
日本語表現技術		1・2前後		2			○							兼2	
プレゼンテーション技術		2前後		2			○							兼1	
技術文章の書き方	3前後		2			○							兼1		

教育課程等の概要															
(看護学部管理栄養学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤 共通 教育	数理情報	身の回りの数学	1~3前後	2			○			1					兼1 共同
		実感する科学Ⅰ	1~3前後	2			○			4	1				兼2 共同
		情報リテラシー	1前	2			○			1					
		小計(51科目)	—	9	74			—		5	1				兼54
専門 基礎 導入	化学基礎	1前	2			○			1						
	化学基礎実験	1前	1				○		1						
	生物学概論Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	生物有機化学	1前		2		○			2						
	生命科学概論	1後	2			○				1					
専門 基礎	健康・社会・環境	栄養生命科学概論	1前	2			○			1					
		健康管理論	2後	2			○			1				兼1 オムニバス	
		公衆衛生学	2前	2			○							兼1	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学Ⅰ	1後	2			○								兼1
		解剖生理学Ⅱ	2前	2			○								兼1
		解剖生理学実験	2前	1				○							兼1
		生化学Ⅰ	1後	2			○			1					
		生化学実験Ⅰ	1後	1				○		1					
		生化学Ⅱ	2前	2			○			1					
		生化学実験Ⅱ	2前		1			○		1					
		微生物学	1前		2		○			1					
		微生物学実験	1前		1			○		1					
		病理病態学Ⅰ	2後		2		○			1					
	病理病態学Ⅱ	3前		2		○			1						
	食べ物と健康	食品学Ⅰ	1後	2			○			1					
		食品学実験Ⅰ	1後	1				○		1					
		食品学Ⅱ	2前	2			○			1					
		食品学実験Ⅱ	2前		1			○		1					
		食品衛生学	2前	2			○			1					
		食品衛生学実験	2後	1				○		1					
調理学		1前	2			○			1						
調理学実習Ⅰ		1前	1				○		1						
調理学実習Ⅱ		1後	1				○		1					兼1 オムニバス	
調理学実験	2前	1				○		1							
専門	基礎栄養学	基礎栄養学	2前	2			○			1					
		基礎栄養学実験	2前	1				○		1					
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2後	2			○				1				
		応用栄養学Ⅱ	3前		2		○				1				
		応用栄養学Ⅲ	3後		2		○				1				
		応用栄養学実習	3前	1				○		1	1				兼2 オムニバス
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2後	2			○			1					
		栄養教育論Ⅱ	3前	2			○			1					
		栄養教育論Ⅲ	3後		2		○			1					
		栄養教育論実習Ⅰ	3前	1				○		1					
栄養教育論実習Ⅱ		3後		1			○		1						

教育課程等の概要														
(看護学部管理栄養学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2前	2			○		1			1		
		臨床栄養学Ⅱ	2後	2			○		1	1		1		
		臨床栄養学Ⅲ	3前		2		○		1	1		1		
		臨床栄養学Ⅳ	3前		2		○			1				
		臨床栄養学実習Ⅰ	3前	1			○					1		
		臨床栄養学実習Ⅱ	3後	1			○			1		1		
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2後	2			○			1				
		公衆栄養学Ⅱ	3前		2		○			1				
		公衆栄養学実習	3前	1				○		1				
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	2前	2			○			1				
		給食経営管理論Ⅱ	2後	2			○			1				
		給食経営管理実習	2後	1			○			1				
	総合演習・臨地実習	総合演習	3・4前後		2			○		3	1			
		給食運営臨地実習	3前	1				○			1			
		給食経営臨地実習	3後		1			○			1			
		臨床栄養A臨地実習	4前後		3			○		1	1		1	
		臨床栄養B臨地実習	4前後		2			○		1	1		1	
		公衆栄養臨地実習	4後		1			○		1				
	輪講	4通年		2			○		8	4		1		
	卒業研究	4通年	4				○		8	4		1		
	専門発展科目	食品物性学	3前		2			○		1				
		食品機能学	3前		2			○		1				
		食品分析学	3後		2			○		1				
		食品加工学	3後		2			○						兼1
		食品工学	3後		2			○		1				
		食品官能評価論	3後		2			○		1				
		給食経営システム論	3前		2			○			1			
		栄養サポートチーム(NST)論	3後		2			○				1		兼2 オムニバス
		管理栄養士基礎セミナー	2後		2			○		1				兼14 オムニバス
		専門演習Ⅰ	4前		1			○		8	4		1	兼2 オムニバス
		専門演習Ⅱ	4後		1			○		8	4		1	兼2 オムニバス
	専門関連科目	基礎栄養学概論	1後		2			○		1				
分子栄養学		3後		2			○		1					
臨床生化学		4前		2			○		1					
Web技術入門		2前		2			○						兼1	
画像情報処理		2後		2			○						兼1	
情報統計		3後		2			○						兼1	
プロジェクト科目	+α資格取得プロジェクトⅠ(食品産業)	3・4前後		2			○		1					
	+α資格取得プロジェクトⅡ(スポーツ栄養)	3・4前後		2			○		1					
	+α資格取得プロジェクトⅢ(家電)	3・4前後		2			○		1					
	+α資格取得プロジェクトⅣ(臨床栄養)	3・4前後		2			○			1				
	+α資格取得プロジェクトⅤ(食育)	3・4前後		2			○			1				
小計(82科目)		—	64	79				8	4		1		兼22	
合計(133科目)		—	73	153				8	4		1		兼76	

教育課程等の概要														
(看護学部管理栄養学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士(栄養学)		学位又は学科の分野			家政系								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
共通基盤教育科目：合計27単位 必修 9単位、 選択 18単位 ・導入系1単位 ・倫理系2単位 ・人文社会系 a群4単位、b群2単位、c群2単位 ・倫理系、人文社会系(自由選択)2単位 ・健康・スポーツ系 1単位 ・英語基盤系 4単位 ・言語応用系 3単位 ・数理情報系 6単位 専門教育科目：合計93単位 必修 64単位 選択 29単位 任意科目：4単位 卒業要件：4年以上在籍し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：年間48単位以下、かつ半期26単位以下)						1学年の学期区分			2期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部管理栄養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
導入系	スタディスキル	本科目は1年生の導入科目として、高校の学習から大学への学びをスムーズに移行するための学習スキルを修得する科目である。この科目では、大学の学習システムや大学キャンパスでの生活を知り、大学生としての基本的な心構え・マナーを理解し、大学での学びに必要な日本語能力やコミュニケーション能力等を身に付け、また専門学習の基礎となる実験や工作の方法、レポートのまとめ方等も修得する。	
	生命倫理	現代社会では生命に関する倫理観が各人に求められる。このような現状に基づいて、食糧資源の問題、人口の問題、栄養失調の問題等をはじめ、人間と人間以外の生物とのかかわり、我々の健康増進に関する社会問題の状況などを講義していく。その間、生命観の歴史、生命倫理観の歴史、現代の医学の基本的状況、現代の生命倫理への観点の状況について講義する。現代の生命倫理学は、特に医の倫理学ともいべき側面が大きな位置づけを占めている。生殖を含む誕生の倫理、死の倫理、移植の倫理など枚挙に暇がない。このような、いわば、医学の基盤となる側面についても理解を深めていく。	
共通基盤教育	暮らしの経済	わたしたちは、日々の暮らしを維持したり、よりよい生活を営むために経済活動を行っている。働いて給与を得て財やサービスを消費する、あるいは将来のための資産を形成する、また会社に勤めることで生産にも携わる。日々の暮らしの多くがこうした経済活動に関わるものである。本講義では、わたしたちの身の回りの財やサービスの価格がどのように決まるのか、働くとはどういうことか、給料はどのように決まるのか、預貯金をするとはどういうことか、銀行はいかなる役割を果たしているかなどを学んでいく。また、経済成長やグローバル化など、マクロ的な経済動向がわたしたちの暮らしにどのような影響を及ぼしうるかについても考える。	
	日本国憲法	日本人ほど憲法をよく知り、崇拜する国民はいないといわれる。小学校の「公民科」・中学校の「公民科目」・高校の「現代社会や政経」・大学の「教養科目」として、4回も憲法は学ぶことになっているからだ。しかし、法学部の学生を含めて、憲法がその他の法律とは違って国民の人権を保護するための「公的機関を縛るルール」であることを知る人はほとんどいない。このため、憲法は何の役にも立たないお題目と化し、憲法学者より建設業者の方が政治に影響力がある現実になっている。憲法は他の法律（社会の秩序を維持したり、国民間の紛争を解決するための法）と違い、むしろ逆方向で、国民の人権を侵害しないよう公権力を見張る機能を持ち、「公権力 v s . 私人」という対立においてはじめて問題となる法律なのである。これまでの憲法論議に欠けていた、現実の人間の具体的な生き方、ないしは生活との関わりの中で、もう一度憲法をとらえ直してみる必要がある。この講座は、お題目を唱え・暗記するのではなく、そのルールは何故つくられたのか、憲法を生活に活かすためにどうすればいいのか等を、自ら考え、実践できることが目的である。その結果、公正で論理的な憲法改正論議が出来ることが目標となる。	
	日本近現代史	本講義では、議会政治の展開過程を軸に、明治維新期から昭和戦前期の歴史を概観する。藩閥政府から「朋党」「徒党」として忌避された政党勢力が、いかにして実力を養い、国政の中核へと進出したのか。諸政治勢力が議会政治に何を期待し、議場の内外でいかなる相克が繰り返されたかを様々な資料を用いてやさしく論じていく。とりわけ、国づくりにかけた政党政治家（原敬・浜口雄幸等）の「熱意」を汲み取り、こうした先人たちの努力の積み重ねの上に、我々の生きる戦後社会が構築されていったことを確認したい。	
	ヨーロッパの歴史と文化	ヨーロッパ文化の基層を形成するギリシア文化の特質を、ミノス王やラビュリントスで知られるクレタ島クノッソスを中心として栄華を誇ったミノア時代、ギリシア本土の新石器時代やギリシア民族の到来、ミケーネやテーバイなどの王国が栄えたミケーネ時代、アテネのパルテノン神殿に代表される古典期の比較により考察する。またオリンポスの神々が織り成すギリシア神話の特質や背景、トロイ戦争を歌ったホメロスの英雄叙事詩についても理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 基盤 教育	アジアの文化と社会	最近21世紀はアジアの時代という言葉をよく耳にする。国際化社会が唱えられ、アジア諸国との経済協力が深められている今日、アジア諸国との相互理解を深めるためにもその文化と社会を学ぶことは大変意義あるものと思う。日本企業のアジア進出も相次ぎ、アジアの労働力や技術力に期待が寄せられる一方、政治的な対立も大きな問題として根強く存在するのも事実である。これからの日本を担うエンジニアにとって、アジア諸国とどのような関わりをもつべきかと考えることはとても大切なことである。そのためにも日本とアジア諸国の文化と社会の変化を比較することは必要と思われる。本講義では、近代から現代に至るまでの日本とアジア諸国の関係を解説的に語ることによって、学生個人が今後のアジア諸国との関係はどうあるべきかを考えさせる。	
	少子高齢化と社会問題	日本社会は現在、急速な高齢化・少子化が進む歴史的転換期にある。社会が大きく揺らぐなか、私達は既存の枠組みでは捉えられない新たな社会状況に直面している。授業では、科学技術や産業構造が大きく変化する現代社会において、家族観・社会観の歴史的変容の過程や、家族関係・男女関係をめぐる現状と意識のズレがもたらす社会問題（児童虐待、ドメスティック・バイオレンス、介護ストレス、孤独死）などを題材に、来たる人口減少社会の展望と新たな可能性を考察する。遠くない将来に各自が直面する問題として、自らに問いかけ考える姿勢を習得して欲しい。	
	マスメディア論	新聞・映画・ラジオ・テレビの登場は、不特定多数の人々に大量の情報を一方的・同時的に伝達することで、社会意識に大きな影響を与えてきた。更に現代では、インターネットの普及により、興味・関心の異なる利用者が双方向的に情報伝達できる、巨大メディアへと成長しつつある。授業では、技術革新と社会的影響を中心に、マスメディアの歴史的変遷および今日のマスメディアの特徴と問題点について考察する。各自が日常的に接する多種多様な情報を取捨選択し読み解くためのメディアリテラシーを修得して欲しい。	
	宗教と倫理	「いつ、どんなふうにして、終わるのか」、「自分はなぜこの世に存在するのだろうか」、「自分は死んだらどうなるのだろうか」。これまで生きてきて、諸君はこのような疑問を抱いたことはないだろうか。こういった疑問は、まさに「宗教」的な問いであり、太古から無数に存在してきたあらゆる宗教が、このような問いへの回答を与えようとしてきたと言っても良い。そういった回答を拠り所にして、何らかの意味で「善く」生きてゆこうとする人間の営みが「信仰」である。この講義では「信仰」のメカニズムを理解することにより、「信仰」における「善」と倫理における「善」との関係を考えることと目的とする。また、そのような観点から、宗教対立やカルトといった現代の問題についても考えたい。	
	比較文化論	私たちは、文化的な諸問題を考える際に、ともすると自分の所属する特定の文化からのみ捉えられた自文化中心のもの見方に陥ってしまいがちです。本授業では、そうした狭い文化観に陥らず、相対的に文化を捉え考えていく力を身に付けることを目的とします。授業では、そのための具体的な方法論として、《ポストモダン》とよばれる領域の批評理論や、《ポストコロニアル》とよばれる文化理論について学んでいきます。それらの批評・文化理論を用いて、狭義の文化（ハイカルチャー）作品にとどまらず、サブカルチャーまでも含めた広義の文化的コンテンツを素材として、文化的諸問題を批評的に読み解き考えていきます。また、そうした批評的な読解の方法論的な意味、更には創作・表現におけるその可能性についても考えていきたいと思えます。	
	芸術論	<芸術>と一言でいってもとても広い領域に渡ります。この講義では主に視覚芸術、つまりヴィジュアル・アートを中心に、古今の芸術表現に触れていきます。古代の神殿から映画やアニメーション、そしてゲームまで、人間の想像力、空想力が縦横無尽に発揮された作品群は、私達を魅了し大きな影響を与えてきたことが明らかになるでしょう。芸術に触れ享受するために「なぜ、人はこのような表現をしたのだろう」まずはそんな素朴な疑問と好奇心から始めましょう。そして最終的に「芸術とは何か」、人々は「世界をどのように認識するのか」という命題に迫ります。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 基盤 教育	人文社会系 a群	社会参加とボランティア	<p>ボランティアとは「自発的な意志に基づいて人や社会に貢献すること」である。具体的には、(1)自分からすすんで行動する「自主性・主体性」、(2)ともに支え合い、学び合う「社会性・連帯性」、(3)見返りを求めない「無償性・無給性」、(4)よりよい社会をつくる「創造性・開拓性・先駆性」が重要な視点である。実際にどのようなボランティア活動が行われているか、さまざまなボランティア活動の実践例を学ぶことを通して、社会参加のあり方について考えていきたい。授業の中だけではなく、日頃から一人一人が、社会的な問題に関心を持つことが大事である。その際、多くの人が関心をもつ課題だけではなく、マイノリティ(少数派)の人たちの抱える課題にも関心を持ってほしい。授業の進め方は、講義形式が中心であるが、ビデオによる事例理解や当事者の話を聞いたりする機会を用意する。ボランティア活動を含めた社会的介入を理解するために「プログラム評価」の理論を用いて、インプット→活動→アウトプット→アウトカムの流れを理解し、実際にボランティア計画を一人一人が立案してみる。新しい視点から自由に発想したボランティア計画をたてよう。</p>	
	国際化と異文化理解	<p>国際化の進展とともに、我々が異なる文化を持つ人々と接する機会が増えている。しかし日本に住んでいる我々が日ごろ目にする海外からのニュースは、欧米諸国(特にアメリカ)を経由していることが多い。本講義ではまず、我々がこれまで得てきた情報や、いかにアメリカに影響されていたのか気づいて欲しい。その事例として中東諸国に関する情報を取り上げる。イスラーム教徒が大半を占める中東諸国とアメリカは長きにわたって対立してきた経緯があるため、我々が彼らに対して抱えているイメージにも、少なからぬ偏見や誤解が含まれている。次に、中東諸国の人々からは世界がどのように見えているのかを学んで欲しい。さらに可能であれば、アメリカと中東諸国に住む人々の世界観が必ずしも対立するものではないことを知ってもらいたい。</p>		
	現代社会の心理学	<p>この授業では、身近な心理学について講義する。多くの学生は「身近な心理学」と聞くと、例えば心理テストや性格診断などを連想するかもしれない。しかし、それらは心理学の展開・応用にすぎない。ここでは、展開・応用の根源にある人間理解を目指し、身の回りの出来事を心理学的に捉える方法を学ぶ。現代社会で誰もが出会う事柄を研究対象としているので、学生が修得・実践すれば日常生活を今まで以上に円滑に送れるようになるであろう。</p>		
	環境論	<p>20世紀後半に起きた公害・環境問題は、人間社会において自然環境が有限で限界であることを自覚させる契機となった。この意味で、際限なき拡大・成長を自明視してきた現代社会は、かつてない転換点にあるといえる。本講義では、この転換の意味を理解するために、現代日本を含め国際社会が直面しているいくつかの環境問題を取り上げて、環境破壊を生み出す社会構造のそのメカニズムについて考えていく。その上で、持続可能な社会を構想する現代の潮流を読み解いていきたい。受講者には環境問題を自然現象として理解するだけでなく、「社会」の問題として理解できるようにしてもらいたい。</p>		
	人文社会科学演習	<p>この授業はゼミ形式を採用し、1年間にわたって特定のテーマについて、フィールドワーク(調査を通じたデータ収集と分析)を行い、グループで討論し、データに依拠した発見や成果を発表することを目指す。最初に、選んだテーマに関する今日の状況について、ドキュメンタリー鑑賞などを通じて理解を共有し、同時に各自で文献調査を行って、基礎知識を修得する。その後、インタビュー調査とアンケート調査の手法を学び、グループに分かれて調査を実施し、データの分析結果について討論する。最後に、研究成果を発表しあって全体討論を行う。フィールドワークと共同研究の経験を通じて、多角的な視点とコミュニケーション能力を身に付けて欲しい。</p>		

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育 人文社会系b群	哲学	<p>古来、哲学者と呼ばれる人々には実に様々な問題に取り組んできた。彼らの活動の足跡は現代の我々に「哲学史」として残されている。この講義は、主に古代から近世にいたるまでの西洋の哲学者たちの残した様々な言葉について考えることによって哲学史を紐解くことを目標とする。哲学史も一つの歴史である以上、受講者は最低限の基本的な知識を身に付けなければならない。しかし、この講義の目的はただ単に知識を覚えることではない。哲学者たちが取り組んできた問題がどのように時代を超えて受け継がれ発展していったのか、その連関を把握することによって、そもそも「哲学的な問題」とはどのような問題であるのかを理解し、さらにはそこから現代の具体的な諸問題について考える手がかりを得ることがこの講義の主眼である。受講した学生諸君が、この講義を受講する以前には思いもよらなかった考え方が出来るようになる、そういう講義となるように努めたい。</p>	
	倫理学	<p>古来より哲学者たちはあらゆる事柄について考えてきた。その中で「人間とは何か」という問い、「ただ生きるのではなく、善く生きるとはどのようなことか」という問いが発せられた時、倫理学が始まったと言ってよい。このような問いは時代や場所を越えて、全ての人が多少なりとも関心を抱かざるを得ない問いであると言って良いであろうし、また実際に、例えば古代の哲学者によって残された言葉の中に、現代に生きる我々の問題意識との意外な「近さ」を見出すことも少なくない。この講義の目的は、古代から近代にいたる哲学者たちの残した倫理的な事柄に関する文章を読み、受講者の各々が自分の心に響く言葉を見つけることである。諸君が生きてゆく上で折に触れて想い出すような言葉と出会うことが出来れば、幸いである。</p>	
	文学	<p>文学作品のみならず《ことば》によって書かれた作品には「読む」という行為がつきまといます。普段何気なく触れている文章の《ことば》も、言語がもつ《表現》としての働きや機能性を念頭に置いて意識的に「読む」とき、それまで受け取っていた理解とは全く異なる世界が開けてきます。そうした“読む”行為を意識化するところに、文学という学問領域の意味があります。本授業では、そのような“読み”の知見を学ぶことで、多角的な読解の方法と姿勢を身に付けることを目的とします。テキスト（小説、評論、等々）と向き合い、意識的に“読む”読解・解釈という作業の中で、《ことば》を《読む》という行為の意味や可能性について考えていきたいと思います。</p>	
	教育学	<p>「人を育てる」、「人が育つ」とは、人間にとってどのような行為であり、歴史的にどのような教育活動や学校システムが作り出されてきたのか、教育は今日の世界においてどのような可能性・使命、そして「危険性」をもっているのか、という本質的な問いを扱う。教育の土台となる人間的諸活動（遊び、学び、労作など）、権利としての教育、学校・教育のデザイン、子ども・学校の歴史、現代社会の教育問題といった視点から、テーマ学習のスタイルで考える。講義の中心は子どもへの教育活動への言及となるが、生涯発達思想や学校化社会批判の観点からも考察する。現代の子ども・教育をめぐる諸問題を、一般的な言説やマスコミ報道によってではなく、自分の力で分析・検討する姿勢をもつようになること、その際、異質な存在への寛容さや人類的な視点をもてること、やがては何らかの専門家・市民・保護者として教育に主体的にかかわろうとする意識をもつことを狙いとする。</p>	
	心理学	<p>世界とは何だろうか、人間とは何だろうか、考えるということはどういうことだろうか。そんな素朴な疑問が哲学を生みだしました。そして、その哲学的思索を公共の物とし、客観的な事実とする方法論として科学が生まれました。心理学は、その科学の方法論に則り、人間という存在についての根源的な問いに取り組む人間科学の一分野です。講義では、心の科学としての心理学が成立し、現代にいたるまでの思想、方法論の歴史を概観し、現代の心理学が取り組んでいる様々なトピックや、最新の研究について紹介します。また、進化論、生物学、比較行動学、社会学、文化人類学、脳科学、言語学、人間工学など、他分野との学際研究の中心にある学問としての心理学が果たすべき役割について考えていきます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育 人文社会系c群	政治学	人間は社会的な動物であるといわれます。すなわち人間は、他者の存在が不可欠であり、他者との関係のなかで生きる生き物です。そういう人間が集まって作る社会の歴史・制度・習慣・風俗・気質等が、どのように人々の暮らしを条件付けているか。また、その中で個人と社会（または組織）との望ましい関係はなにか。—そういう問題を考えるのがこの科目です。具体的にいえば、主に現在の日本の政治状況から例を取り上げながら、そこにどのような原則（または無原則？）があるのか、個人としての私たちは、どのように行動するのが、より良いことなのか、等を考えてみたいと思います。	
	経済学	経済学は、人々の生活基盤となる経済システムおよびメカニズムについて明らかにする社会科学です。この講義では現代の世界経済および日本経済の現状について、まず「現代の大不況」を理解するため混合経済体制の下での国民経済のメカニズムを把握し、国民所得の決定の理論、財政・金融政策の役割を中心にマクロ経済を学習します。次に、市場経済の現実の運動を論理的に解明するため、ミクロ経済の必要最低限の知識である意思決定と企業の費用分析および市場の失敗等について学びます。かくして、経済現象について体系的に学ぶことで、広い視野と深い洞察を得るための汎用的技能を修得出来ます。（公務員志望、企業家（起業家）を志す学生およびキャリア形成に前向きな学生は、履修することを薦めます。また、1年・2年次に「暮らしの経済」を履修していることが望まれます）。	
	法学	「生活の中の法学」や「はじめての法学」、あるいは「〇〇学部のための法学」といった容易さや限定的なタイトルにだまされる人は多い。「工学部のための法学」といえば決まって特許や著作権などの知的財産権が対象で権利者の保護や経済的権利（どれだけ儲かるか）が話題になり、科学技術の公共性や知的文化の発展という本来の目的を忘れる。法は特定の人の利益のためにあるのではない。授業では、法知識を身に付けるのではなく、何のために法は発生し（法の起源）、どのように変化（法の変遷）し、どこへ向かおうとしているのか（法の行方）について考える。私たちが殺人・傷害などをしないのは刑法があるからではなく、社会の人間関係から排除されることを恐れるからに他ならない。ネット社会の中ではこうした「法的想像力」が欠如し、人間関係の希薄化が一体何をもたらすのか等を一緒に考え、その解決法の一つとして、「リーガルマインド（法的思考）」を身に付けることが「法学」の目的です。	
	社会学	社会学は、私たちの「常識」を疑い、日常生活のなかにさまざまな「驚き」や「異文化」を発見し、「社会」がどのようなメカニズムで成り立っているのかを解明する学問である。私たちは、自らが所属する「社会」の影響を色濃く受けており、決して「社会」と無縁に暮らしているわけではない。そこで、社会学理論を学ぶことで新しい「思考の枠組み」を獲得し、歴史を知り現在を相対化するとともに、国際比較や異文化理解によって自文化を相対化する。こうした社会学的な思考を通じて、社会問題を発見し、多角的に考える広い視野を体得して欲しい。	
	企業と経営	この講義の目的は、経営学の基礎と戦略論を学びながら、経営学的な考え方を修得することである。経営学の基礎としては、企業内部がどのように構成されているのか、を「ヒト・カネ・モノ・情報」といった経営資源を基に学ぶ。そして、企業の実例と講義内容をあわせて、企業の地道な努力や問題点を見つ、理論と実際の差異を考えていく。 その後、現代企業の国内・国外での具体的な経営活動を効果的に行うために用いられる「戦略論」を学習していく。企業は常に競争にさらされており、自身の存続をかけて、内部環境や外部環境を分析した上で商品を市場に投入していく。戦略論では市場での企業間競争を中心に学習する。その例として、時事トピック・事例研究を取り入れ、企業の置かれている現状を理解できるようにしていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
健康・ スポーツ系	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	教員免許状を取得する為には、必ず健康・スポーツ科学実習ⅠとⅡをセットで履修すること) この授業は、健康と身体に関する基礎的知識を理解するとともに、現代社会における健康の意義を理解し、生涯にわたり健康を求めようとする動機づけを高めるものである。豊富なスポーツ活動を通して健康と体力の維持向上をはかり、コミュニケーション、社会性、協調性を育み、社会人として活躍できる基礎体力を養うことを目標とする。スポーツ種目は、バレーボール、サッカー、バスケットボール、バトミントン、硬式テニス、卓球などの球技を中心とする。スポーツ種目の選択にあたっては、同一時間内に担当指導教員が選定する種目の中から選択する。	
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	(教員免許状を取得する為には、必ず健康・スポーツ科学実習ⅠとⅡをセットで履修すること) この授業は、身体運動が人間の身体機能に与える影響を、理論と実践からアプローチするものである。授業内容は、講義と実践(実技)の統合である。講義では、体力に主眼をおき、自己の体力水準を把握・評価するとともに、体力とのかかわりを理解し自らの体力増進をはかるものである。学習成果としては、体力と身体の基礎的知識理解、自らの体力に気付き改善する実践力、スポーツ活動により自己基礎体力維持を目的としている。(スポーツ種目は硬式テニス、バドミントン、卓球、トレーニング、バレーボール、バスケット、ソフトボール、サッカー等があるが指導教員が指定する。)	
	レクリエーションスポーツ	この授業は、多様なスポーツを体験し、技能を高めながら活発なコミュニケーションをはかり、新たなスポーツとの出会いをはかる。学習成果としては、スポーツの楽しさを体験、コミュニケーション能力を高め学生生活を充実させることにつながるライフスキルの修得、スポーツ実践によって生涯スポーツに発展させる事を目的としている。(スポーツ種目については、2種目から3種目を指導教員が指定する。)	
	生涯スポーツ実技	この授業は、生涯にわたってスポーツを継続し、自己の健康を保持できるようにし、スポーツ文化の生活化をはかる。学習成果としては、スポーツ活動を基に生涯を通してスポーツを楽しむ豊かな交流ができる、自己の健康維持を目的に生涯スポーツ実践ができる、スポーツが生活の一部として実践できる環境づくり、また人生を豊かにする為の余暇利用方法の基礎的能力を養うことを目的としている。(種目としては、トレーニング・ゴルフ・バドミントン・卓球・硬式テニス・レクリエーションスポーツ等があるが、指導教員が指定する。)	
	学外スポーツ	平成28年4月1日から「障害者差別解消法」がスタートし、障害のある人もない人も、共に生きる共生社会を作ることを目指しています。このことに鑑み、運動制限のある人の種類や程度に適応させたスポーツを行うことを中心とする授業です。学内と学外ウォーキングを中心に、また誰にでも参加できるスポーツとして体操や卓球を運動制限がある人もない人も、ともにスポーツに参加し、共生社会の実現についての理解を深めることを目的とします。 (実施は、冬期2月初旬に学内と学外ウォーキングを行う。) 授業上の安全のため、受講希望者が多い場合は、履修者の人数制限(上限35名)を行うことがある。	
英語基礎系	英語Ⅰ	高校までに学んだ英語の基礎を再度学習し直す。アルファベットから始まり、音、書体、符号、品詞など、英語を理解するのに不可欠な基本ルールである初歩的な文法事項を中心として、英語の基本を確実に理解し修得することを最大の目標とし、TOEICテストにも対応できるような基礎力を修得する。クラスでは適宜、基本語彙とともに平易な会話表現や作文なども学習する。	
	英語Ⅱ	英語Ⅰで学んだ英語の基礎をさらに確実なものとするために、基礎的な文法事項をより詳しく学び、基本事項を理解し修得することを第一目標とし、TOEICテストにも対応できるような基礎力を修得する。英語Ⅰと同様にクラスでは基本的な語彙の他、易しい日常会話表現や作文なども適宜学習する。	

共通基盤教育

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
英語基礎系	英語Ⅲ	英語Ⅰと英語Ⅱの学習内容を土台として、さらに基本的な語彙力と文法・構文力を身に付け、それらを総合的に活用して身近の事柄に関する比較的易しい文書が理解でき、それらについて基本的な文章を書いたり話したりすることができるようにし、TOEICテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。		
	英語Ⅳ	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲの学習内容を土台として、さらに基本的な語彙力と文法・構文力を身に付け、それらを総合的に活用して簡単な説明文を理解し、図表などを読み取ることができ、日常生活での話題や関心のあることについて自分の考えを述べ、英語で出された指示などを理解することができるようにし、TOEICテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。		
	英語Ⅴ	英語Ⅳまでの学習内容を土台として、より高度な英語の説明文を理解し、より実用的な文章から必要な情報を十分に読み取ることができ、社会や日常生活の出来事についての確に説明することができる英語力を身に付けることを目標とし、TOEICテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。		
	英語Ⅵ	英語Ⅴまでの学習内容を土台として、より社会性の高い、幅広い分野における文章を十分に理解でき、この話題についての確に説明し、自分の意見を述べ、これについてまとまりのある文章を書くことができる英語力を身に付けることを目標とし、TOEICテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。		
	共通基盤教育	英会話Ⅰ	この授業は、ネイティブ・スピーカーにより、ネイティブの発音に慣れ、「リズム」と「ストレス」で成り立つ英語音を理解する。英語コミュニケーションの基本的表現、日常生活の中の英単語や英語表現を学びこれを活用するための演習を行う。また、TOEIC(R)テストの対応に有効なディクテーションを行い国際的な感覚を学ぶ。	
		英会話Ⅱ	この授業は、ネイティブ・スピーカーにより、英会話Ⅰよりナチュラルスピードに近いネイティブの発音に慣れ、音としての英語を理解する。英語コミュニケーションの基本的表現、日常生活の中の英単語や英語表現を英会話Ⅰに続き学びこれを活用するための演習を行う。また、TOEIC(R)テストの対応に有効なディクテーションを行い国際的な感覚を学ぶ。	
総合英語演習		リスニング、ディクテーション、語彙問題を中心としたe-Learningの演習課題を授業内でおこなっていくことを通して、基礎的な文法事項・語彙・英語表現を修得し、日常生活における身近な事柄に関して、コミュニケーションをとることができる力を身に付けることを主眼とし、TOEICテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。		
TOEICⅠ		TOEICテストスコア500点以上を目標としながら、英語Ⅵまでに学んだ内容を土台として、社会人に必要とされる高度で、総合的な英語力を身に付けることを主眼とする。具体的にはTOEICのテスト形式に沿った形で、リスニングおよびリーディングの力を向上させることを中心とする。		
TOEICⅡ		TOEICⅠで修得した学習内容を土台として、TOEICテストスコア550点以上を目標としながら、社会人に必要とされる高度で、総合的な英語力を身に付けることを主眼とする。具体的にはTOEICのテスト形式に沿った形で、リスニングおよびリーディングの力をより向上させることを中心とする。		
言語応用系				

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
言語応用系	日本語表現技術	1年次前期の「スタディスキル」で学んだことを活かし、更に高度な文章表現の技術、コミュニケーション技術を学ぶ。「スタディスキル」では、特に大学生活で必要最低限の事項を優先的に学んだが、「日本語表現技術」では、より考えを深め、より効果的に表現するためのスキルを身に付けることを目標とする。 ライティング能力および論理的思考を身に付ける為の基礎的な演習を行い、実用的にも書くための基本論な事項について、また論理的に書くとはどのようなことか、主張を明確に伝えるとはどういうことかを学んでいく。具体的には、文章の形式、構成法、主張と論拠の立て方、文献の引用の仕方、テーマの深め方等を学び、学期後半では報告やプレゼンテーションの発表、質疑応答等を行いながら、公的な場におけるコミュニケーションのスキルを学ぶ。	
	プレゼンテーション技術	プレゼンテーションとは、単に人前に出て話せばいいというものではない。いかに「説得的に伝達するか」が重要な課題となる。その為には「論理的に考え」「要点をまとめて整理し」「聞き手の立場に立って表現する」という三つの要素と、これに付随する様々な技術の修得を要する。 本授業では、そうした基礎的な要素をふまえて、プレゼンテーションの事前準備から、シナリオの作成、伝達技術、そして質疑応答に至るまでの、より高度なプレゼンテーション技術の修得を目標とする。進め方としては、社会に出てからの実践にもつながる技術上の知識やメソッドを学びながら、実際のビジネス分野でのヒット商品の企画書やプレゼン資料などを読み解き、批判・批評的な意識を高める。また、実際のプレゼン発表・質疑応答を通して、体系的に技術を修得していく。	
	技術文章の書き方	技術者にとって研究報告書・論文・技術的なマニュアルの作成はコミュニケーション手段の一つとして欠かせないことである。本科目は技術者に必要な技術文章のまとめ方、マニュアルの作成方法をマスターし、ライティング技法も身に付け、卒業研究論文等の技術文章を書けることを目的とする。具体的に、技術文章の構成、各専門分野に関する専門用語、表やグラフの作成、技術文章の具体例（技術報告書、取り扱い説明書等）を学習する。	
共通基盤教育	身の回りの数学	高校から大学までの数学を三つの分野に分けて学ぶ。 第1分野（数、数式、図形の基本的な扱い） 数の概念、数の表記、数列の考え方、方程式の立て方、三角比と図形 第2分野（論理的な考え方、物事を整理し考える方法） 論理と思考、数え上げ、確からしさと確率、データの統計処理 第3分野（社会や自然に関する知識の基礎的な事柄の理解） 指数関数的増減と対数スケール、変化率と微分、面積と積分	共同
数理情報系	実感する科学I	身の回りや生活の中の自然現象や科学技術などを題材にして、自然科学の基礎的な内容を学ぶ。原子・分子に始まり生命や地球まで、この世界をつくる「物質」と、物質が動く源である「エネルギー」を軸にして、物理・化学・生物・地学の4分野が、よく関連していることを感じてもらう。授業は、一方的に知識を詰め込む講義形式ではなく、双方向的に進め、簡単な演示実験や動画も活用して、「意味をつかむ」「考える」「体験や知識を互いにつなげる」といった姿勢で学ぶことの大切さを感じてもらうことを目的としている。そうした「知の実感」とともに、数量的なスキルを鍛える計算や、数式とグラフの扱い方などの演習にも十分な時間をかける。取り上げる題材は、物質と原子、エネルギー、食事と栄養、速度と加速度、地震と火山、汗はなぜ身体を冷やす、気象、遺伝、DNA、身近な電気、原子力発電、地球温暖化などである。	共同
	情報リテラシー	コンピュータとネットワークの基礎知識を知り、技術者として必要な情報技術に関する基本スキル、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を身に付けることを目的とする。具体的に電子メールを利用した各種情報のやり取り、セキュリティに関する心構え、文章作成ソフトWord、表計算ソフトExcel、プレゼンテーションソフトPower Pointの使用法等を学びながら、これらを活用した学習ノートや実験報告書の作成、学習情報やデータの整理・集約および学習成果発表資料の作成を実践的に行える。また、専門分野に応じて、より応用的な内容も修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 礎 導 入 科 目	化学基礎	生物は生命の維持のため、外部からの物質を摂取し、また必要とする物質を合成している。そこで、多種多様の化学物質が関与している。「化学基礎」では、生命現象に関わるこれらの物質を理解する上で必要となる化学の知識、特に、原子や分子の構造や性質、化学結合や化学反応また化学量論等について高校から大学の基礎化学の初歩のレベルで学習することを目的とし、生化学や食品学などの専門基礎科目の理解へとつなげたい。	
	化学基礎実験	「化学基礎実験」では、実験を行っていくために必要な基本的な知識を身に付けることを目標としている。特に、実験を行う場合、化学物質の性質や安全性を理解することは不可欠である。本実験では、まず化学実験を行う上での安全性についてしっかり学んだ後、実験ノートの取り方やレポート、フローチャートの書き方、器具の名称や取り扱い方なども学習する。滴定実験等を行う中で、各種実験器具を正確に操作でき、データをまとめる力が身に付くことが到達目標である。	
	生物学概論 I	後期に開講される生物学概論Ⅱと併せて履修するのが望ましい。教員免許(理科)取得希望者必修)生物体とそこに起こる生命現象を平易に解説してゆく。 前半は、生物の多様性を理解したうえで、生物を構成する基本単位である細胞の構造と機能について、そして生命活動に必要な化学反応、物質代謝とエネルギー交代について学ぶ。後半は、遺伝現象および生殖、発生について説明する。遺伝現象では基本的なメンデル遺伝から遺伝情報の保存、および発現の機構を今日的な情報を織り交ぜながら紹介してゆく。発生では動物について、受精から成体になるまでの過程、および仕組みについて学習する。	
	生物有機化学	食品を含めた生物が生み出す成分のほとんどは有機化合物から成り立っており、これらの成分の構造的変化によって生命活動が維持されている。この講義では生命現象を十分理解するために必要な有機化学的基礎知識の修得を目的とする。前半は、有機化合物の基本的構造、命名法、官能基による化学的特徴などの基礎について学習し、後半は、実際に生物に含まれる有機化合物(糖・アミノ酸・脂質・ビタミンなど)の構造と酵素反応による構造変化について学習する。	
	生命科学概論	本講義では、生命科学の基本的な事項を学び、生命現象への理解を深めると同時に、個々の栄養素が持つ分子情報を各種疾患発症や予防の側面からタンパク質、糖質、各種ミネラルおよびビタミンの持つ分子情報と生体内代謝を理解することを目的とする。また、生命を維持していく仕組みについても学習する。	
専 門 基 礎 科 目	社会・ 環境と 健康 栄養生命科学概論	生活習慣病などの問題点が増加する中、それらの予防や治療、QOLの向上にあたって、乳幼児から食の大切さや楽しみがわかるような栄養指導が必要とされる。栄養生命科学概論では、栄養改善の歴史、栄養指導の意義、栄養士・管理栄養士の活動分野、関係法規、栄養指導などの概論について講義し、「管理栄養士」の任務の重要性および必要な資質を理解させる。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会・ 環境と健康	健康管理論	<p>(概要) 管理栄養士を目指す学生において、将来それぞれの職場で、管理栄養士として活躍するための健康増進と疾病予防を図るために必要とされる最新の公衆衛生的内容を網羅した学習内容を習得し、実践できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 岡田知雄(専任) 12/15回) 国・自治体の健康施策変化への対応、保健統計の読み方、集団を対象とした調査研究方法などの基本的な学習項目、および、従来からの公害や職業病の事例や保健医療制度の歴史も踏まえた総合的な社会・環境と健康を学ぶ(13回)。特に、近年課題の多い、</p> <p>(67 阿部百合子(非常勤) 3/15回) 特に、成人保健、高齢者保護・介護及び福祉問題は新たな問題対応について講義し、必要な職場で実践できる素地を養うことを目的とする。</p>	オムニバス
	公衆衛生学	公衆衛生学では、社会や環境と人間の生活・健康との関わりについて理解するとともに、わが国における公衆衛生の現状と対策について理解を深めることを目標とする。講義内容としては、公衆衛生の概念、公衆衛生の歴史、健康の概念、健康障害の発生要因と公衆衛生、疫学の基礎と方法論、衛生行政の仕組みとその活動、公衆衛生活動の現状と課題、労働衛生、環境衛生、公害、感染症の疫学と予防、保健統計、関連法規、国際保健、WHOの機構と機能、国際協力等について講述する。	
専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ	身体を構成する要素を総論で、体外から物質を取り込む系の構造と機能を消化器系で、体内に取り込んだ物質を全身に運搬する系の構造と機能を循環器系、血液・リンパ系で、体内の老廃物を排泄する系の構造と機能を泌尿器系で、種族維持を生殖器系で講義する。特に、栄養学と密接な関係を持つ消化器系では食べ物に含まれる栄養素が体内でどのように消化と吸収され、調節されているのか、他の科目と関連させて理解して欲しい。	
	解剖生理学Ⅱ	解剖生理学Ⅱでは、人体の周囲環境からどのように情報を得るのかを感覚器系で、情報を伝達し、それがどのように認識、判断、記憶されるのかを神経系で、体の生体機能の調節が何処でどのようにされているのかを内分泌系で、体のガス交換に働く器官を呼吸器系で、体の支えと内部器官の保護に働く器官を骨格・筋系で、体内への侵入者から体のように守るのかを免疫系で講義する。特に、ここで学ぶ系の多くが体の恒常性維持の調節に重要な役割を果たしている。その恒常性維持機構と恒常性の崩壊と疾患の発生関係を理解して欲しい。	
	解剖生理学実験	人体の構造や機能を系統別に座学で学び、生化学、病理学、栄養学と総合的に結びつけられる様に人体の全体像をとらえる。しかし、座学から得られた知識のみで人体の全体像を理解、定着させるためにはかなりの時間を必要とする。そのため人体のいろいろな組織を顕微鏡で観察したり、生体内で起こる生理機能(血糖の測定、血圧、反射機能等)を自分自身で実際に確認、体験できる生理学実験を加えることで理解させ易くする。	
	生化学Ⅰ	生化学は、栄養学や食品学などを含むほとんど全ての生物科学の基本となる学問である。生化学Ⅰでは、主として生命現象の営みを担っている細胞の構造と機能を、分子レベルで理解出来るようになるための基本的な事項について学ぶ。すなわち、細胞を構成している細胞膜や細胞内各小器官の構造と機能、細胞の構成成分である生体物質(糖類、タンパク質、脂質、核酸など)の構造と機能、およびそれらの代謝の基礎的な知識について学ぶ。	
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち			

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 専門基礎科目	生化学Ⅱ	生化学Ⅱでは、生化学Ⅰで学んだ「細胞の構造と機能や生体物質の基本的な性質と機能」を理解した後、生命の高次現象である栄養などに直結する問題について、三大栄養素を含む「生体物質の代謝とエネルギー獲得」の機構を学ぶ。また、体を構成しているタンパク質の合成を理解する上で重要になる「遺伝子の発現と制御機構」やさらに、「免疫のしくみ」についても学ぶ。	
	生化学実験Ⅰ	生化学実験Ⅰでは生体成分と生命現象に関連した実験を行う。実験動物から組織を採取し、その細胞分画を行い、その中に含まれる代謝酵素に関する実験を行う事、さらに実験動物の血漿を用いての臨床生化学検査（グルコース濃度やインスリン濃度の測定）、また遺伝子に関する実験などの手法についても学習する。	
	生化学実験Ⅱ	生化学実験Ⅱでは、生化学実験Ⅰに引き続き、核酸やタンパク質の性質を理解する事を中心に実験を行う。具体的には酵素の精製やKm値の測定手法を学ぶ事で、酵素の特性を理解する。また、自分の口腔粘膜からDNAを抽出し、それを用いて、遺伝子多型(SNP)があるかどうかについての実験も行う。	
	微生物学	微生物は自然界では物質循環や環境保全など多様な役割を担っているが、人体においても健康に関与する重要なはたらきを数多くもっている。このような有用な微生物が存在する一方、食中毒などの病気の原因となる微生物も多く知られており、これらに対する特別な対処法が栄養および食品の関連分野では必要とされる。病原微生物による疾病を防ぐためには、微生物についての十分な理解が基礎知識として求められる。とくに、微生物の分類、生育条件、増殖方法、変異現象とその機構に関する知識を修得し、疾病の感染防御を徹底するうえで基礎事項を理解させる。	
	微生物学実験	微生物学実験に必須の無菌操作（滅菌、培地調製、接種、培養）と菌株調製（純粋分離）の技術を身に付けると共に、細菌、酵母、糸状菌をそれぞれ培養して染色し、顕微鏡により微生物の形態的な特徴を観察する。また、微生物の活性は、条件により著しく変化する。食品の微生物学的な安全性を理解する上で重要である、培養条件および死滅条件（温度、pH、水分活性など）について、身に付けた無菌操作を駆使し細菌や酵母を用いて学ぶ。	
	病理病態学Ⅰ	解剖生理学で学習した正常人体の構造と機能の知識を基に、疾病がどのような原因で起こるのか、ヒトが正常から疾病へ至る過程を分子・細胞から個体レベルまでを解説する。また、疾病が起こったときの分子や細胞・組織の異常、症状や臨床検査の異常を正常時と対比させながら講義し、症状や臨床検査結果から病態を把握できる様に指導する。特に、生活習慣病と関連ある分野に関しては詳説する。	
	病理病態学Ⅱ	病理病態学Ⅱでは、特に栄養療法が重要な治療となる消化器疾患、代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、呼吸器疾患、感染症、免疫アレルギー疾患等のほぼ全域にわたる内科疾患を主とし、他に先天性代謝疾患等の小児科領域、骨疾患等の外科領域も含み、それぞれに、症状、病態生理等の疾病の本質を理解し、専門的な医学知識を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 礎 科 目	食品学Ⅰ	日本人の食生活や食環境を概観した上で、食品の果たす機能を理解するため、食品に含まれる成分について化学的な側面、各成分の機能的特徴について解説する。即ち、主要成分である糖質、脂質、タンパク質、ミネラル、ビタミンを中心的に解説するとともに、その他の食品成分についても述べる。食品学Ⅱと合わせて食品学の入門講義が完結し、食品学の基礎の上に貯蔵を含めた食品加工学が成り立つのである。食品全般の基礎講義であるため、食品成分のもつ反応性、酸化、分解なども解説し、嗜好成分、成分間の関連についての理解も図る。	
	食品学実験Ⅰ	食品を構成する成分を理解させるために、食品に含まれる主要成分の定量について実際に実験し、その算出方法を学習させる。成分として、水分量、粗タンパク質量、粗脂肪量、粗糖量、粗灰分の定量を行う。各種の食品に関する成分値は、実験によって求められたデータによって成り立ち、適切な食品選択の量と質を決定する上で重要であることを理解するようにする。	
	食品学Ⅱ	食品は大きく動物性食品、植物性食品に分類されるが各食品群ごとに栄養上の特色が異なるので、各食品ごとに、性状・利用・含有栄養素や特殊成分について講義し、各食品群の栄養的特性、嗜好特性等についての理解を深める。また、食品は色々な食品群を組み合わせる調理加工されることも理解した上で、食品における成分間反応についても学習し、貯蔵を含めた食品加工についても概説する。また、個々の食品に含まれる多様な成分の持つ一次機能・二次機能・三次機能について学習する。これらの成分が健康の維持増進に与える役割について理解し、各食品の利用性を把握することを目的とする。	
	食品学実験Ⅱ	食品の実体を実験科学的に理解することを目的とし、食品中の微量成分の分析並びに、食品成分の性質を知るための実験を行う。実際の食品から目的成分を抽出し、定量する手法を学習する。分析手法として機器分析を多用しその原理・手法を学ぶ。食品成分の化学的性質を理解した成分抽出方法やクロマトグラフ質量分析法などの最新の分析法についても知ること、食品成分の分析法についての認識を深める。	
	食品衛生学	衛生的な食品の扱い方、および食の安全に関する知識を得るために、基礎的な微生物学を学び、食品の腐敗、化学物質による汚染・混入・生成、天然の有害成分と食中毒、食品添加物、農薬といった項目について学習する。大量調理施設における安全な食の提供に必要な危害分析と重要管理点(HACCP)、食品安全に関わるリスクアナリシスといった食品衛生の実践応用について理解する。	
	食品衛生学実験	食品の安全は食品材料を厳選することの他、製造時および製品の厳重な衛生管理によって保たれるが、そのチェックとして種々の化学検査および微生物検査が行われる。実際の食品中における微生物の検出方法(公定法および遺伝子検査)、食品中に含まれる食品添加物や農薬などの検出方法、食品の容器などからの成分の溶出などについて実験する。これらの食品の検査を実際に行うことにより、食の安全性を担保する原理と手法の基礎を修得する。	
	調理学	調理学では、食品の「安全」「栄養」「嗜好」にもとづいた食事計画・調理環境・調理操作などを調理科学的視点より基礎と応用を学ぶ、さらに食のコーディネーターとしての視点で調理理論を捉え、応用・発展させていく力を養う。調理の社会化、調理操作による食品材料の化学的・物理的変化、調理の形態的特徴、献立作成を含む食事計画の基本知識、食品成分表の活用、「食」をとりまく情報、および問題点について理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目 食べ物と健康	調理学実験	調理学実験では調理過程で起こる様々な食品成分の科学的変化を観察し、その食品の特性を知ることが目的とする。また、調理過程において食品の組織がどのように変化するかについて物性測定（テクスチャー特性、粘度測定など）などを交えて学習する。併せて、官能評価の手法を用いて、食品の調理方法による食べやすさの違いを検討する。これらを通して、調理に関する諸現象を科学的に解明し、食生活の実践に役立つ基本的な理論や考え方を修得する。	
	調理学実習 I	調理の基礎を修得する事を目的とし、基本となる食材の取り扱いや技術を日本料理、中華料理、西洋料理を通して学ぶ。栄養のバランスを考えた献立、素材の旬や持ち味を生かした調理品、より美味しく安全で消化吸収しやすいような調理方法、食文化を背景としたその国独自の調理方法、また、調理機器の特性を理解しての調理操作等を取り入れた実習を行う。	
	調理学実習 II	<p>(概要) 調理学実習 I で学習した基礎をふまえて、さらに高度な調理技術を学ぶ。また、実習内容には行事食、加えて「ライフステージ別の応用栄養学実習」「臨床栄養学実習」「給食経営管理実習」など、専門分野の実習に必要な基礎知識、調理技術、献立作成方法についても学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 高橋智子 (専任) 13/全15回) 調理学実習 I 基礎技術をふまえ、さらに高度な管理栄養士として必要な調理技術を学ぶ。クリスマス、正月料理など行事食の調理技術についても学ぶ。</p> <p>(70 増田邦子 (非常勤) 2/全15回) ライフステージ別の応用栄養学実習に含まれる、摂食機能が低下した高齢者のための食事調製技術を学ぶ。</p>	オムニバス
専門科目 基礎栄養学	基礎栄養学	基礎栄養学では、基礎栄養学概論で学んだ糖質・脂質・たんぱく質に引き続き、ビタミンやミネラルの働きについて学ぶ。ビタミンやミネラルが糖質・脂質・たんぱく質の生体内での利用にどのように関わっているかを学ぶ。また、水の代謝やエネルギー代謝についても学ぶ。摂取した各種栄養素が吸収され体内で代謝・利用される過程、およびその過程でそれぞれの栄養素がお互いにどのように関わっているかを理解することで、「バランスの良い食事」の意義を理解する。また、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。	
	基礎栄養学実験	実験動物に、栄養条件の異なる飼料を給餌して、動物の成長・カルシウム出納・骨成長・血液カルシウム濃度などを観察・実験し、食事内容の重要性を認識する。また、食事摂取基準策定の根拠となっている、栄養素出納の基礎実験を体験し、食事摂取基準への理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部管理栄養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	応用栄養学Ⅰ	<p>応用栄養学は、健康の維持・増進および疾病の予防を目的とした食事・栄養管理の基礎を学ぶ科目である。人間の誕生、成長、加齢の各時期（ライフステージ）において生理的な特徴が異なるため、各期で栄養管理の面で問題となる内容は異なってくる。人間の生涯を、胎児期、新生児期、乳児期、発育期（幼児期、学童期、思春期）、成人期、更年期、高齢期に分類し、各期での栄養管理の考え方について学ぶ。また、人間が運動や職業などで特殊な環境に置かれることもある。そのような特殊環境の状況での栄養管理の考え方についても学ぶ。</p> <p>応用栄養学Ⅰでは、ライフステージや特殊環境での食事・栄養摂取内容（必要量）についての考え方（食事摂取基準）とその科学的根拠を理解する。その上でライフステージのうち、妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期までの各期に応じた栄養管理について学ぶ。すなわち、各期での生理的特徴を理解し、栄養評価（アセスメント）および栄養管理（ケア・マネジメント）の基本的な考え方と方法を学ぶ。</p>	
	応用栄養学Ⅱ	<p>応用栄養学Ⅱでは、応用栄養学Ⅰに続き、ライフステージ中の学童期、思春期、成人期、更年期、高齢期の各期の栄養管理を学ぶ。応用栄養学Ⅰと同様に、各期での生理的特徴を理解し、栄養アセスメント、栄養ケア・マネジメントの基本的な考え方や方法を学び、各期の食事改善、リスク管理についての考え方を修得する。</p> <p>応用栄養学Ⅰに引き続き、異なるライフステージの栄養アセスメントおよび栄養ケア・マネジメントを学ぶことにより、栄養アセスメント/ケア・マネジメントについての理解もより深める。</p>	
	応用栄養学Ⅲ	<p>応用栄養学Ⅲでは、特殊環境に置かれた状態での健康の維持・増進および疾病の予防のための食事・栄養摂取の考えかたを理解する。運動時、ストレス時、高温・低温環境、高圧・低圧環境、無重力環境などの各種特殊環境下における生理的特徴を理解し栄養学的な問題点を把握した上で、これらの状況下に置かれた対象者の栄養アセスメント、栄養ケア・マネジメントについての考え方を修得する。健康の維持・増進および疾病の予防（たとえば、生活習慣病予防）のための栄養管理に運動が重要であることについても理解を深める。</p>	
	応用栄養学実習	<p>（概要）乳幼児期から高齢期に至るまでの各ライフステージに対応した食事の調製方法、および対象者に応じた実践的な栄養マネジメント方法・献立作成、および特殊環境下における栄養について、専門的な知識・技術を学ぶ。個人の栄養状態の評価・判定をするために、体組成やエネルギー代謝などの正確な測定方法を理解し、測定した結果を総合的に考察して個人の栄養状態の判定・評価について学習する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（3 高橋智子（専任） 1/全15回）応用栄養学実習の概要の講義。</p> <p>（10 澤井明香（専任） 6/全15回）栄養アセスメント、食事調査を中心に実習授業を行う。ライフステージ別の栄養管理では成人期、妊娠授乳期等を担当する。</p> <p>（70 増田邦子（非常勤） 6/全15回）ライフステージ別栄養管理では乳児、成長期、高齢期を担当する。乳児期、成長期、高齢期の食事管理について、実習を通して学ぶ。</p> <p>（71 上村香久子（非常勤） 2/全15回）スポーツ栄養を中心とした特殊環境下の栄養管理について学ぶ。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	栄養教育論Ⅰ	栄養教育論Ⅰでは、まず、栄養教育・指導の概念・定義について学び、管理栄養士として必要とされる知識・技能について理解する。次いで、栄養教育の目的、栄養指導・栄養教育の沿革とそれぞれの時代における食生活と社会・経済的背景等について理解を深める。また、健康・栄養知識の理解と定着、動機付け、食態度の形成、食スキルの修得、食行動の変容と維持、栄養・食生活情報の評価と選択、自己管理能力の修得、対象のライフステージ、ライフスタイル、健康状態からみた対象のとらえ方、教育・指導の場、栄養指導(栄養教育)の法的根拠等について講述する。	
	栄養教育論Ⅱ	栄養教育論Ⅱでは、食行動の変容と行動科学、個人、集団社会の行動変容に関する理論の応用、行動療法的アプローチ、栄養食生活情報の入手方法、情報の分析・評価法、対象に応じた栄養教育カリキュラムの立案、栄養教育方法の選択、教育指導形態、カウンセリングの概要、カウンセリングの技法と応用、教材の種類・特徴、教材の作成、コミュニケーション技法、栄養教育の実施、栄養教育関連組織・従事者・管理者の連携等について講述する。	
	栄養教育論Ⅲ	栄養教育論Ⅲでは、栄養教育論Ⅰ、Ⅱで修得したことを踏まえて、対象のライフステージまたはライフスタイルに対応した栄養教育・指導のあり方と技法について理解する。講義の内容としては、妊娠・授乳期の栄養教育・指導の実際、乳・幼児期の栄養教育・指導、離乳、保育と栄養教育・指導、学童期、思春期、成人期、高齢期の栄養教育・指導の特徴と実際、寝たきり予防と介護、食事サービスに関わる栄養教育・指導のあり方、進め方、障がい者の栄養教育・指導、栄養教育・指導の国際的動向等について講義する。	
	栄養教育論実習Ⅰ	栄養教育論実習Ⅰでは、栄養教育論で修得したことを踏まえて、栄養教育・指導の実践活動において必要とされる事柄について実習を通して修得することを目標とする。実習の内容としては、個人を対象として、対象者の栄養アセスメント法、栄養教育プログラムの作成法、カウンセリングテクニックや行動科学理論に基づいた栄養教育の実践法についてロールプレイングおよび実践を通じて実習する。	
	栄養教育論実習Ⅱ	栄養教育論実習Ⅱでは、対象者を集団に設定し、統計学的手法に基づいて集団における健康状態や栄養状態を評価し、集団の課題にもとづいた栄養教育の企画・立案・実践法について修得する。特にライフステージ別に、その集団の特性を活かした集団栄養教育法について、栄養教育プログラムの作成、教材の考案と作成、効果的なプレゼンテーション能力を修得することに力をおいて実習する。	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	臨床栄養学では、さまざまな疾病について、病態の成因、進展、治癒に栄養学がどのように関わっているか、また、各々の疾患、病態に対してどのような栄養療法を適応すべきかについて基礎的に学ぶ。 Ⅰでは、各種疾患に共通する病態、栄養状態の特質や薬物と栄養、食物の相互作用について学び、適切な栄養管理を行うために必要な栄養評価法、栄養補給法等についての知識・能力を修得する。傷病者の病態や栄養状態の特徴を理解した上で、栄養状態を判断するための臨床検査値の見方、適切な栄養補給の選択方法を学ぶ。また、医療保険制度について理解を深め、医療制度における栄養管理のあり方、管理栄養士の役割などについて学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
臨床栄養学	臨床栄養学Ⅱ	代謝疾患、消化器疾患、腎疾患を中心とする患者の適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互の作用について修得する。	
	臨床栄養学Ⅲ	内分泌疾患、血液系の疾患、免疫疾患や小児、妊産婦を中心とする患者、また術前術後やクリティカルケアなど適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育について修得する。	
	臨床栄養学Ⅳ	壮年期や高齢期の身体状況と疾病の成立、病態、治療について学習し、栄養管理法を修得する。老年症候群、咀嚼障害や嚥下障害などの摂食機能障害、介護保険、筋・骨格系疾患、神経疾患、呼吸器疾患等における栄養ケアプランの作成、実施、評価、栄養管理および食事介助等がその内容に含まれる。	
	臨床栄養学実習Ⅰ	傷病者の病態や栄養状態の特徴を把握し、疾患・病態別にそれぞれの個人に対応する栄養管理を行うための技術を修得することを目的とする。臨床の場における疾患別献立作成、他の治療食への展開、調理技術等を学習し、供食してその疾患の特質、検査値等を理解する。本実習では次の内容を取り扱う。疾患別（糖尿病、腎臓病、肝臓病、高血圧症、膵疾患、脂質異常症等）に栄養食事計画を作成し病態に即応した食事療法の基本方針と技術を修得する。	
	臨床栄養学実習Ⅱ	臨床検査を大別すると検体検査（血液・尿他）、生体検査（心電図他）などがあり、各々の検査項目とその基準値等から、疾患と病態の把握を行う。ここでは、一般的によく見られる検査所見から栄養状態の把握、治療の効果、予後の判定など検査の進め方を症例を用いて学び、栄養管理計画書の作成（栄養補給ルート、推定必要栄養素量の決定等）、栄養教育の内容の検討等を行い、実践的な技能を養う。	
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	公衆栄養の歴史と意義、わが国や諸外国における健康・栄養問題を理解するとともに、これらに対応するために実施されている施策について学ぶ。また、栄養行政と関係法規、栄養士と栄養士制度の仕組みを理解する。
公衆栄養学Ⅱ		地域集団や職域等における保健・医療・福祉・介護システムにおける栄養関連サービスを総合的にマネジメントするための理論と方法について学ぶ。また、実際に行われている公衆栄養プログラムの具体的取り組み事例から、地域・公衆栄養活動についての理解を深める。	
公衆栄養学実習		公衆栄養学Ⅰ・Ⅱで学んだ基本的な知識に加え、公衆栄養活動に必要な技法を修得することを目的とし、小グループにわかれて実習を行う。地域や職域等の健康・栄養情報を収集・分析・診断し、その改善のための活動・事業とそのマネジメント、活動・事業評価などに関する実習を行う。個人や集団における栄養摂取量の把握、国民健康・栄養調査データの解析、食事・栄養素摂取量のデータ処理・統計解析などから公衆栄養活動の実践的な活動技術・技法を修得し理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	給食経営管理論 I	給食業務に携わる管理栄養士は「食」に関する学問を幅広く知り、関連法規、行政指導など正確な知識を持つとともに、給食を経営管理する能力が求められる。本講では、給食対象者を的確に把握し、栄養・食事管理を効率的、かつ効果的に継続して実施していくために必要な献立管理、食材管理、衛生管理、作業管理、大量調理などの給食実務について経営管理の理論に基づき学習し、給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力の修得を目的とする。	
	給食経営管理論 II	給食とは、病院、事業所、学校、福祉施設等において、特定かつ多数人に対して継続的に食事を提供することであり、栄養管理を基礎とし、安全で喫食者が満足する食事を経済性を考慮して提供することが必要とされる。本講では、マーケティングの原理や応用、経営管理や生産管理の理論や方法を給食に応用展開する知識と技能を養うことを目的に、各種給食施設でのフードサービスの現状などを踏まえて経営管理の基礎を学ぶ。さらに、多種複雑な事務管理の省力化、迅速化、合理化を図るためコンピュータを導入し、給食経営管理が出来る技能を養う。	
	給食経営管理実習	給食経営管理論で学んだ理論に基づき、給食業務の流れや大量調理の実際について学内の給食管理実習室で体験的に学習する。実習は、HACCPの概念に基づき整備された実習厨房において、グループごとに給食運営の計画を立案し供食サービスを行う。栄養基準量に基づいた栄養・食事計画、献立作成・発注・検収・大量調理・残食量調査などの生産管理、HACCPによる衛生管理、経費の出納、評価までの業務内容の実際を把握し、給食管理業務における管理栄養士の役割を理解する事を目的とする。さらにコンピュータを導入し、献立作成や食材発注、栄養出納表等の事務管理の基本を体得する。	
	総合演習	臨地実習を行うにあたっての事前説明、管理栄養士としての心構えや知っておくべき知識等を学習する。また、実習後の反省や課題等をディスカッションすることで臨地実習の効果をあげることを目標とする。特に、臨地実習後には管理栄養士として得られた知識や課題等を臨地実習報告会において発表し、専門分野を横断して、その施設等の利用者（地域住民、児童・学生、従業員や療養者等）に対する栄養評価や管理を行うための思考、判断力、行動力などの総合的な能力を養う。	
総合演習・ 臨地実習	給食運営臨地実習	特定給食施設において、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービスの提供等に関し、管理栄養士・管理栄養士として具備すべき知識および技術を修得する。実習は、事業所や給食センターなど健常者を対象とした特定給食施設において、給食の運営に必要な献立作成、材料の発注、検収、調理作業、配膳、サービスなどの基本的業務について実地に体験する。実践活動の場での課題発見、問題解決への取り組みを通して適切な給食実務を行うために必要とされる給食の運営に関する専門的知識および技術の統合を図る。具体的には学校給食センターや社員食堂等で実習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合演習・ 臨地実習	給食経営臨地実習	「給食経営管理論Ⅰ」「給食経営管理論Ⅱ」で修得した知識と「給食経営管理実習」で体得した技術を基礎に、給食の運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を実践活動の場で養う。実習では、各実践現場での食事生産システムの特徴を理解した上で、喫食者のアセスメントとマーケティング理論を活用して、食事提供プランを立案、実践、評価から一連の給食経営を学ぶ。特にこの科目では生産システムの科学的分析とITを活用した情報提供の可能性について課題を発見し、問題解決策を検討することにより専門知識および技術の統合を図る。具体的には病院、社員食堂やセントラルキッチン等で実習を行う。	
	臨床栄養A臨地実習	臨床栄養に関する知識や技法を基に、3週間、病院等医療の実践の場で傷病者の病態や栄養状態の評価判定に基づいた適正な栄養マネジメントの考え方や実際について学び、課題発見、問題解決を通して専門的な知識および技術の統合を図ることができるようになることを目的とする。また、チーム医療、多職種との連携についての理解をより深めるとともに、管理栄養士の役割を十分に理解する。	
	臨床栄養B臨地実習	臨床栄養に関する知識や技法を基に、病院等の実践の場で傷病者の病態や栄養状態の評価判定に基づいた適正な栄養マネジメントの考え方や実際について学び、課題発見、問題解決を通して専門的な知識および技術の統合を図ることができるようになることを目的とする。また、チーム医療、他職種との連携について理解を深めるとともに、管理栄養士の役割を理解する。	
	公衆栄養臨地実習	保健所および市町村保健センターの果たす役割や業務を理解した上で、管理栄養士が地域における栄養改善事業の企画・実施・評価にどのように参画しているかを具体的に学ぶ。実践活動での課題発見、解決を通して、公衆栄養マネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図る。	
専門科目	輪講	卒業研究と並行して、卒研指導教員のもとで研究室ごとに行う。卒業研究に関連した内外の図書・文献の読解を行い、専門的な知識を深めるとともに、発表および討論の方法を訓練する。	
	卒業研究	各教員の指導のもと、研究手法および論文の読み方や論文の書き方を学び研究を進める。定期的に報告会を行い、進捗状況の確認を行い、かつプレゼンテーション能力を養う。研究成果は、卒業論文にまとめ発表会を行う。	
	専門発展科目	食品物性学	食品に対する感覚的な評価を左右する要因としては、テクスチャー（口当たり）をはじめとする様々な物理的性質が重要である。まず、複雑な多成分混合系である食品の状態と、その状態に基づいて現れる物理的特性（物性）を科学的に理解するため構造的な知識を修得することを目標として、食品のテクスチャー特性（硬さ、付着性、凝集性など）、破断特性、流動特性、動的粘弾性より概説する。また、現在、注目を集めている物性と病者用食品、ことに嚥下障害者用食品の関係について、デモンストレーションを交え解説する。
食品機能学		食品を構成している成分の中には必須栄養素以外にも生体の様々な機能を調節する働きを持つ物質が見ついている。特にヒトの健康維持や疾病予防につながる機能は食品成分の三次機能として注目を集めている。この科目では主に疾病の成り立ちと食品成分の関わりについて学ぶ事と保健機能食品について理解する事を目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 専門 発展 科目	食品分析学	近年の食品分析に関する技術進歩は、高速液体クロマトグラフィや質量分析計のような分析機器の革新に負うところが大きい。これらの基本原理や最新技術を基に、食品成分・食品添加物・食品汚染物質といった健康科学に関する分析法について概説する。	
	食品加工学	食品は含む成分の種類により、それらの特性を利用した加工が行われる他、食品群毎の特性により貯蔵中に様々な変化を起こす。これらの変化は望ましいものもあれば、望ましくないものもある。そのため今なお新しい技術が導入され絶えず進歩している。本授業では、食卓に登場する食品はどのような素材がどのようにして加工され、または貯蔵され、そしてどのように流通しているのかを理解することを目的とする。	
	食品工学	食品加工プロセスは、工学の単位操作が緻密に組み合わさったものであり、工学と生物の取り扱いのエッセンスが凝縮されている。加熱、冷却、混合、分離・精製などの食品加工の主要な要素技術について、それらの原理、食品成分の物理的および化学的变化について講義する。さらに、基本となる加熱操作について、伝熱の基本、殺菌の基本および操作条件の決定、また乾燥操作の基本について実習を中心に修得する。	
	食品官能評価論	おいしさは飲食物を摂取するときに引き起こされる快い感覚であり、五感の全てが関わっている。それは生命を維持し活動するための食物の選択、摂取、消化、吸収、代謝を支配し、心身両面からの人の成長発達や食文化の形成に大きな影響を与える。本科目ではおいしさの生理学的、心理学的意義やメカニズムについて概説し、さらにおいしさを計量化する方法や、それが食品の開発や製造、販売にどのように利用されているかについて解説する。また、実際に官能評価の実習を行い、食物の味わいの複雑微妙さや人の感覚の精妙さを体得するなかで、正しい食のあり方についても考える。	
	給食経営システム論	一般の弁当や治療食の配食ではセントラルキッチンで調理したものを温度管理した配送システムの下で流通している。これまで当日調理してその場で食べていた食事が、様々な技術革新により時間や空間の広がりをもって提供できるようになった。 この科目では、クックチルを中心とした新調理システムを用いた給食生産と経営を学ぶことを目的とする。科目の理解には「給食経営管理論Ⅰ」「給食経営管理論Ⅱ」「給食経営管理実習」で得た知識と技術を応用し、新調理システムを活用した生産理論を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	専門 発展 科目 栄養サポートチーム (NST)論	<p>医療における管理栄養士がすべき仕事とは何かについて、改めて捉えなおすことから始める。そのためには、チームにおける協働作業を行う上で必要な要素、また栄養サポートチームの対象者はどのような方がいるのかについても考える。これらにより、チーム医療、特に栄養サポートチームにおいて担うべき管理栄養士の仕事を把握し、対象者の栄養改善のために必要な考え方およびすべき役割について、多面的に学ぶ。</p> <p style="text-align: center;">(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(13 楠木伊津美(専任) 10／15回) 対象となる方(主に患者さん)には、どのような方がいるかについて、教科書的な人から特殊な事例を通して、各自がどのように感じ、対応するか考え、ほかの人と共有し、管理栄養士としての視野を広めることの必要性の認識を目指す。 1) オリエンテーションと課題の説明、診療報酬上のNSTについて、2) 専従NST資格者に求められるスキルとその目的、3、4) 一般的な患者さんから、指導上困った患者さんの事例について、社会的問題として取り上げられた事例について、個人として、管理栄養士としてどのように考えるか。5、6) 瘻管法による栄養管理について、終末期の迎え方の自身と家族について、7、8) 死について、安楽死について、ガン末期のプロセスについて。9、10) チームにおける管理栄養士として、どのような考え、態度が必要か、課題の発表。</p> <p>(73 高橋さおり(非常勤) 2／15回) 専門職性としてのコミュニケーションスキルの向上を目的として、1) 文学作品を題材に語りてや支店の問題に着目する読みを通じて、他者理解について考え、2) 管理栄養士として、患者はもとより他の専門職を含む同僚との関係性のあり方について考え、他者と共同して多様な課題に向き合うことを行う。</p> <p>(74 高瀬 淳(非常勤) 3／15回) 1) 日本国憲法における基本的人権並びにWHO憲章等における健康権の概念に着目し、厚生労働大臣の認可を受けた管理栄養士が、国民の意思に基づいて健康を保障していくことの必要性について、2) さらに、コミュニティ・エンパワメントの考え方を踏まえ、国家(管理栄養士)と国民(対象者)との関係の中で、他職種と連携・協力について考える。3) 最後に他職種との連携・協力したNSTによって、パワーレスな状態にあるものに対する支援・援助の方策・措置をどのように企画・立案していくかについてグループ学習を通して、考察する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	専門 発展 科目	<p>管理栄養士基礎セミナーでは、実際に現在、各分野で活躍されている管理栄養士の先生に来て頂き、それぞれの分野で活躍するにはどのような知識や技術が必要か、実務的な部分を中心に学習するオムニバス形式の授業である。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(1 清瀬千佳子 (専任) 1/15回)</p> <p>ガイダンスを行う。本科目の目的を理解させ、授業を受ける上での心得、またキャリア教育の一環として必要な事項を学ばせる。</p> <p>(78 徳永圭子 (非常勤) 1/15回)</p> <p>病院における管理栄養士の仕事について</p> <p>(75 長瀬真奈美 (非常勤) 1/15回)</p> <p>学校栄養士の仕事について</p> <p>(86 生田目香織 (非常勤) 1/15回)</p> <p>学校給食センターでの学校栄養職員の仕事について</p> <p>(80 古明地夕佳 (非常勤) 1/15回)</p> <p>保健所等における管理栄養士の仕事について</p> <p>(84 佐藤久美 (非常勤) 1/15回)</p> <p>事業所における管理栄養士の仕事について</p> <p>(77 石井宏明 (非常勤) 1/15回)</p> <p>大学病院における管理栄養士の仕事について</p> <p>(70 増田邦子 (非常勤) 1/15回)</p> <p>特養における管理栄養士の仕事について</p> <p>(76 小原亜希子 (非常勤) 1/15回)</p> <p>スポーツ栄養分野における管理栄養士の仕事について</p> <p>(81 伊藤裕子 (非常勤) 1/15回)</p> <p>企業の研究所における管理栄養士の仕事について</p> <p>(79 菅原三伏子 (非常勤) 1/15回)</p> <p>特別養護老人ホームにおける管理栄養士の仕事について</p> <p>(71 上村香久子 (非常勤) 1/15回)</p> <p>アスリートの栄養における管理栄養士の仕事について</p> <p>(83 調所勝弘 (非常勤) 1/15回)</p> <p>行政における管理栄養士の仕事について</p> <p>(85 濱田真里 (非常勤) 1/15回)</p> <p>フリーランスの立場からの管理栄養士のあり方</p> <p>(82 江頭文江 (非常勤) 1/15回)</p> <p>地域栄養ケアにおける管理栄養士の仕事について</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	専門発展科目		
	専門演習 I	<p>4年次前期に開講される科目。3年次までに学習した専門基礎科目および専門科目の重要点を復習、さらに発展的な学習により知識を定着させることを目的とする。授業では、3年次までの学習内容の確認・補強および国家試験対応のための国家試験過去問題の解答・解説を主に行う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 饗場直美 (専任) 1/15回) : 「栄養教育学」全般 (6 飯島陽子 (専任) 1/15回) : 「食べ物と健康」の分野の中の「食品学」全般 (8 岡田知雄 (専任) 1/15回) : 「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野の「病理病態学」全般 及び「社会・環境と健康」分野の「健康管理論」全般 (11 大澤絢子 (専任) 1/15回) : 「給食経理管理論」全般 (1 清瀬千佳子 (専任) 1/15回) : 「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野の「生化学」全般 (13 楠木伊津美 (専任) 1/15回) : 「臨床栄養学」全般 (12 三宅(網本)理江子 (専任) 1/15回) : 「応用栄養学」全般 (4 澤井淳 (専任) 1/15回) : 「食べ物と健康」の分野の中の「食品衛生学」全般 (10 澤井明香 (専任) 1/15回) : 「臨床栄養学」全般 (3 高橋智子 (専任) 1/15回) : 「食べ物と健康」の分野の中の「調理学」全般 (7 花井美保 (専任) 1/15回) : 「基礎栄養学」全般 (9 原島恵美子 (専任) 1/15回) : 「公衆栄養学」全般 (5 横山知永子 (専任) 1/15回) : 「臨床栄養学」全般 (69 関口雅樹 (非常勤) 1/15回) : 「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野の中の「解剖生理学」全般 (68 松木秀明 (非常勤) 1/15回) : 「社会・環境と健康」の分野の中の「公衆衛生学」全般</p>	オムニバス
	専門演習 II	<p>4年次後期に開講される科目。専門演習 I の継続とし、3年次までに学習した専門基礎科目および専門科目の重要点を復習、さらに発展的な学習により知識を定着させることを目的とする。授業では、3年次までの学習内容の確認・補強および国家試験対応のための国家試験過去問題の解答・解説を主に行う。専門演習 I および専門演習 II により、3年次までの全授業内容を包括する。 (オムニバス方式・全15回)</p> <p>(2 饗場直美 (専任) 1/15回) : 「栄養教育学」全般 (6 飯島陽子 (専任) 1/15回) : 「食べ物と健康」の分野の中の「食品学」全般 (8 岡田知雄 (専任) 1/15回) : 「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野の「病理病態学」全般及び「社会・環境と健康」分野の「健康管理論」全般 (11 大澤絢子 (専任) 1/15回) : 「給食経理管理論」全般 (1 清瀬千佳子 (専任) 1/15回) : 「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野の「生化学」全般 (13 楠木伊津美 (専任) 1/15回) : 「臨床栄養学」全般 (12 三宅(網本)理江子 (専任) 1/15回) : 「応用栄養学」全般 (4 澤井淳 (専任) 1/15回) : 「食べ物と健康」の分野の中の「食品衛生学」全般 (10 澤井明香 (専任) 1/15回) : 「臨床栄養学」全般 (3 高橋智子 (専任) 1/15回) : 「食べ物と健康」の分野の中の「調理学」全般 (7 花井美保 (専任) 1/15回) : 「基礎栄養学」全般 (9 原島恵美子 (専任) 1/15回) : 「公衆栄養学」全般 (5 横山知永子 (専任) 1/15回) : 「臨床栄養学」全般 (69 関口雅樹 (非常勤) 1/15回) : 「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の分野の中の「解剖生理学」全般 (68 松木秀明 (非常勤) 1/15回) : 「社会・環境と健康」全般</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 専 門 関 連 科 目	基礎栄養学概論	我々が毎日健康で生活するためには、適切な栄養素の摂取が必要であり、それらの生体内における意義と働きを理解することが重要である。基礎栄養学概論では、栄養学の入門として、栄養とは何か、栄養学の歴史、栄養と健康・疾患の関連について理解する。また、摂取した食物中の栄養素が消化・吸収・利用される過程を理解する。特に三大栄養素である糖質・脂質・たんぱく質の働きについて学ぶ。	
	分子栄養学	我々が食物から摂取する栄養素や食品成分が分子レベルでどのようにして生体内、細胞内で働くかを学ぶ。特に、遺伝子とは何か、また、遺伝子の発現制御はどのようにして行われているかという基本的な所を理解した上で、栄養素が細胞内代謝へどのように関わっているかについて学習する。	
	臨床生化学	臨床生化学は、ヒトが病気になった時に生じる生体内の異常を生化学的に捉えたもので、病態、疾病の診断に深く関わっている。臨床栄養の現場においても、検査データを適切な情報として正確に把握することは、個々の患者の栄養状態を適切に評価・判定するために重要なポイントの1つとなる。この講義では、病態を生化学的に捉えて代謝の理解を深めるとともに、臨床検査項目の測定意義、目的、方法を理解する。また生活習慣病を中心に検査値を読むための留意点、食事や薬物の影響、検査値に基づいた栄養状態の判断について紹介する。	
	WEB技術入門	Web技術の進歩発展はインターネットの拡大と共に進み、我々の生活に深く関わりをもたらすようになった。本講義では、ブログやSNS、e-コマース系のサービス提供サイトなどに代表されるWeb技術の基礎的な部分に注目し、Webを利用した様々な表現方法の仕組みを学ぶ。今後は単なるホームページでの情報提供だけでなく、Web上でのインタラクティブな情報のやりとりが、特定保健指導などの栄養指導においても重要なツールとなることを見据え、現在のWeb技術およびWeb上でのコミュニティのあり方について概説する。	
	画像情報処理	音声と共に情報伝達において大きな役割を果たすのが画像である。栄養指導では食事等に関する画像情報があれば、より的確なカウンセリングが可能である。さらに視覚処理を行い有用な情報を抽出しデータベース化ができれば、より効果的である。画像情報の仕組みと処理技術への基礎的な理解は、新たな栄養指導への可能性も見出すことができる。まず画像処理の基礎として、画像情報の基礎事項および画像処理関連のハードウェアの概要を述べ、つぎに中心テーマである画像処理ソフトウェアを用いた実際の処理テクニックの修得に重点を置いて解説する。	
	情報統計	情報は私たちにとって有益なものであるが、保健(栄養)分野においても例外ではない。この情報を具象化したものはデータと定義され、これらデータから情報を生産する過程を情報処理という。情報処理を行う際のハードウェアはコンピュータ(PC)であり、ソフトウェアは検索と統計解析である。授業では講義に加え、各自PCを用い、実際のデータによる検索や各種統計解析を行うなどの演習を実施する。授業からデータ、情報および統計解析の専門用語の理解ならびに情報処理の一連の流れを修得し、実務で活用できるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部管理栄養学科)

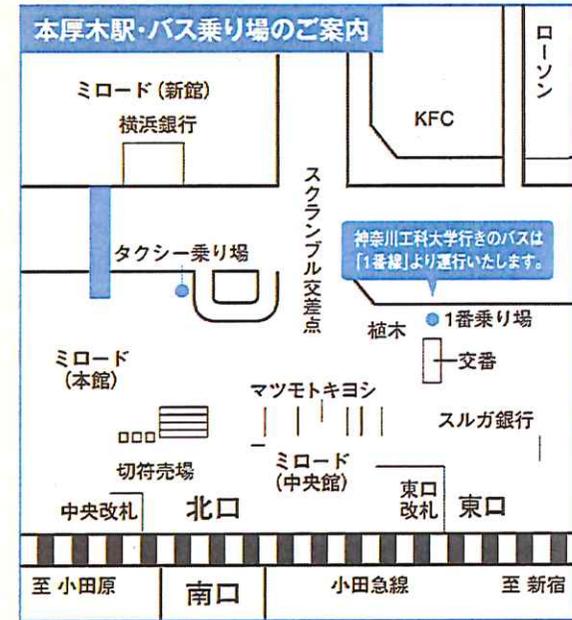
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 プ ロ ジ エ ク ト 科 目	+α 資格取得プロジェクトⅠ (食品産業)	このプロジェクトの目的は、食品産業においてどのようにして、食品が取り扱われ、どのような考えで開発されるかを実務として学ぶことを目的とする。すなわち、食品学Ⅰ、Ⅱや食品加工学などで修得した知識の上で、製造の現場で起こる食品の様々な変化などを把握することが大切である。企業との連携プレーで、単なる知識の記憶ではなく、どれだけ製造や開発などにおいて応用されているかを学び、将来像に結びつける。そのため、メーカーにおける講義、実務、討論を通じて食品産業の姿を知ることにつく。なお、必要に応じ、課題発表、文献検索なども行う必要もある。	
	+α 資格取得プロジェクトⅡ (スポーツ栄養)	我々は健康的な生活を送りたいと願っている。そのためには食生活の重要性だけでなく、適宜に運動を日常生活に取り入れていく必要がある。このプロジェクトでは、運動、特にスポーツを行う上で一般人における栄養摂取とどう違うのか、スポーツ選手への栄養指導・栄養管理に関わる事とその違いについて学んでいく。	
	+α 資格取得プロジェクトⅢ (家電)	このプロジェクトにおける家電は、調理家電を対象とする。調理学、調理学実習、調理学実験より修得した調理科学の知識を、調理家電に応用することを目的とする。すなわち、調理過程における食品材料の物理的特性の変化、化学的特性の変化について、調理家電を通して検討する。また、本プロジェクトは、研究連携者としての調理家電メーカー、および本学創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科と共同プロジェクトとなる。プロジェクト内容としては、実際のメーカーによる調理家電の講義、調理科学を通じた調理家電に関する課題の設定、課題の調査、実験による解決、課題発表などで構成される。	
	+α 資格取得プロジェクトⅣ (臨床栄養)	おもに病院、介護施設等における対象者の栄養管理 - 栄養状態のふるいわけ、栄養状態の評価、必要栄養素とその量・栄養補給ルート・栄養教育等を主とする栄養管理計画の立案とこれに係る多職種との連携とアプローチなど - について、より積極的に実践する。この実践により、栄養管理を行うために必要な観点を身に付けることを目標とする。	
	+α 資格取得プロジェクトⅤ (食育)	子供から高齢者まで生涯を通じた食育の取組みについて、様々な関係者がそれぞれの特性を生かしながら、多様に連携・協働し、食育を推進するためのアプローチについて学ぶ。地域や保育所における食育活動の実践を通じて、管理栄養士としての食育コーディネートの考え方に結びつける。	

学校法人 幾徳学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神奈川工科大学					神奈川工科大学				
工学部					工学部				
機械工学科	120	-	480		機械工学科	120	-	480	
電気電子情報工学科	78	-	296		電気電子情報工学科	78	-	296	
応用化学科	60	-	240		応用化学科	60	-	240	
臨床工学科	40	-	160		臨床工学科	0	-	0	令和2年4月学生募集停止
情報学部					情報学部				
情報工学科	155	-	590		情報工学科	155	-	590	
情報ネットワーク・ コミュニケーション学科	100	-	390		情報ネットワーク・ コミュニケーション学科	100	-	390	
情報メディア学科	165	-	630		情報メディア学科	165	-	630	
創造工学部					創造工学部				
自動車システム 開発工学科	55	-	210		自動車システム 開発工学科	55	-	210	
ロボット・ メカトロニクス学科	50	-	180		ロボット・ メカトロニクス学科	50	-	180	
ホームエレクトロニクス 開発学科	40	-	160		ホームエレクトロニクス 開発学科	40	-	160	
応用バイオ科学部					応用バイオ科学部				
応用バイオ科学科	125	-	490		応用バイオ科学科	125	-	490	
栄養生命科学科	80	-	320		管理栄養学科	0	-	0	令和2年4月学生募集停止
看護学部					看護学部				
看護学科	80	-	320	⇒	看護学科	80	-	320	
					臨床工学科	40	-	160	学科設置(届出)
					管理栄養学科	80	-	320	学科設置(届出)
計					計				
	1,148	-	4,466			1,148	-	4,466	
神奈川工科大学大学院					神奈川工科大学大学院				
工学研究科 博士前期課程					工学研究科 博士前期課程				
機械工学専攻	14	-	28		機械工学専攻	14	-	28	
電気電子工学専攻	16	-	32		電気電子工学専攻	16	-	32	
応用化学・ バイオサイエンス専攻	16	-	32		応用化学・ バイオサイエンス専攻	16	-	32	
機械システム工学専攻	14	-	28		機械システム工学専攻	14	-	28	
情報工学専攻	18	-	36		情報工学専攻	18	-	36	
ロボット・メカトロニクス システム専攻	6	-	12		ロボット・メカトロニクス システム専攻	6	-	12	
計					計				
	84	-	168			84	-	168	
工学研究科 博士後期課程					工学研究科 博士後期課程				
機械工学専攻	2	-	6		機械工学専攻	2	-	6	
電気電子工学専攻	2	-	6		電気電子工学専攻	2	-	6	
応用化学・ バイオサイエンス専攻	2	-	6		応用化学・ バイオサイエンス専攻	2	-	6	
機械システム工学専攻	2	-	6		機械システム工学専攻	2	-	6	
情報工学専攻	2	-	6		情報工学専攻	2	-	6	
計					計				
	10	-	30			10	-	30	

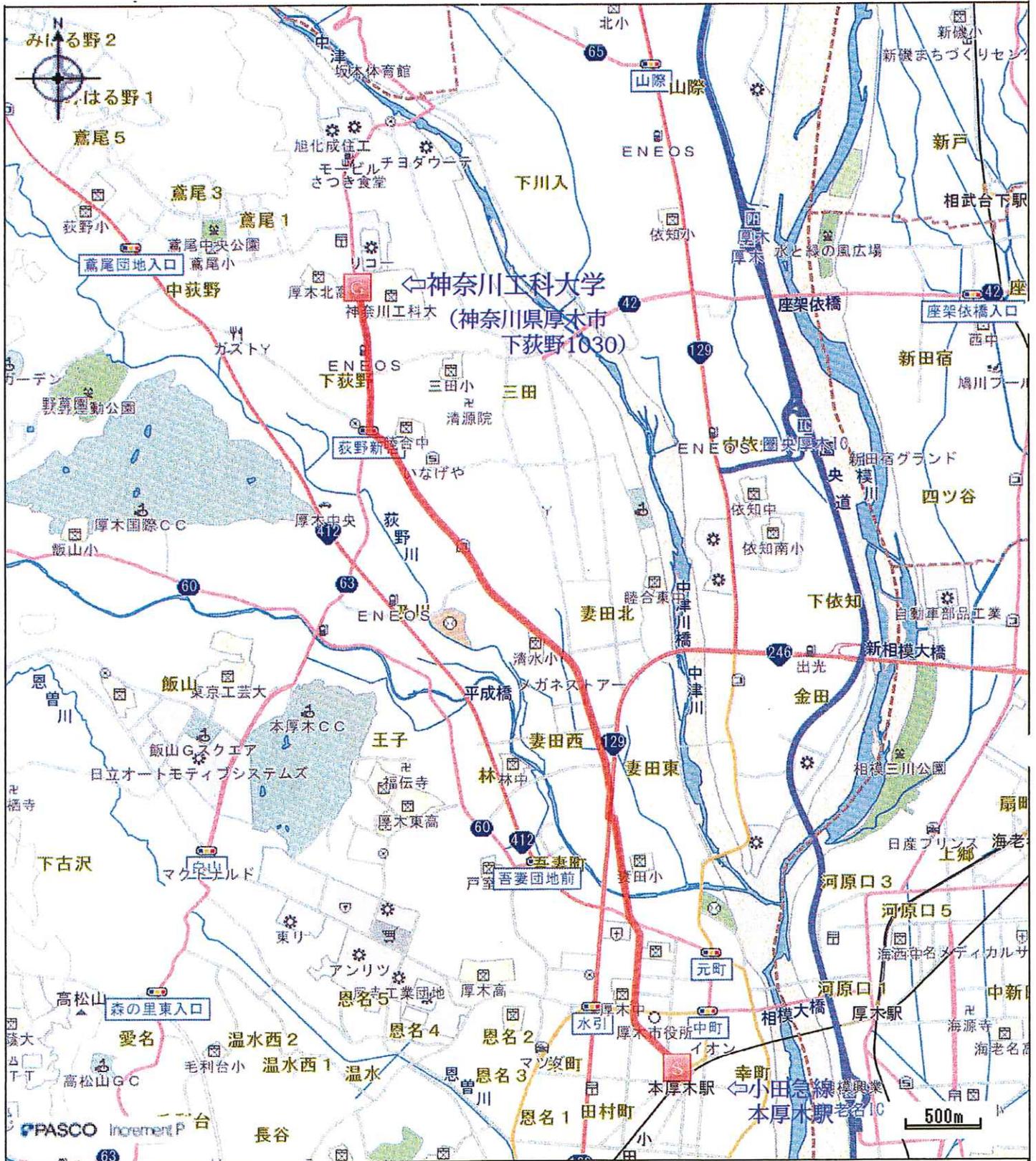
■神奈川県内における厚木市の位置

■最寄り駅からの交通機関



小田急線「本厚木駅」下車
 「新宿駅」より58分、「横浜駅(相鉄線経由)」より48分、「小田原駅」より46分「本厚木駅」北口・神奈川中央交通バス1番乗場より、「青年の家行き」、「神奈川工科大学経由・鷺尾団地行き」で「神奈川工科大学前」下車。(バス乗車時間23分)
 または、「上荻野車庫行き」、「半原行き」、「まつかけ台行き」、「鷺尾団地行き」で「荻野新宿」下車(バス乗車時間21分)、徒歩7分。

神奈川県厚木市 神奈川工科大学 校地位置関係図



神奈川工科大学学則

(昭和50年4月1日制定)

第1章 総 則

(設立の目的)

第1条 本学は、教育基本法に則り、学校教育法の定める大学として広く知識を授けると共に深く専門の学芸を教授研究し、豊かな教養と円満な人格を備えた有為な人材を育成して文化の発展と人類福祉の増進に寄与することを目的とする。

(建学の理念)

第1条の2 本学は、広く勉学意欲旺盛な学生を集め、豊かな教養と幅広い視野を持ち、創造性に富んだ技術者を育てて科学技術立国に寄与するとともに、教育・研究を通じて地域社会との連携強化に努める。

(教育目的と目標)

第1条の3 本学は、教育の目的・目標を「別表A」に定め、これを公表するものとする。

(人材の養成及び教育研究上の目的)

第1条の4 本学は、学部、学科、課程ごとの人材の養成及び教育研究上の目的を「別表B」にそれぞれ定め、これを公表するものとする。

第1条の5 (自己評価等)

本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うよう努めるものとする。

(学部・学科及び収容定員)

第2条 本学に次の学部及び学科を置き、その収容定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
工学部	機械工学科	120 名	480 名
	電気電子情報工学科	78 名	312 名
	応用化学科	60 名	240 名
情報学部	情報工学科	155 名	620 名
	情報ネットワーク・コミュニケーション学科	100 名	400 名
	情報メディア学科	165 名	660 名
創造工学部	自動車システム開発工学科	55 名	220 名
	ロボット・メカトロニクス学科	50 名	200 名
	ホームエレクトロニクス開発学科	40 名	160 名
応用バ 材科学部	応用バ 材科学科	125 名	500 名
看護学部	看護学科	80 名	320 名
	管理栄養学科	80 名	320 名
	臨床工学科	40 名	160 名
計		1,148 名	4,592 名

2. 前項の他に教職課程及び学芸員課程を置く。
- 第2条の2
2. 削除
 3. 削除

第2章 職員組織

(職員)

- 第3条 本学に次の職員を置く。

学長

教育職員（教授・准教授・講師・助教・助手及びその他の教員）

事務職員・技術職員等

2. 職員及びその職制に関する規則は別に定める。
(学長)

- 第4条 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

2. 学長のもとに副学長を置くことができる。
3. 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

(教育職員の職務)

- 第5条 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

2. 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
3. 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
4. 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。
5. 講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

(職員の事務分掌)

- 第6条 学長のもとに教学事項に関する事務を分掌するため、副学長、学部長、学科長、教務主任、学生部長、入学委員長、キャリア就職センター委員長、自己評価委員長、図書館長、情報教育研究センター所長、工業教育研究推進機構長、教育開発センター所長、基礎・教養教育センター所長、系列総会会長、国際センター所長及び教職教育センター所長を置く。

2. 学長のもとに一般事項に関する事務を分掌するため事務局を置く。

第3章 教授会及び大学協議会

(教授会)

- 第7条 大学に教授会を置く。

2. 教授会は、専任教授をもって組織する。
3. 教授会は、学長が招集し、その議長となる。

4. 教授会は、教授現在員の過半数が出席しなければ開催することができない。
5. 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
 - (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
 - (2) 学位の授与
 - (3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。
6. 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。
7. 教授会の組織には、准教授その他の職員を加えることができる。
(大学協議会)

- 第7条の2 本学に大学協議会を置く。
2. 大学協議会に関する規定は、別に定める。

第4章 修業年限・学年・学期及び休日・休業日

(修業年限)

- 第8条 本学の修業年限は4年とする。
- (在学期間)
- 第9条 本学学生の在学期間は、通算して8年を超えることはできない。
- (学 年)
- 第10条 学年は4月1日より始まり3月31日に終わる。
- (学 期)
- 第11条 学年を分けて、次の2学期とする。
- (1)前期 4月1日から9月30日まで
 - (2)後期 10月1日から3月31日まで
2. 前項の規定にかかわらず、後期に属する授業科目は夏期休業終了後から始まる。
- (休 日)
- 第12条 休日は次のとおりとする。
- (1)日 曜 日
 - (2)国民の祝日に関する法律に規定する休日
 - (3)創立記念日 5月7日
2. 前項に定めた休日は都合により授業日にすることがある。
- (休 業 日)
- 第13条 休業日は次のとおりとする。
- (1)春期休業 3月21日から 4月7日まで
 - (2)夏期休業 7月21日から 9月15日まで
 - (3)冬期休業 12月21日から翌年1月10日まで
2. 前項に定めた休業日は都合により多少移動することがある。
3. 臨時休業については、その都度学長が定めるものとする。

第5章 教育課程及び履修方法

(授業科目)

第14条 本学の授業科目の区分は、次に示す共通基盤教育、専門教育並びに教職及び学芸員に関する科目とする。

共通基盤教育：豊かな人間性と広い視野を養うとともに、総合的な判断力を養うための科目群。

専門教育：科学技術者としての基盤を培うための専門基礎導入科目、専門基礎科目並びにそれぞれの専門分野において有為な科学技術者を養成するための専門科目群。

(授業科目及び単位数)

第15条 授業科目の種類及び単位数は、別表第1から第4までのとおりとする。

(履修方法)

第16条 学生は、前条に定める授業科目及び別に定める「履修規程」に従い授業科目（以下「科目」という）を必修及び選択により履修しなければならない。

2. 履修しようとする科目については、科目担当教員の承認を受けなければならない。（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第16条の2 学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、30単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2. 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。（大学以外の教育施設等における学修）

第16条の3 学生が行う短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修（平成3年度文部省告示第68号）を、教授会が教育上有益と認めた場合は、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2. 前項により与えることができる単位数は、前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。（入学前の既修得単位等の認定）

第16条の4 学生が入学前に他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2. 学生が入学前に行った前条第1項に規定する学修を、教授会が教育上有益と認めた場合は、本学における履修とみなし、単位を与えることができる。
3. 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて30単位を超えないものとする。

(科目の単位)

第17条 各授業科目の単位数は、教授会において定めるものとする。

2. 授業科目の単位数の算定に当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、原則として次

の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験、実習、製図及び実技については、30時間から45時間までの範囲で必要と認められる時間の授業をもって1単位とする。

(4) 講義と演習を併用する科目については、講義10時間と演習10時間の授業をもって1単位とする。

3. 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を評価して単位数を定めることができる。

(1年間の授業期間)

第17条の2 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(修了認定の方法)

第18条 科目修了の認定は、平素の成績及び筆記試験又は論文等による。但し実験・実習・演習・製図・保健体育実技等は、平素の成績によって認定することができる。

(修了認定の資格)

第19条 各科目について、出席すべき時間数の3分の2以上に達しない者は、その科目の修了認定を受ける資格が与えられないものとする。

(修了認定の評価)

第20条 科目の成績は、秀・優・良・可・不可の5段階をもって表示し、不可は、未修了とする。

(成績評価基準等の明示)

第20条の2 本学の授業科目は、授業の方法及び内容並びに1年間の授業計画をあらかじめ明示するものとする。

2. 成績評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切におこなうものとする。

(教育職員の組織的研修等)

第20条の3 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第6章 卒業及び学位授与

(卒業)

第21条 本学に4年以上在学し、別表第5に規定する卒業要件を充足した者には、卒業証書を授与する。

(教員の免許状)

第22条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

2. 本学の学科において、当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、別表第4の3に掲げるとおりとする。

(学位授与)

第 23 条 本学を卒業した者には、学科の分野により次の学位を授与する。

- (1) 学士 (工学)
- (2) 学士 (栄養学)
- (3) 学士 (看護学)

(特別課程に係る修了証明書の交付)

第 23 条の 2 本学は、文部科学大臣の定めるところにより、本学の学生以外を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

第 7 章 入学・転学・休学・復学・退学等

(入学の時期)

第 24 条 入学の時期は、毎学年の始めとする。

(入学の資格)

第 25 条 本学の第 1 年次に入学できるものは、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 大学入学資格検定規程 (昭和 26 年文部省令第 13 号) により文部科学大臣の行なう大学入学資格検定に合格した者
- (7) その他本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学の許可)

第 26 条 入学志願者に対しては、学力試験の結果及び出身学校長から送付された調査書等を資料として選考し、入学を許可する。但し、必要に応じて面接試験を行うことがある。

(入学手続)

第 27 条 入学の許可を得た者は、指定の期限内に所定の様式による保証人連署の誓約書、出身高等学校の卒業証明書、その他必要書類及び所定の入学納付金を提出しなければならない。

2. 前項の手続を指定の期限内に行なわなかった者については、入学許可を取り消す。

(保証人)

第 28 条 保証人は、父母又は独立の生計を営む成年者で本人の身上に関する一切の責任を負い得る者でなければならない。

(学士入学)

第 29 条 本学を卒業し、さらに他の学科に入学を志願する者若しくは他の修学年限 4 年の大学を卒業し、さらに本学に入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限

り、選考の上、入学を許可することがある。

(再 入 学)

第 30 条 やむを得ない事由により、本学の学籍を離れた者で同一学科に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、入学を許可することがある。

(編 入 学)

第 31 条 第3年次又は2年次においては欠員ある場合は大学2年次又は1年次終了者、短期大学卒業生、高等専門学校卒業生、専修学校の専門課程で文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者及び学校教育法施行規則第92条の3で認められた入学志願者について試験を行い編入学を許可することがある。

2. 編入学の時期は、学年始めとし、本人の既修の授業科目単位数についてはその一部又は全部を本学において認定し、今後履修すべき授業科目、単位数を決定する。

(転部・転科)

第 32 条 在学中に転部又は転科を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り選考の上、転部又は転科を許可することがある。

(休 学)

第 33 条 病気その他やむを得ない理由で休学しようとする者は、その理由を詳記した休学願を保証人連署の上提出し、許可を受けなければならない。なお、病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2. 休学の期間は1年を超えることはできない。但し、特別の事情があるときは、その期間の延長を許可することがある。なお、その場合通算して4年以上になってはならない。

3. 休学した期間は、これを在学期間に算入しない。

(復 学)

第 34 条 休学者はその理由が消滅したときは、その旨を保証人連署の上願い出て許可を受け、復学することができる。

(転 学)

第 35 条 在学者が他の大学に入学又は転学しようとするときは、あらかじめ許可を受けなければならない。但し、二重学籍については、これを認めない。

(退 学)

第 36 条 在学者が退学しようとするときは、その事由を詳記した願書を保証人連署の上願い出て、許可を受けなければならない。

(除 籍)

第 37 条 次の各号の一に該当する者は除籍する。

- (1) 在学期間が所定の年数を超える者
- (2) 納付金等を滞納し催告してもこれに応じない者

第8章 外国人留学生

(外国人留学生)

第 38 条 外国人で本学に留学を志願する者は、選考の上、入学を許可する。

第9章 研究生・科目等履修生・単位互換履修生・特別聴講学生

(研究生)

- 第 39 条 研究生は、本学教員の直接の助言指導を受け、特定の研究課題について研究するものとする。
2. 研究生として入学を志願できる者は次のとおりとする。
 - (1) 本学又は他の大学を卒業した者
 - (2) 大学卒業程度の学力があると認められた者
 3. 研究生として入学を志願する者は、研究しようとする事項を記載した入学願書に履歴書及び検定料を添えて願出しなければならない。また、入学願書には、指導教員の選定につき希望を記載するものとする。
 4. 研究生の在学期間は1年とする。但し、引続き在学を希望する者に対しては、さらに在学期間を延長することができる。
 5. 研究生は、指導教員及び科目担当教員の承認を得て講義、実験及び演習等に出席することができる。
 6. 研究生は、研究期間終了時に研究事項を記載した報告書を提出しなければならない。

(科目等履修生)

- 第 40 条 第25条に定める者で本学において特定の科目の履修を志願する者があるときは、一般の授業に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。
2. 科目等履修生の入学時期は学期の始めとする。
 3. 科目等履修生で、履修科目の試験に合格した者に対しては、単位を与える。

(単位互換履修生・特別聴講学生)

- 第 41 条 他の大学又は短期大学との協定に基づき、本学において特定の科目の履修を志願する者があるときは、選考の上、単位互換履修生又は特別聴講学生として入学を許可することがある。

(研究生等の規則)

- 第 42 条 特別の規定のない限り本学則の規程は、研究生、科目等履修生、単位互換履修生及び特別聴講学生にもこれを準用する。但し、第16条、第21条、第23条はこの限りでない。

第10章 入学検定料・学生納付金

(入学検定料・学生納付金)

- 第 43 条 入学検定料及び年間学生納付金の納入額は「別表第6」に定めるとおりとする。なお、研究生、科目等履修生及び特別聴講学生の納付金は「別表第7」に定めるとおりとする。
2. 学生納付金等は、所定の期限までに、納入しなければならない。
 3. 学生納付金中授業料は、年額を2回に均等分割し納入するものとする。
但し、研究生、科目等履修生及び特別聴講学生は分納を認めない。
 4. 在学生に対しては、事情により授業料の全額又は一部免除を行うことがある。
 5. 転学又は退学した者は、その在籍した学期までの学生納付金を納入しなければならない。

- らない。
6. 休学した場合、その休学期間中における学籍管理料を納入しなければならない。
 7. 既に納付した納付金は、別に定めがある場合を除き、これを返還しない。

第11章 賞 罰

(表 彰)

第 44 条 在学生にして人物並びに学業優秀な者に対しては、これを表彰することがある。

(懲 戒)

第 45 条 本学所定の規則に違反し、秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者は懲戒処分とする。

2. 懲戒は訓告、停学及び退学とする。

(懲戒による退学)

第 46 条 前条の退学は、次の各号のいずれかに該当する者について行うことができる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者
- (2) 学内の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- (3) 学業を怠り成業の見込みがないと認められた者
- (4) 正当の理由がなくて出席が常でない者

第12章 学生の指導と課程外教育

(生活指導)

第 47 条 在学生の個人並びに集団の生活指導と課程外の教育を重視し、そのための諸機関を置く。

(健康管理)

第 48 条 在学生の健康管理のために健康管理室を置く。

第13章 研 究 所

(研 究 所)

第 49 条 本学に必要な応じて研究所を置くことができる。

2. 研究所に関する規程は、別に定める。

第14章 公開講座及び講習会等

(公開講座等)

第 50 条 本学は、文化の向上、成人教育その他の目的のために公開講座・講習会等を開設することができる。

- 附 則
1. この学則の実施に関する必要な細則は、別に「履修規程」等に定める。
 2. この学則は、昭和50年4月1日から施行する。
 3. この学則の改正は、昭和53年4月1日から施行する。
 4. この学則の改正は、昭和54年4月1日から施行する。
 5. この学則の改正は、昭和55年4月1日から施行する。
 6. この学則の改正は、昭和56年4月1日から施行する。
 7. この学則の改正は、昭和57年4月1日から施行する。

8. この学則の改正は、昭和58年4月1日から施行する。
9. この学則の改正は、昭和59年4月1日から施行する。
10. この学則の改正は、昭和60年4月1日から施行する。
11. この学則の改正は、昭和61年4月1日から施行する。但し、第2条の規定にかかわらず昭和62年度から平成6年度までの間の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械工学科	180名
	電気工学科	180名
	工業化学工学科	170名
	機械システム工学科	100名
	情報工学科	100名
計		730名

12. この学則の改正は、昭和62年4月1日から施行する。
13. この学則の改正は、昭和63年4月1日から施行する。
14. この学則の改正は、平成元年4月1日から施行する。
15. 第2条及び附則11の定めにかかわらず、機械システム工学科及び情報工学科の入学定員については、平成2年度から平成10年度までの間次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械システム工学科	130名
	情報工学科	130名

- この学則の改正は、平成2年4月1日から施行する。
16. この学則の改正は、平成3年4月1日から施行する。
 17. 第23条の改正は、平成4年3月1日から施行する。
 18. この学則の改正は、平成4年4月1日から施行する。
 19. この学則の改正は、平成5年4月1日から施行する。
 20. この学則の改正は、平成6年4月1日から施行する。
 21. 第2条及び附則11の定めにかかわらず、機械工学科、電気電子工学科及び工業化学工学科の入学定員については、引き続き平成7年度から平成11年度までの期間において次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械工学科	180名
	電気電子工学科	180名
	工業化学工学科	170名

この学則の改正は、平成7年4月1日から施行する。

ただし、神奈川工科大学工学部電気工学科の名称は、改正後の学則第2条、第22条第2項、別表第2、別表第3、別表第5及び附則21（入学定員に限る）の規定にかかわらず、平成7年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

22. 附則21に定める工業化学工学科の学科名称は、平成8年度から応用化学科とする。
23. この学則の改正は、平成8年4月1日から施行する。
ただし、神奈川工科大学工学部工業化学工学科の名称は、改正後の学則第2条、

第22条第2項、別表第2、別表第3、別表第5及び附則22の規定にかかわらず、平成8年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

24. 第2条及び附則15の定めにかかわらず、情報工学科の入学定員については、平成9年度から平成10年度までの間次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	情報工学科	190名

この学則の改正は、平成9年4月1日から施行する。

25. この学則の改正は、平成10年4月1日から施行する。
26. 第2条、附則11、附則15及び附則24の定めにかかわらず、機械システム工学科及び情報工学科の入学定員については、平成11年度に限り次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械システム工学科	130名
	情報工学科	190名

この学則の改正は、平成11年4月1日から施行する。

ただし、神奈川工科大学工学部機械システム工学科の名称は、改正後の学則第2条、第22条第2項、別表第2、別表第3、及び別表第5の規定にかかわらず、平成11年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

27. この学則の改正は、平成12年4月1日から施行する。
- ただし、第2条の規定にかかわらず、機械工学科、電気電子工学科、応用化学科、システムデザイン工学科、情報工学科の平成12年度の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械工学科	160名
	電気電子工学科	168名
	応用化学科	164名
	システムデザイン工学科	127名
	情報工学科	170名

28. この学則の改正は、平成13年4月1日から施行する。
- ただし、第2条の規定にかかわらず、機械工学科、電気電子工学科、応用化学科、システムデザイン工学科、情報工学科の平成13年度の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械工学科	160名
	電気電子工学科	166名
	応用化学科	163名
	システムデザイン工学科	124名
	情報工学科	215名

29. この学則の改正は、平成14年4月1日から施行する。
- ただし、第2条の規定にかかわらず、機械工学科、電気電子工学科、応用化学科、システムデザイン工学科の平成14年度の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械工学科	1 5 0 名
	電気電子工学科	1 4 4 名
	応用化学科	1 5 2 名
	システムデザイン工学科	1 2 1 名

30. この学則の改正は、平成15年4月1日から施行する。
ただし、第2条の規定にかかわらず、機械工学科、電気電子工学科、応用化学科、システムデザイン工学科の平成15年度の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工 学 部	機械工学科	1 4 6 名
	電気電子工学科	1 4 2 名
	応用化学科	1 5 1 名
	システムデザイン工学科	1 1 7 名

なお、工学部情報工学科は、平成15年3月31日をもって廃止する。

また、平成15年3月31日に工学部情報工学科に在学し、平成15年4月1日に情報学部情報工学科に在学する者が、工学部情報工学科で修得した単位は、情報学部情報工学科で修得したものとみなす。

31. この学則の改正は、平成16年4月1日から施行する。
なお、工学部情報ネットワーク工学科は、平成16年3月31日をもって廃止する。
また、平成16年3月31日に工学部情報ネットワーク工学科に在学し、平成16年4月1日に情報学部情報ネットワーク工学科に在学する者が、工学部情報ネットワーク工学科で修得した単位は、情報学部情報ネットワーク工学科で修得したものとみなす。
32. この学則の改正は、平成17年4月1日から施行する。
33. この学則の改正は、平成18年4月1日から施行する。

なお、工学部システムデザイン工学科及び福祉システム工学科は、平成18年3月31日をもって廃止する。ただし、工学部電気電子工学科、システムデザイン工学科及び福祉システム工学科は、改正後の学則第2条、第22条第2項、別表第1、別表第2別表第3、及び別表第5の規定にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

34. この学則の改正は、平成19年4月1日から施行する。
35. この学則の改正は、平成20年4月1日から施行する。
なお、工学部自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科及び応用バイオ科学科は、平成20年3月31日をもって廃止する。また、平成20年3月31日に工学部自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科及び応用バイオ科学科に在学し、平成20年4月1日に創造工学部自動車システム開発工学科及びロボット・メカトロニクス学科並びに応用バイオ科学部応用バイオ科学科に在学する者が、工学部自動車システム開発工学科で修得した単位は、創造工学部自動車システム開発工学科で修得したものとみなし、工学部ロボット・メカトロニクス学科で修得した単位は、創造工学部ロボット・メカトロニクス学科で修得したものとみなし、工学部応用バイオ科学科で修得した単位は、応用バイ

オ科学部応用バイオ科学科で修得したものとみなす。

36. この学則の改正は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
37. この学則の改正は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
38. この学則の改正は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
39. この学則の改正は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
40. この学則の改正は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
41. この学則の改正は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
42. この学則の改正は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。
43. この学則の改正は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
44. この学則の改正は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
45. この学則の改正は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
46. この学則の改正は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

なお、留学生別科の第 2 条の 2、第 2 条の 2 の 2、第 2 条の 2 の 3 を削除する。

特別課程に係る修了証明書の交付として第 23 条の 2 を追加する。

47. この学則の改正は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

なお、工学部臨床工学科、応用バイオ科学部栄養生命科学科を募集停止し、看護学部管理栄養学科、看護学部臨床工学科に改組する。

別表A「教育目的と教育目標」

『考え、行動する人材の育成』 —社会で活躍できる人づくり—

この教育目的を実現するために、以下の4項目を本学の教育目標とする。

- (1) 創造する力
- (2) 豊かな人間性
- (3) コミュニケーション能力
- (4) 基礎学力

別表B「学部、学科等の人材の養成及び教育研究上の目的」

【基礎・教養教育センター】

基礎科目、教養科目を通して、工学系、情報系、バイオ系の専門教育を学ぶための共通の基礎的な知識を身に付け、また、社会人として生きていくための教養をもち、自分で物事を考えていくことのできる能力を身に付けることを目的とする。

【教職教育センター】

各学科が育成する高い専門性を基盤に、教育者としての資質の涵養と高いスキルを身につけた優れた教師の育成を目的とする。目標とする人材像は、社会の要請に対処すべき専門性を教育に活かしつつ、免許教科に対する理解や、教育現場において学習者の興味・関心を惹起できる授業実践力を持ち、地域、友人関係、家庭など個人をとりまく多様な環境にも配慮した上で、先を見越した生徒指導のできる自立した教師である。

【学芸員課程】

欧米では早くから学校教育や生涯教育の一環として、博物館を利用した教育が盛んに行われてきており、わが国においても近年この気運が特に高まってきている。博物館には人類の築いてきた文化遺産やその研究成果が、工芸品や古文書、標本といった主として「モノ」の形をとって所蔵・展示されているが、博物館の専門職として博物館法に定められた専門事項に加えて、科学や文化に深い理解と洞察を有する資質豊かな学芸員を育成することを目的とする。

【工学部】

機械工学、電気電子情報工学、応用化学の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成

○機械工学科

機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者の育成

○電気電子情報工学科

電気電子情報工学の基礎・専門技術を身につけ、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者の育成

○応用化学科

応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成

【情報学部】

情報工学、情報ネットワーク、メディアコンテンツの各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題の解決、または新たな情報システムやメディアコンテンツの創作に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成

○情報工学科

システム・ソフトウェア技術を基軸とする高度な専門性ととも、多方面の専門家と協調しつつ問題解決を図るコミュニケーション力と、深い教養と幅広い視野を身につけた創造性豊かな情報技術者の育成

○情報ネットワーク・コミュニケーション学科

情報ネットワークの専門知識・技能を身につけ、それらを活用する力を持ち、社会で活躍できる技術者の育成

○情報メディア学科

創造性豊かで探求心あふれ、また社会人としての社会的責任と倫理観を持ち、情報メディアとそれを利用するアプリケーションやコンテンツを創作できる人材の育成

【創造工学部】

自動車開発、ロボット・メカトロニクス、ホームエレクトロニクスの各分野に必要な基礎知識と専門知識・技術に加えて、システム化技術や社会・人間に関する幅広い知識を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成

○自動車システム開発工学科

自動車システム開発の基礎となる工学技術の知識・技能を身につけ、これらを活用して自動車および関連する産業界の発展に貢献できる技術者の育成

○ロボット・メカトロニクス学科

ロボット・メカトロニクスの要素技術に加え、人間工学などの人を対象とした幅広い知識を身につけ、人々の生活を豊かにする次世代のロボットや生活支援機器を開発できる技術者およびロボット・メカトロニクスの知識を身につけた指導者の育成

○ホームエレクトロニクス開発学科

電気電子工学と ICT 技術の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して社会に貢献できるものづくり技術者および電気電子工学と ICT 技術の基礎知識・技術を身につけた指導者の育成

【応用バイオ科学部】

バイオ科学、バイオ技術、健康科学、栄養科学の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを応用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成

○応用バイオ科学科

バイオ科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身につけ、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できるバイオ技術者、バイオ支援技術者の育成

【看護学部】

健康医療分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成

○看護学科

看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成

○管理栄養学科

栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成

○臨床工学科

臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成

別表第1 (2020年度入学生)

外国語系科目

(△自由、一配当なし)

授業科目	必選別																		単位数	標準年次	
	工学部							情報学部			創造工学部			応用ハ イオ科 学部		看護学部					特別 専攻
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	I	N	D	V	RS	H	B	U	L	A			
ドイツ語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	2
フランス語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	2
中国語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	2
海外研修英語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	1・2・3・4
海外異文化研修	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	2	1・2・3・4
合計																			10		

(注) 1. 卒業要件上、任意として集計される。

留学生科目

(○選択、一配当なし)

授業科目	必選別																		単位数	標準年次	
	工学部							情報学部			創造工学部			応用ハ イオ科 学部		看護学部					特別 専攻
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	I	N	D	V	RS	H	B	U	L	A			
言語と文化 I	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	2
言語と文化 II	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	2
自己表現法 I	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	3
自己表現法 II	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	3
日本語・日本事情 I	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	1
日本語・日本事情 II	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	1
合計																			12		

(注) 1. 留学生以外の履修は、認めない。

2. 人文社会系、英語基礎系および言語応用系の一部科目に読み替えることがある。

3. 但しC J コース生に読み替えはしない。

【略】

別表第2 専門教育（2020年度入学生）

- ・ 工学部 機械工学科・電気電子工学科・応用化学科
- ・ 情報学部 情報工学科・情報ネットワーク・コミュニケーション学科・情報メディア学科
- ・ 創造工学部 自動車システム開発工学科・ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科
- ・ 応用バイオ科学部 応用バイオ科学科
- ・ 看護学部 看護学科

別表第2 専門教育（2020年度入学生）
看護学部 管理栄養学科

(◎必修、○選択)

教育区分	授業科目	必選別	単位数	標準年次	
専門基礎導入	化学基礎	◎	2	1	
	化学基礎実験	◎	1	1	
	生物学概論Ⅰ	○	2	1	
	生物有機化学	○	2	1	
	生命科学概論	◎	2	1	
専門基礎	社会・環境と健康	栄養生命科学概論	◎	2	1
		健康管理論	◎	2	2
		公衆衛生学	◎	2	2
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学Ⅰ	◎	2	1
		解剖生理学Ⅱ	◎	2	2
		解剖生理学実験	◎	1	2
		生化学Ⅰ	◎	2	1
		生化学実験Ⅰ	◎	1	1
		生化学Ⅱ	◎	2	2
		生化学実験Ⅱ	○	1	2
		微生物学	○	2	1
		微生物学実験	○	1	1
		病理病態学Ⅰ	○	2	2
	病理病態学Ⅱ	○	2	3	
	食べ物と健康	食品学Ⅰ	◎	2	1
		食品学実験Ⅰ	◎	1	1
		食品学Ⅱ	◎	2	2
		食品学実験Ⅱ	○	1	2
		食品衛生学	◎	2	2
		食品衛生学実験	◎	1	2
調理学		◎	2	1	
調理学実習Ⅰ		◎	1	1	
調理学実習Ⅱ		◎	1	1	
調理学実験	◎	1	2		
専門	基礎栄養学	基礎栄養学	◎	2	2
		基礎栄養学実験	◎	1	2
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	◎	2	2
		応用栄養学Ⅱ	○	2	3
		応用栄養学Ⅲ	○	2	3
		応用栄養学実習	◎	1	3
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	◎	2	2
		栄養教育論Ⅱ	◎	2	3
		栄養教育論Ⅲ	○	2	3
		栄養教育論実習Ⅰ	◎	1	3
		栄養教育論実習Ⅱ	○	1	3
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	◎	2	2
		臨床栄養学Ⅱ	◎	2	2
		臨床栄養学Ⅲ	○	2	3
		臨床栄養学Ⅳ	○	2	3
		臨床栄養学実習Ⅰ	◎	1	3
		臨床栄養学実習Ⅱ	◎	1	3
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	◎	2	2
公衆栄養学Ⅱ		○	2	3	
公衆栄養学実習		◎	1	3	

別表第2 専門教育（2020年度入学生）
看護学部 管理栄養学科

(◎必修、○選択)

教育区分	授業科目	必選別	単位数	標準年次	
専門	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	◎	2	2
		給食経営管理論Ⅱ	◎	2	2
		給食経営管理実習	◎	1	2
	総合演習・臨地実習	総合演習	○	2	3・4
		臨床栄養A臨地実習	○	3	4
		臨床栄養B臨地実習	○	2	4
		公衆栄養臨地実習	○	1	4
		給食経営臨地実習	○	1	3
		給食運営臨地実習	◎	1	3
	輪講		○	2	4
	卒業研究		◎	4	4
	専門発展科目	栄養サポートチーム(NST)論	○	2	3
		食品加工学	○	2	3
		食品工学	○	2	3
		食品官能評価論	○	2	3
		食品物性学	○	2	3
		食品分析学	○	2	3
		食品機能学	○	2	3
		管理栄養士基礎セミナー	○	2	2
		専門演習Ⅰ	○	1	4
		専門演習Ⅱ	○	1	4
	給食経営システム論	○	2	3	
	専門関連科目	分子栄養学	○	2	3
		臨床生化学	○	2	4
		Web技術入門	○	2	2
		画像情報処理	○	2	2
		情報統計	○	2	3
基礎栄養学概論		○	2	1	
プロジェクト科目	+α 資格取得プロジェクトⅠ(食品産業)	○	2	3・4	
	+α 資格取得プロジェクトⅡ(スポーツ栄養)	○	2	3・4	
	+α 資格取得プロジェクトⅢ(家電)	○	2	3・4	
	+α 資格取得プロジェクトⅣ(臨床栄養)	○	2	3・4	
	+α 資格取得プロジェクトⅤ(食育)	○	2	3・4	
合計			143		
(Stop the CO ₂ プログラム)					
Stop the CO ₂ 入門 Stop the CO ₂ プロジェクトⅠ Stop the CO ₂ プロジェクトⅡ Stop the CO ₂ プロジェクトⅢ Stop the CO ₂ 最前線 環境と新エネルギー 新素材と省エネ技術		Stop the CO ₂ プログラム 別表第3参照 (注)卒業要件上、修得後の単位については、任意として集計される。			
(教職関連)					
学校栄養指導論 食育指導論		別表第4-2 参照 (注1)卒業要件単位数には含まない。 (注2)教職課程登録者のみ履修可。			

別表第2 専門教育(2020年度入学生)

看護学部 臨床工学科

(◎必修、○選択)

科目区分	授業科目の名称	必選別	単位数	標準年次	
専門基礎科目	人体の構造及び機能	医学概論	◎	2	1
		解剖学	◎	2	1
		基礎医学実習	◎	2	1
	医学的基礎	公衆衛生学	◎	2	1
		生理学	◎	2	1
		病理学	◎	2	2
		生化学	◎	2	2
		免疫学	◎	2	2
		薬理学	◎	2	2
		看護学概論	◎	2	2
	理工学的基礎	電気工学Ⅰ(直流回路、交流回路)	◎	2	1
		電気工学Ⅱ(過渡現象、電磁気学)	◎	2	1
		電気工学実習	◎	1	1
		電子工学Ⅰ(基礎)	◎	2	2
		電子工学Ⅱ(発展)	◎	2	2
		電子工学実習	◎	1	2
		医用電気電子工学実習	○	1	3
		機械工学	◎	2	1
		機械工学演習	◎	1	1
		材料工学	◎	2	2
		計測工学	◎	2	2
		応用数学	◎	2	1
		応用数学演習	◎	1	1
	医療情報工学の基礎と応用	医療統計学	○	1	2
		システム制御工学Ⅰ(基礎)	◎	2	3
		システム制御工学Ⅱ(発展)	◎	2	3
		システム制御工学実習	◎	1	3
情報処理工学		◎	2	1	
情報処理工学実習		◎	1	1	
医療情報セキュリティ		○	2	3	
専門科目	医用生体工学	医用工学概論	◎	2	1
		生体計測機器学Ⅰ(基礎)	◎	2	1
		生体計測機器学Ⅱ(発展)	◎	2	2
		生体計測機器学実習	◎	2	2
		生体物性工学	◎	2	3
	医用機器学	医用機器学概論	◎	2	1
		医用治療機器学Ⅰ(基礎)	◎	2	2
		医用治療機器学Ⅱ(発展)	◎	2	2
		医用治療機器学実習	◎	2	2
		放射線概論	○	2	3
		画像診断機器学	○	2	3
	生体機能代行装置学	生体機能代行装置学Ⅰ(基礎)	◎	2	2
		生体機能代行装置学Ⅱ(発展)	◎	2	2
		血液浄化装置学	◎	2	2
		呼吸療法装置学	◎	2	3
		体外循環装置学	◎	2	3
		生体機能代行装置学実習Ⅰ(基礎)	◎	2	3
		生体機能代行装置学実習Ⅱ(発展)	◎	1	3
	医用安全管理学	医用機器安全管理学	◎	2	3
		医用機器安全管理学実習	◎	2	3
		関係法規	◎	2	2
		人間工学	○	2	2
		臨床人間工学	○	2	3
	関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ(外科、内科、感染症等)	◎	2	2
		臨床医学総論Ⅱ(腎臓泌尿器系、消化器等)	◎	2	3
		臨床医学総論Ⅲ(麻酔科学、手術部医学)	◎	2	3
		臨床検査概論	○	2	3
救急救命医学		○	2	3	
チーム医療論		○	2	4	
臨床実習	臨床実習	◎	4	4	
その他	臨床工学セミナー	○	2	4	
	卒業研究	◎	4	4	
合計			119		

別表第3 Stop the CO₂プログラム(2020年度入学生)

- Mー工学部機械工学科 (MS クリエイティブエンジニアコース、MJ グローバルエンジニアコース、MF 航空宇宙学専攻)
 Eー工学部電気電子情報工学科 (EA 実践的エンジニアコース、EB グローバルエンジニアコース、EC 電気工事・施工管理エキスパートコース)
 Cー工学部応用化学科 (CA 化学応用コース、CJ 総合化学エンジニアコース)
 Iー情報学部情報工学科 (スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む)
 Nー情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科 (スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む)
 Dー情報学部情報メディア学科 (スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む)
 Vー創造工学部自動車システム開発工学科
 Rー創造工学部ロボット・メカトロニクス学科 (RS一般コース、RE-教員養成コース)
 Hー創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科 (HA一般コース、HS-健康スポーツコース、HE-教員養成コース)
 Bー応用バイオ科学部応用バイオ科学科
 Uー看護学部看護学科
 Lー看護学部管理栄養学科
 Aー看護学部臨床工学科
 特別専攻ー機械工学、電気電子、医生命科学、ICTスペシャリスト、次世代自動車開発、ロボットクリエータ
 (○選択、△自由、一配当無し)

授業科目	必選別																	単位数	標準年次		
	工学部								情報学部			創造工学部			看護学部					特別専攻	
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	I	N	D	V	RS	H	B	U	L				A
[Stop the CO ₂ 専用科目群]																					
a群	Stop the CO ₂ 入門	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	1
	Stop the CO ₂ プロジェクトI	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	1	1
b群	Stop the CO ₂ プロジェクトII	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	2
	Stop the CO ₂ プロジェクトIII	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3
c群	Stop the CO ₂ 最前線	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3
	環境と新エネルギー	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3
	新素材と省エネ技術	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3
[各学科提供StopTheCO ₂ 関連科目群]																					
伝熱工学	[M科開講科目]																				
環境・エネルギー	[E科開講科目]																				
エネルギーと電力システム制御	[E科開講科目]																				
環境保全・エコロジー	[C科開講科目]																				
大気・水質環境	[C科開講科目]																				
エネルギー化学入門J	[C科開講科目]																				
自動車エンジン工学	[V科開講科目]																				
スマートハウスとエネルギー管理	[H科開講科目]																				
微生物学	[B科開講科目]																				
生物工学	[B科開講科目]																				

- [Stop the CO₂専用科目群・各学科提供StopTheCO₂関連科目群] の配当学科以外の科目は、他学科履修となります。
- Stop the CO₂プログラムの科目から、15単位以上を修得した場合に修了証を交付する。
 なお、a群からc群は、各群1科目以上合計9単位以上の修得を条件とする。

別表4の1 教職課程「教育の基礎的理解に関する科目等」配当表（2020年度入学生）

[2020年度入学生用]

(◎必修, □選択必修, - 配当無し)

科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	必選別								単位数	標準年次
			中学校			高等学校				栄養教諭		
			数学	理科	技術	工業	数学	理科	情報			
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	学校と教育の歴史	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	1
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職概論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	1
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育行政論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	2
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	1
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育概論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	2
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	3
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と実践	◎	◎	◎	-	-	-	-	◎	2	3
	・総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	3
	・特別活動の指導法	特別活動の指導法	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	2
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育の方法と技術	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	3
	・生徒指導の理論及び方法	生徒指導	-	-	-	-	-	-	-	◎	2	2
		生徒指導と進路指導	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	2	2
	・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法											
・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	3	
教育実践に関する科目	・教育実習	教育実習Ⅰ	◎	◎	◎	-	-	-	-	-	2	4
		教育実習Ⅱ（事前事後指導1単位含）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	3	4
		栄養教育実習	-	-	-	-	-	-	-	◎	2	3
	・教職実践演習	教職実践演習（中・高）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	2	4
		教職実践演習（栄養教諭）	-	-	-	-	-	-	-	◎	2	4

【略】

別表4の2 教科及び強化の指導法に関する科目①～②④（2020年度入学生）

- ・ 機械工学科 ①（中学／技術）、②（中学／数学）、③（高校／工業）、④（高校／数学）
- ・ 電機電子情報工学科 ⑤（中学／技術）、⑥（中学／数学）、⑦（高校／工業）、⑧（高校／数学）
- ・ 応用化学科 ⑨（高校／工業）、⑩（中学／理科）、⑪（高校／理科）
- ・ 情報工学科 ⑫（高校／工業）、⑬（高校／情報）
- ・ 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 ⑭（高校／工業）、⑮（高校／情報）
- ・ 情報メディア学科 ⑯（高校／工業）、⑰（高校／情報）
- ・ 自動車システム開発工学科 ⑱（高校／工業）
- ・ ロボット・メカトロニクス学科 ⑲（中学／技術）、⑳（高校／工業）
- ・ ホームエレクトロニクス開発学科 ㉑（中学／技術）、㉒（高校／工業）
- ・ 応用バイオ科学科 ㉓（中学／理科）、㉔（高校／理科）

別表4の2 栄養に係る教育に関する科目（2020年度入学生）

管理栄養学科(栄養教諭)

(◎必修)

免許法施行規則に定める 科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目 区分	各科目に含めることが 必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当 年次	
栄養に 係る教 育に関 する科 目	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ・幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項 ・食生活に関する歴史的及び文化的事項 	学校栄養指導論	◎	2	2	
	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する指導の方法に関する事項 	食育指導論	◎	2	3	
教員免許状取得の必修単位数: 栄養教諭一種 4単位						

別表第4の3 教員免許状の種類（2020年度入学生）

免許状授与の所要資格を得させるための課程をおく学部・学科		免許状の種類	免許教科	
工 学 部	機械工学科 電気電子情報工学科	中学校教諭一種免許状	技 術 数 学	
		高等学校教諭一種免許状	工 業 数 学	
	応用化学科	中学校教諭一種免許状	理 科	
		高等学校教諭一種免許状	工 業 理 科	
	情 報 学 部	情報工学科 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報メディア学科	高等学校教諭一種免許状	工 業
				情 報
創 造 工 学 部	自動車システム開発工学科	高等学校教諭一種免許状	工 業	
	ロボット・メカトロニクス学科	中学校教諭一種免許状	技 術	
		高等学校教諭一種免許状	工 業	
	ホームエレクトロニクス開発学科	中学校教諭一種免許状	技 術	
		高等学校教諭一種免許状	工 業	
応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	中学校教諭一種免許状	理 科	
		高等学校教諭一種免許状	理 科	
看 護 学 部	管理栄養学科	栄養教諭一種免許状		

【略】

別表第4の4 学芸員課程に関する科目（2020年度入学生）

【略】

別表第5 卒業要件（2020年度入学生）

- ・ 工学部 機械工学科
- ・ 工学部 電気電子情報工学科
- ・ 工学部 応用化学科
- ・ 情報学部 情報工学科
- ・ 情報学部 情報ネットワーク・コミュニケーション学科
- ・ 情報学部 情報メディア学科
- ・ 創造工学部 自動車システム開発工学科
- ・ 創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科
- ・ 創造工学部 ホームエレクトロニクス開発学科
- ・ 応用バイオ科学部 応用バイオ科学科
- ・ 看護学部 看護学科

別表第5 卒業要件（2020年度入学生）

看護学部 管理栄養学科

教育区分		必選別	卒業必要 単位数	
共通基盤教育	導入系	必修	1	
	倫理系	必修	2	
	人文社会系	a 群	選択	4
		b 群	選択	2
		c 群	選択	2
	倫理系、人文社会系（自由選択）		選択	2
	健康・スポーツ系		選択	1
	英語基礎系		選択	4
	言語応用系		選択	3
	数理情報系		必修	6
		(小計)	(27)	
専門教育		必修	64	
		選択	29	
		(小計)	(93)	
任意			4	
合計			124	

*注1

注1) 任意とは、以下の修得単位を示す。

共通基盤教育・専門教育の卒業要件をオーバーした修得単位、他学科・他
 大学科目、外国語系科目、留学生科目、Stop the CO₂プログラム科目、自
 由科目、教職に関する一部修得単位

別表第5 卒業要件（2020年度入学生）

看護学部 臨床工学科

教育区分		必選別	卒業必要単位数	
共通基盤教育	導入系	必修	1	
	倫理系	必修	2	
	人文社会系	a 群	選択	4
		b 群	選択	2
		c 群	選択	2
	健康・スポーツ系	選択	1	
	英語基礎系	選択	4	
	言語応用系	選択	3	
	数理情報系	選択	2	
		(小計)	(21)	
専門教育	専門基礎分野	人体の構造及び機能	必修	6
		医学的基礎	必修	14
		理工学的基礎	必修	20
		医療情報技術とシステム工学の基礎	必修	8
				(小計)
	専門分野	医用生体工学	必修	10
		医用機器学	必修	8
		生体機能代行技術学	必修	13
		医用安全管理学	必修	6
		関連臨床医学	必修	6
		臨床実習	必修	4
		その他	必修	4
				(小計)
			選択	4
	任意			12
合計			136	

臨床工学技士の国家試験の受験資格を得るためには、医用電気電子工学実習、医療統計学、放射線概論、画像診断機器学、人間工学、臨床人間工学、臨床検査概論、救急救命医学、チーム医療論の9科目を履修しなければならない。

卒業研究の単位を取得するためには、卒業研究と卒業判定試験の両方で一定水準以上の成績を収めなければならない。

別表第6 入学検定料・学生納付金（2020年度入学生）

入学検定料・学生納付金

学 科	費 目	入学検定料	入学金	授業料		合計	
				1年次	2年次	3年次	4年次
工学部 機械工学科 電気電子情報工学科 応用化学科				1年次	1,370,000円	1年次	1,570,000円
				2年次	1,390,000円	2年次	1,390,000円
				3年次	1,410,000円	3年次	1,410,000円
情報学部 情報工学科 情報ネットワーク・コミュニケ 情報メディア学科	① 30,000円 ② 15,000円	200,000円	4年次	1,430,000円	4年次	1,430,000円	
創造工学部 自動車システム開発工学科 ロボット・メカトロニクス学科 ホームエレクトロニクス開発学							
応用バイオ科学部 応用バイオ科学科							

学 科	費 目	入学検定料	入学金	授業料		合計	
				1年次	2年次	3年次	4年次
看護学部 管理栄養学科			200,000円	1年次	1,470,000円	1年次	1,670,000円
				2年次	1,490,000円	2年次	1,490,000円
				3年次	1,510,000円	3年次	1,510,000円
				4年次	1,530,000円	4年次	1,530,000円
看護学部 臨床工学科	① 30,000円 ② 15,000円	200,000円	1年次	1,460,000円	1年次	1,660,000円	
			2年次	1,480,000円	2年次	1,480,000円	
			3年次	1,500,000円	3年次	1,500,000円	
			4年次	1,520,000円	4年次	1,520,000円	
看護学部 看護学科			200,000円	1年次	1,660,000円	1年次	1,860,000円
				2年次	1,680,000円	2年次	1,680,000円
				3年次	1,700,000円	3年次	1,700,000円
				4年次	1,720,000円	4年次	1,720,000円

- (注) 1. この表の学生納付金は2020年度以降に入学する学生に適用する。但し、2019年度以前に入学した学生は、その入学年度に定めた学生納付金を納付する。
2. 表中の入学検定料①は、推薦入試、アドミッションズ・オフィス入試、一般入試並びに編入学、学士入学、再入学の各試験に適用し、②は、センター方式(大学入試センター試験利用による選抜)入試に適用する。
3. 編入学・学士入学・再入学する学生の納付金は、入学検定料及び入学金について当該入学年度の納付金額とし、その他の納付金は、編入学・学士入学・再入学の対象となる学年が納付する金額とする。
4. 休学者は、学生納付金(学籍管理料)として、半期5万円、年間10万円を納付する。

【略】

別表第7 研究生、科目等履修生及び特別聴講学生の納付金（2020年度入学生）

2020年度神奈川工科大学学則の一部変更

1. 変更事項及び変更理由

- (1) 第1条の4（人材の養成及び教育研究上の目的）の「別表B」を一部変更する。
- (2) 第2条（学部・学科及び収容定員）を一部変更する。
- (3) 第15条（授業科目及び単位数）の「別表第1」（共通基盤教育）、「別表第2」（専門教育・工学部臨床工学科、応用バイオ科学部栄養生命科学科）、「別表第3」（Stop the CO₂プログラム）、「別表第4の2」（教職）、「別表第4の3」（教員免許状の種類）を一部変更する。
- (4) 第21条（卒業）の「別表第5」を一部変更する。
- (5) 第43条（入学検定料・学生納付金）の「別表第6」を一部変更する。

理由：工学部臨床工学科及び応用バイオ科学部栄養生命科学科の改組再編のため

2. 変更年月日

2020年4月1日

3. 新旧対照表

別添のとおり

以上

神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）										
(2020年度入学生)	(2019年度入学生)										
第1条の4	第1条の4										
別表B「学部、学科等の人材の養成及び教育研究上の目的」	別表B「学部、学科等の人材の養成及び教育研究上の目的」										
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th data-bbox="241 338 1115 375">前略</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="241 378 1115 774"> <p>【工学部】 機械工学、電気電子情報工学、応用化学の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○機械工学科 機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者の育成</p> <p>○電気電子情報工学科 電気電子情報工学の基礎・専門技術を身につけ、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者の育成</p> <p>○応用化学科 応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成</p> </td> </tr> <tr> <th data-bbox="241 777 1115 805">中略</th> </tr> <tr> <td data-bbox="241 809 1115 1061"> <p>【応用バイオ科学部】 バイオ科学、バイオ技術、健康科学、栄養科学の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○応用バイオ科学科 バイオ科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身につけ、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できるバイオ技術者、バイオ支援技術者の育成</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 1064 1115 1412"> <p>【看護学部】 健康医療分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成</p> <p>○看護学科 看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成</p> <p>○管理栄養学科 栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成</p> <p>○臨床工学科 臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成</p> </td> </tr> </tbody> </table>	前略	<p>【工学部】 機械工学、電気電子情報工学、応用化学の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○機械工学科 機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者の育成</p> <p>○電気電子情報工学科 電気電子情報工学の基礎・専門技術を身につけ、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者の育成</p> <p>○応用化学科 応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成</p>	中略	<p>【応用バイオ科学部】 バイオ科学、バイオ技術、健康科学、栄養科学の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○応用バイオ科学科 バイオ科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身につけ、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できるバイオ技術者、バイオ支援技術者の育成</p>	<p>【看護学部】 健康医療分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成</p> <p>○看護学科 看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成</p> <p>○管理栄養学科 栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成</p> <p>○臨床工学科 臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th data-bbox="1120 338 1991 375">前略</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1120 378 1991 774"> <p>【工学部】 機械工学、電気電子情報工学、応用化学、<u>臨床工学</u>の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○機械工学科 機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者の育成</p> <p>○電気電子情報工学科 電気電子情報工学の基礎・専門技術を身につけ、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者の育成</p> <p>○応用化学科 応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成</p> <p>○<u>臨床工学科</u> 臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成</p> </td> </tr> <tr> <th data-bbox="1120 777 1991 805">中略</th> </tr> <tr> <td data-bbox="1120 809 1991 1061"> <p>【応用バイオ科学部】 バイオ科学、バイオ技術、健康科学、栄養科学の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○応用バイオ科学科 バイオ科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身につけ、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できるバイオ技術者、バイオ支援技術者の育成</p> <p>○<u>栄養生命科学科</u> 栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1120 1064 1991 1412"> <p>【看護学部】 看護学分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成</p> <p>○看護学科 看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成</p> </td> </tr> </tbody> </table>	前略	<p>【工学部】 機械工学、電気電子情報工学、応用化学、<u>臨床工学</u>の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○機械工学科 機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者の育成</p> <p>○電気電子情報工学科 電気電子情報工学の基礎・専門技術を身につけ、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者の育成</p> <p>○応用化学科 応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成</p> <p>○<u>臨床工学科</u> 臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成</p>	中略	<p>【応用バイオ科学部】 バイオ科学、バイオ技術、健康科学、栄養科学の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○応用バイオ科学科 バイオ科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身につけ、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できるバイオ技術者、バイオ支援技術者の育成</p> <p>○<u>栄養生命科学科</u> 栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成</p>	<p>【看護学部】 看護学分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成</p> <p>○看護学科 看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成</p>
前略											
<p>【工学部】 機械工学、電気電子情報工学、応用化学の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○機械工学科 機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者の育成</p> <p>○電気電子情報工学科 電気電子情報工学の基礎・専門技術を身につけ、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者の育成</p> <p>○応用化学科 応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成</p>											
中略											
<p>【応用バイオ科学部】 バイオ科学、バイオ技術、健康科学、栄養科学の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○応用バイオ科学科 バイオ科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身につけ、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できるバイオ技術者、バイオ支援技術者の育成</p>											
<p>【看護学部】 健康医療分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成</p> <p>○看護学科 看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成</p> <p>○管理栄養学科 栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成</p> <p>○臨床工学科 臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成</p>											
前略											
<p>【工学部】 機械工学、電気電子情報工学、応用化学、<u>臨床工学</u>の工学基盤に関する各分野の基礎知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○機械工学科 機械工学の基礎知識・技能を有し、これらを活用して工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者の育成</p> <p>○電気電子情報工学科 電気電子情報工学の基礎・専門技術を身につけ、それらを実際に応用して社会に貢献できる技術者の育成</p> <p>○応用化学科 応用化学分野の基礎知識を身につけ、科学分野の技術を通じて人類・社会に貢献できる科学技術者の育成</p> <p>○<u>臨床工学科</u> 臨床工学に関する専門的知識と実践的技術を身につけ、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献できる臨床工学技士の育成</p>											
中略											
<p>【応用バイオ科学部】 バイオ科学、バイオ技術、健康科学、栄養科学の各分野の基礎知識と専門知識・技術を身につけ、それらを活用して、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、社会で活躍できる人材の育成</p> <p>○応用バイオ科学科 バイオ科学とバイオ技術に関する基礎・専門知識を身につけ、それらを実際に応用して人類社会の利益と安全に貢献できるバイオ技術者、バイオ支援技術者の育成</p> <p>○<u>栄養生命科学科</u> 栄養士・管理栄養士としての基礎・応用の知識・技術を身につけ、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の育成</p>											
<p>【看護学部】 看護学分野の基礎知識・専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成</p> <p>○看護学科 看護師として必要な専門的知識と実践能力を身につけ、他の医療関係職種と連携・協働して、地域社会の医療体制の整備と充実に寄与することのできる人材の育成</p>											

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）				現行（旧）			
(2020年度入学生)				(2019年度入学生)			
前略				前略			
(学部・学科及び収容定員)				(学部・学科及び収容定員)			
第2条 本学に次の学部及び学科を置き、その収容定員は次のとおりとする。				第2条 本学に次の学部及び学科を置き、その収容定員は次のとおりとする。			
学部	学 科	入学定員	収容定員	学部	学 科	入学定員	収容定員
工学部	機械工学科	120名	480名	工学部	機械工学科	120名	480名
	電気電子情報工学科	78名	312名		電気電子情報工学科	78名	312名
	応用化学科	60名	240名		応用化学科	60名	240名
情報学部	情報工学科	155名	620名	情報学部	情報工学科	155名	620名
	情報ネットワーク・コミュニケーション学科	100名	400名		情報ネットワーク・コミュニケーション学科	100名	400名
	情報メディア学科	165名	660名		情報メディア学科	165名	660名
創造工学部	自動車システム開発工学科	55名	220名	創造工学部	自動車システム開発工学科	55名	220名
	ロボット・メカトロニクス学科	50名	200名		ロボット・メカトロニクス学科	50名	200名
	ホームエレクトロニクス開発学科	40名	160名		ホームエレクトロニクス開発学科	40名	160名
応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	125名	500名	応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	125名	500名
看護学部	看護学科	80名	320名	看護学部	看護学科	80名	320名
	管理栄養学科	80名	320名		管理栄養学科	80名	320名
	臨床工学科	40名	160名		臨床工学科	40名	160名
計		1,148名	4,592名	計		1,148名	4,592名
2. 前項の他に教職課程及び学芸員課程を置く。				2. 前項の他に教職課程及び学芸員課程を置く。			
以下省略				以下省略			
附 則 1. から 45. 省略				附 則 1. から 45. 省略			
46. この学則の改正は、平成31年4月1日から施行する。 なお、第2条の2、第2条の2の2、第2条の2の3の留学生別科を削除する。 特別課程に係る修了証明書の交付として第23条の2を追加する。				46. この学則の改正は、平成31年4月1日から施行する。 なお、第2条の2、第2条の2の2、第2条の2の3の留学生別科を削除する。 特別課程に係る修了証明書の交付として第23条の2を追加する。			
47. <u>この学則の改正は、2020年4月1日から施行する。</u> <u>なお、工学部臨床工学科、応用バイオ科学部管理栄養生命科学科を募集停止し、</u> <u>看護学部管理栄養学科、看護学部臨床工学科に改組する。</u>							

神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）

現行（旧）

別表第1 共通基礎教育（2020年度入学生）

- M-工学部機械工学科(MF-航空宇宙学専攻、MS-防災技術工学専攻)
E-工学部電気電子情報工学科
(EA-実践的プログラミング、EB-データサイエンス、EC-電気主任技術者コース)
C-工学部応用化学科(CA-化学応用コース、CJ-総合化学コース)

- I-情報学部情報工学科(スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む)
N-情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科(スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む)
D-情報学部情報メディア学科(スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む)
V-創造工学部自動車システム開発工学科
R-創造工学部ロボット・メカトロニクス学科(RS-一般コース、RE-教員養成コース)
H-創造工学部ホムエレクトロニクス開発学科(HA-一般コース、HB-健康工学コース、HE-教員養成コース)
B-応用バイオ科学部応用バイオ科学科

U-看護学部看護学科

U-看護学部管理栄養学科

A-看護学部臨床工学科

特別専攻-機械工学、電気電子特別専攻、医生命科学、ICTスペシャリスト、次世代自動車開発、ロボットクリエイター

(◎必須、□選択必修、○選択、一配当なし)

Table with columns for course name, department, and credit hours. Includes sections for Liberal Arts, Health Sciences, English, and Applied Languages.

以下省略

※下線の部分は変更箇所

別表第1 共通基礎教育（2018年度入学生）

- M-工学部機械工学科(MF-航空宇宙学専攻、MS-防災技術工学専攻)
E-工学部電気電子情報工学科
(EA-実践的プログラミング、EB-データサイエンス、EC-電気主任技術者コース)
C-工学部応用化学科(CA-化学応用コース、CJ-総合化学コース)
A-工学部情報工学科

- I-情報学部情報工学科(スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む)
N-情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科(スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む)
D-情報学部情報メディア学科(スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む)
V-創造工学部自動車システム開発工学科
R-創造工学部ロボット・メカトロニクス学科(RS-一般コース、RE-教員養成コース)
H-創造工学部ホムエレクトロニクス開発学科(HA-一般コース、HB-健康工学コース、HE-教員養成コース)
B-応用バイオ科学部応用バイオ科学科
U-応用バイオ科学部産業生命科学科
U-看護学部看護学科

特別専攻-機械工学、電気電子特別専攻、医生命科学、ICTスペシャリスト、次世代自動車開発、ロボットクリエイター

(◎必須、□選択必修、○選択、一配当なし)

Table with columns for course name, department, and credit hours. Includes sections for Liberal Arts, Health Sciences, English, and Applied Languages.

以下省略

神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）																						
授業科目	必選別																			単位数	標準年次	
	工学部								情報学部			創造工学部			応用バイオ科学部		看護学部					特別専攻
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	I	N	D	V	RS	H	B	U	L	Δ				
ドイツ語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	—	—	—	△	2	2	
フランス語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	—	—	—	△	2	2	
中国語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	—	—	—	△	2	2	
海外研修英語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	—	△	2	1・2・3・4	
海外異文化研修	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	—	△	2	1・2・3・4	
合計																			10			

(注) 1. 卒業要件上、任意として集計される。

現行（旧）																						
授業科目	必選別																			単位数	標準年次	
	工学部								情報学部			創造工学部			応用バイオ科学部		看護学部					特別専攻
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	I	N	D	V	RS	H	B	L	U	Δ				
ドイツ語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	—	—	—	△	2	2	
フランス語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	—	—	—	△	2	2	
中国語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	—	—	—	△	2	2	
海外研修英語	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	—	△	2	1・2・3・4	
海外異文化研修	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	—	△	2	1・2・3・4	
合計																			10			

(注) 1. 卒業要件上、任意として集計される。

留学生科目																						
授業科目	必選別																			単位数	標準年次	
	工学部								情報学部			創造工学部			応用バイオ科学部		看護学部					特別専攻
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	I	N	D	V	RS	H	B	U	L	Δ				
言語と文化Ⅰ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	2	
言語と文化Ⅱ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	2	
自己表現法Ⅰ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	3	
自己表現法Ⅱ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	3	
日本語・日本事情Ⅰ	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	1	
日本語・日本事情Ⅱ	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	1	
合計																			12			

(注) 1. 留学生以外の履修は、認めない。

2. 人文社会系、英語基礎系および言語応用系の一部科目に読み替えることがある。

3. 但しC Jコース生に読み替えはしない。

留学生科目																						
授業科目	必選別																			単位数	標準年次	
	工学部								情報学部			創造工学部			応用バイオ科学部		看護学部					特別専攻
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	I	N	D	V	RS	H	B	L	U	Δ				
言語と文化Ⅰ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	2	
言語と文化Ⅱ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	2	
自己表現法Ⅰ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	3	
自己表現法Ⅱ	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	3	
日本語・日本事情Ⅰ	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	1	
日本語・日本事情Ⅱ	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	2	1	
合計																			12			

(注) 1. 留学生以外の履修は、認めない。

2. 人文社会系、英語基礎系および言語応用系の一部科目に読み替えることがある。

3. 但しC Jコース生に読み替えはしない。

神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）					現行（旧）						
別表第2 専門教育（2020年度入学生） 看護学部 臨床工学科					別表第2 専門教育（2019年度入学生） 工学部 臨床工学科						
(◎必修、○選択)					(◎必修、○選択)						
科目区分	授業科目の名称	必選別	単位数	標準年次	科目区分	授業科目の名称	必選別	単位数	標準年次		
専門基礎科目	医学概論	◎	2	1	専門基礎科目	医学概論	◎	2	1		
	解剖学	◎	2	1		解剖学	◎	2	1		
	基礎医学実習	◎	2	1		基礎医学実習	◎	2	1		
	医学的基礎	公衆衛生学	◎	2		1	医学的基礎	公衆衛生学	◎	2	1
		生理学	◎	2		1		生理学	◎	2	1
		病理学	◎	2		2		病理学	◎	2	2
		生化学	◎	2		2		生化学	◎	2	2
		免疫学	◎	2		2		免疫学	◎	2	2
		薬理学	◎	2		2		薬理学	◎	2	2
	看護学概論	◎	2	2		看護学概論	◎	2	2		
	理工学的基礎	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	◎	2		1	理工学的基礎	電気工学Ⅰ（直流回路、交流回路）	◎	2	1
		電気工学Ⅱ（過渡現象、電磁気学）	◎	2		1		電気工学Ⅱ（過渡現象、電磁気学）	◎	2	1
		電気工学実習	◎	1		1		電気工学実習	◎	1	1
		電子工学Ⅰ（基礎）	◎	2		2		電子工学Ⅰ（基礎）	◎	2	2
		電子工学Ⅱ（発展）	◎	2		2		電子工学Ⅱ（発展）	◎	2	2
		電子工学実習	◎	1		2		電子工学実習	◎	1	2
		医用電気電子工学実習	○	1		3		医用電気電子工学実習	○	1	3
		機械工学	◎	2		1		機械工学	◎	2	1
		機械工学演習	◎	1		1		機械工学演習	◎	1	1
		材料工学	◎	2		2		材料工学	◎	2	2
計測工学		◎	2	2	計測工学	◎		2	2		
応用数学	◎	2	1	応用数学	◎	2	1				
応用数学演習	◎	1	1	応用数学演習	◎	1	1				
システム情報技術の基礎	医療統計学	○	1	2	システム情報技術の基礎	医療統計学	○	1	2		
	システム制御工学Ⅰ（基礎）	◎	2	3		システム制御工学Ⅰ（基礎）	◎	2	3		
	システム制御工学Ⅱ（発展）	◎	2	3		システム制御工学Ⅱ（発展）	◎	2	3		
	システム制御工学実習	◎	1	3		システム制御工学実習	◎	1	3		
	情報処理工学	◎	2	1		情報処理工学	◎	2	1		
情報処理工学実習	◎	1	1	情報処理工学実習	◎	1	1				
医療情報セキュリティ	○	2	3	医療情報セキュリティ	○	2	3				
医用生体工学	医用工学概論	◎	2	1	医用生体工学	医用工学概論	◎	2	1		
	生体計測機器学Ⅰ（基礎）	◎	2	1		生体計測機器学Ⅰ（基礎）	◎	2	1		
	生体計測機器学Ⅱ（発展）	◎	2	2		生体計測機器学Ⅱ（発展）	◎	2	2		
	生体計測機器学実習	◎	2	2		生体計測機器学実習	◎	2	2		
	生体物性工学	◎	2	3		生体物性工学	◎	2	3		
	医用機器学	医用機器学概論	◎	2		1	医用機器学	医用機器学概論	◎	2	1
		医用治療機器学Ⅰ（基礎）	◎	2		2		医用治療機器学Ⅰ（基礎）	◎	2	2
		医用治療機器学Ⅱ（発展）	◎	2		2		医用治療機器学Ⅱ（発展）	◎	2	2
		医用治療機器学実習	◎	2		2		医用治療機器学実習	◎	2	2
		放射線概論	○	2		3		放射線概論	○	2	3
画像診断機器学	○	2	3	画像診断機器学	○	2	3				
生体機能代行技術学	生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	◎	2	2	生体機能代行技術学	生体機能代行装置学Ⅰ（基礎）	◎	2	2		
	生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	◎	2	2		生体機能代行装置学Ⅱ（発展）	◎	2	2		
	血液浄化装置学	◎	2	2		血液浄化装置学	◎	2	2		
	呼吸療法装置学	◎	2	3		呼吸療法装置学	◎	2	3		
	体外循環装置学	◎	2	3		体外循環装置学	◎	2	3		
	生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	◎	2	3		生体機能代行装置学実習Ⅰ（基礎）	◎	2	3		
	生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	◎	1	3		生体機能代行装置学実習Ⅱ（発展）	◎	1	3		
医用安全管理学	医用機器安全管理学	◎	2	3	医用安全管理学	医用機器安全管理学	◎	2	3		
	医用機器安全管理学実習	◎	2	3		医用機器安全管理学実習	◎	2	3		
	関係法規	◎	2	2		関係法規	◎	2	2		
	人間工学	○	2	2		人間工学	○	2	2		
臨床人間工学	○	2	3	臨床人間工学	○	2	3				
関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）	◎	2	2	関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ（外科、内科、感染症等）	◎	2	2		
	臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）	◎	2	3		臨床医学総論Ⅱ（腎臓泌尿器系、消化器系等）	◎	2	3		
	臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）	◎	2	3		臨床医学総論Ⅲ（麻酔科学、手術部医学）	◎	2	3		
	臨床検査概論	○	2	3		臨床検査概論	○	2	3		
	救急救命医学	○	2	3		救急救命医学	○	2	3		
	チーム医療論	○	2	4		チーム医療論	○	2	4		
臨床実習	◎	4	4	臨床実習	◎	4	4				
その他	臨床工学セミナー	○	2	4	その他	臨床工学セミナー	○	2	4		
	卒業研究	◎	4	4		卒業研究	◎	4	4		
合計			119		合計			119			

※下線の部分は変更箇所

改正後（新）				
別表第2 専門教育（2020年度入学生） 看護学部 管理栄養学科				
教育区分	授業科目	必選別	単位数	標準年次
専門基礎	化学基礎	◎	2	1
	化学基礎実験	◎	1	1
	生物学概論	◎	2	1
	生物有機化学	◎	2	1
	生命科学概論	◎	2	1
	社会・環境と健康	◎	2	1
	健康管理論	◎	2	2
	公衆衛生学	◎	2	2
	解剖生理学Ⅰ	◎	2	1
	解剖生理学Ⅱ	◎	2	2
専門基礎	解剖生理学実験	◎	1	2
	生化学Ⅰ	◎	2	1
	生化学実験Ⅰ	◎	1	1
	生化学Ⅱ	◎	2	2
	生化学実験Ⅱ	◎	1	2
	微生物学	◎	2	1
	微生物学実験	◎	1	1
	病理生理学Ⅰ	◎	2	2
	病理生理学Ⅱ	◎	2	3
	食品学Ⅰ	◎	2	1
専門基礎	食品学実験Ⅰ	◎	1	2
	食品学Ⅱ	◎	2	2
	食品学実験Ⅱ	◎	1	2
	食品衛生学	◎	2	2
	食品衛生学実験	◎	1	2
	調理学	◎	2	1
	調理学実習Ⅰ	◎	1	1
	調理学実習Ⅱ	◎	1	1
	調理学実験	◎	1	2
	基礎栄養学	◎	2	2
専門基礎	基礎栄養学実験	◎	1	2
	応用栄養学Ⅰ	◎	2	2
	応用栄養学Ⅱ	◎	2	3
	応用栄養学Ⅲ	◎	2	3
	応用栄養学実習	◎	1	3
	栄養教育論Ⅰ	◎	2	2
	栄養教育論Ⅱ	◎	2	3
	栄養教育論Ⅲ	◎	2	3
	栄養教育論実習Ⅰ	◎	1	3
	栄養教育論実習Ⅱ	◎	1	3
専門基礎	臨床栄養学Ⅰ	◎	2	2
	臨床栄養学Ⅱ	◎	2	2
	臨床栄養学Ⅲ	◎	2	3
	臨床栄養学Ⅳ	◎	2	3
	臨床栄養学実習Ⅰ	◎	1	3
	臨床栄養学実習Ⅱ	◎	1	3
	公衆栄養学Ⅰ	◎	2	2
	公衆栄養学Ⅱ	◎	2	3
	公衆栄養学実習	◎	1	3
	給食経営管理論Ⅰ	◎	2	2
専門基礎	給食経営管理論Ⅱ	◎	2	2
	給食経営管理実習	◎	1	2
	総合演習	◎	2	3・4
	臨床栄養A臨床実習	◎	3	4
	臨床栄養B臨床実習	◎	2	4
	公衆栄養臨床実習	◎	1	4
	給食経営臨床実習	◎	1	3
	給食運営臨床実習	◎	1	3
	輪講	◎	2	4
	卒業研究	◎	4	4
専門	栄養サポーターチーム(NST)論	◎	2	3
	食品加工学	◎	2	3
	食品工学	◎	2	3
	食品官能評価論	◎	2	3
	食品物性学	◎	2	3
	食品分析学	◎	2	3
	食品機能学	◎	2	3
	管理栄養士基礎セミナー	◎	2	2
	専門演習Ⅰ	◎	1	4
	専門演習Ⅱ	◎	1	4
専門	給食経営システム論	◎	2	3
	分子栄養学	◎	2	3
	臨床生化学	◎	2	4
	Web技術入門	◎	2	2
	画像情報処理	◎	2	2
	情報統計	◎	2	3
	基礎栄養学概論	◎	2	1
	+α資格取得プロジェクトⅠ(食品産業)	◎	2	3・4
	+α資格取得プロジェクトⅡ(スポーツ栄養)	◎	2	3・4
	+α資格取得プロジェクトⅢ(家庭)	◎	2	3・4
+α資格取得プロジェクトⅣ(臨床栄養)	◎	2	3・4	
+α資格取得プロジェクトⅤ(食育)	◎	2	3・4	
合計			143	
(Stop the CO ₂ プログラム)				
Stop the CO ₂ 入門		Stop the CO2プログラム		
Stop the CO ₂ プロジェクトⅠ		別表第3参照		
Stop the CO ₂ プロジェクトⅡ		(注)卒業要件上、修得後の単位については、任意として集計される。		
Stop the CO ₂ プロジェクトⅢ				
Stop the CO ₂ 最前線				
環境と新エネルギー				
新素材と省エネ技術				
(教職関連)				
学校栄養指導論		別表第4-2参照		
食育指導論		(注1)卒業要件単位数には含まない。 (注2)教職課程登録者のみ履修可。		

現行（旧）				
別表第2 専門教育（2019年度入学生） 応用バイオ科学部 栄養生命科学科				
教育区分	授業科目	必選別	単位数	標準年次
専門基礎	化学基礎	◎	2	1
	化学基礎実験	◎	1	1
	生物学概論	◎	2	1
	生物有機化学	◎	2	1
	生命科学概論	◎	2	1
	社会・環境と健康	◎	2	1
	健康管理論	◎	2	2
	公衆衛生学	◎	2	2
	解剖生理学Ⅰ	◎	2	1
	解剖生理学Ⅱ	◎	2	2
専門基礎	解剖生理学実験	◎	1	2
	生化学Ⅰ	◎	2	1
	生化学実験Ⅰ	◎	1	1
	生化学Ⅱ	◎	2	2
	生化学実験Ⅱ	◎	1	2
	微生物学	◎	2	1
	微生物学実験	◎	1	1
	病理生理学Ⅰ	◎	2	2
	病理生理学Ⅱ	◎	2	3
	食品学Ⅰ	◎	2	1
専門基礎	食品学実験Ⅰ	◎	1	2
	食品学Ⅱ	◎	2	2
	食品学実験Ⅱ	◎	1	2
	食品衛生学	◎	2	2
	食品衛生学実験	◎	1	2
	調理学	◎	2	1
	調理学実習Ⅰ	◎	1	1
	調理学実習Ⅱ	◎	1	1
	調理学実験	◎	1	2
	基礎栄養学	◎	2	2
専門基礎	基礎栄養学実験	◎	1	2
	応用栄養学Ⅰ	◎	2	2
	応用栄養学Ⅱ	◎	2	3
	応用栄養学Ⅲ	◎	2	3
	応用栄養学実習	◎	1	3
	栄養教育論Ⅰ	◎	2	2
	栄養教育論Ⅱ	◎	2	3
	栄養教育論Ⅲ	◎	2	3
	栄養教育論実習Ⅰ	◎	1	3
	栄養教育論実習Ⅱ	◎	1	3
専門基礎	臨床栄養学Ⅰ	◎	2	2
	臨床栄養学Ⅱ	◎	2	2
	臨床栄養学Ⅲ	◎	2	3
	臨床栄養学Ⅳ	◎	2	3
	臨床栄養学実習Ⅰ	◎	1	3
	臨床栄養学実習Ⅱ	◎	1	3
	公衆栄養学Ⅰ	◎	2	2
	公衆栄養学Ⅱ	◎	2	3
	公衆栄養学実習	◎	1	3
	給食経営管理論Ⅰ	◎	2	2
専門基礎	給食経営管理論Ⅱ	◎	2	2
	給食経営管理実習	◎	1	2
	総合演習	◎	2	3・4
	臨床栄養A臨床実習	◎	3	4
	臨床栄養B臨床実習	◎	2	4
	公衆栄養臨床実習	◎	1	4
	給食経営臨床実習	◎	1	3
	給食運営臨床実習	◎	1	3
	輪講	◎	2	4
	卒業研究	◎	4	4
専門	栄養サポーターチーム(NST)論	◎	2	3
	食品加工学	◎	2	3
	食品工学	◎	2	3
	食品官能評価論	◎	2	3
	食品物性学	◎	2	3
	食品分析学	◎	2	3
	食品機能学	◎	2	3
	管理栄養士基礎セミナー	◎	2	2
	専門演習Ⅰ	◎	1	4
	専門演習Ⅱ	◎	1	4
専門	給食経営システム論	◎	2	3
	分子栄養学	◎	2	3
	臨床生化学	◎	2	4
	Web技術入門	◎	2	2
	画像情報処理	◎	2	2
	情報統計	◎	2	3
	基礎栄養学概論	◎	2	1
	+α資格取得プロジェクトⅠ(食品産業)	◎	2	3・4
	+α資格取得プロジェクトⅡ(スポーツ栄養)	◎	2	3・4
	+α資格取得プロジェクトⅢ(家庭)	◎	2	3・4
+α資格取得プロジェクトⅣ(臨床栄養)	◎	2	3・4	
+α資格取得プロジェクトⅤ(食育)	◎	2	3・4	
合計			143	
(Stop the CO ₂ プログラム)				
Stop the CO ₂ 入門		Stop the CO2プログラム		
Stop the CO ₂ プロジェクトⅠ		別表第3参照		
Stop the CO ₂ プロジェクトⅡ		(注)卒業要件上、修得後の単位については、任意として集計される。		
Stop the CO ₂ プロジェクトⅢ				
Stop the CO ₂ 最前線				
環境と新エネルギー				
新素材と省エネ技術				
(教職関連)				
学校栄養指導論		別表第4-2参照		
食育指導論		(注1)卒業要件単位数には含まない。 (注2)教職課程登録者のみ履修可。		

神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）	現行（旧）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
<p>別表第3 Stop the CO₂プログラム（2020年度入学生）</p> <p>Mー工学部機械工学科（MS クリエイティブエンジニアコース、MJ グローバルエンジニアコース、MF 航空宇宙学専攻） Eー工学部電気電子情報工学科（EA 実践的エンジニアコース、EB グローバルエンジニアコース、EC 電気主任技術者コース） Cー工学部応用化学科（CA 化学応用コース、CJ 総合化学エンジニアコース）</p> <p>Iー情報学部情報工学科（スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む） Nー情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科（スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む） Dー情報学部情報メディア学科（スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む） Vー創造工学部自動車システム開発工学科 Rー創造工学部ロボット・メカトロニクス学科（RS一般コース、RE-教員養成コース） Hー創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科（HA一般コース、HS-健康福祉コース、HE-教員養成コース） Bー応用バイオ科学部応用バイオ科学科</p> <p>Uー看護学部看護学科 Lー看護学部管理栄養学科 Aー看護学部臨床工学科</p> <p>特別専攻ー機械工学、電気電子、医生命科学、ICTスペシャリスト、次世代自動車開発、ロボットクリエイター （○選択、△自由、一配当無し）</p>	<p>別表第3 Stop the CO₂プログラム（2019年度入学生）</p> <p>Mー工学部機械工学科（MS クリエイティブエンジニアコース、MJ グローバルエンジニアコース、MF 航空宇宙学専攻） Eー工学部電気電子情報工学科（EA 実践的エンジニアコース、EB グローバルエンジニアコース、EC 電気主任技術者コース） Cー工学部応用化学科（CA 化学応用コース、CJ 総合化学エンジニアコース） <u>Aー工学部臨床工学科</u> Iー情報学部情報工学科（スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む） Nー情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科（スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む） Dー情報学部情報メディア学科（スポーツ情報科学コース、サウンドコミュニケーションコース含む） Vー創造工学部自動車システム開発工学科 Rー創造工学部ロボット・メカトロニクス学科（RS一般コース、RE-教員養成コース） Hー創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科（HA一般コース、HS-健康福祉コース、HE-教員養成コース） Bー応用バイオ科学部応用バイオ科学科 <u>Lー応用バイオ科学部栄養生命科学科</u> Uー看護学部看護学科</p> <p>特別専攻ー機械工学、電気電子、医生命科学、ICTスペシャリスト、次世代自動車開発、ロボットクリエイター （○選択、△自由、一配当無し）</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">授業科目</th> <th colspan="19">必選別</th> <th rowspan="3">単位数</th> <th rowspan="3">標準年次</th> </tr> <tr> <th colspan="9">工学部</th> <th colspan="10">情報学部</th> </tr> <tr> <th>MS</th><th>MJ</th><th>MF</th><th>EA</th><th>EB</th><th>EC</th><th>CA</th><th>CJ</th><th></th> <th>I</th><th>N</th><th>D</th><th>V</th><th>RS</th><th>H</th><th>B</th><th></th><th>U</th><th>L</th><th>A</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="21">[Stop the CO₂専用科目群]</td> </tr> <tr> <td>a群</td> <td>Stop the CO₂入門</td> <td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>2</td><td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Stop the CO₂プロジェクトI</td> <td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>1</td><td>1</td> </tr> <tr> <td>b群</td> <td>Stop the CO₂プロジェクトII</td> <td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>2</td><td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Stop the CO₂プロジェクトIII</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td>c群</td> <td>Stop the CO₂最前線</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>環境と新エネルギー</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>新素材と省エネ技術</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td colspan="21">[各学科提供StopTheCO₂関連科目群]</td> </tr> <tr> <td>伝熱工学</td> <td>[M科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>環境・エネルギー</td> <td>[E科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>エネルギーと電力システム制御</td> <td>[E科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>環境保全・エコロジー</td> <td>[C科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>大気・水質環境</td> <td>[C科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>エネルギー化学入門J</td> <td>[C科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>自動車エンジン工学</td> <td>[V科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>スマートハウスとエネルギー管理</td> <td>[H科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>微生物学</td> <td>[B科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>生物学</td> <td>[B科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> </tbody> </table> <p>1. [Stop the CO₂専用科目群・各学科提供StopTheCO₂関連科目群]の配当学科以外の科目は、他学科履修となります。 2. Stop the CO₂プログラムの科目から、11単位以上を修得した場合に修了証を交付する。 なお、a群からc群は、各群1科目以上合計7単位以上の修得を条件とする。</p>	授業科目	必選別																			単位数	標準年次	工学部									情報学部										MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ		I	N	D	V	RS	H	B		U	L	A	[Stop the CO ₂ 専用科目群]																					a群	Stop the CO ₂ 入門	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	1		Stop the CO ₂ プロジェクトI	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	1	1	b群	Stop the CO ₂ プロジェクトII	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	2		Stop the CO ₂ プロジェクトIII	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3	c群	Stop the CO ₂ 最前線	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3		環境と新エネルギー	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3		新素材と省エネ技術	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3	[各学科提供StopTheCO ₂ 関連科目群]																					伝熱工学	[M科開講科目]																						環境・エネルギー	[E科開講科目]																						エネルギーと電力システム制御	[E科開講科目]																						環境保全・エコロジー	[C科開講科目]																						大気・水質環境	[C科開講科目]																						エネルギー化学入門J	[C科開講科目]																						自動車エンジン工学	[V科開講科目]																						スマートハウスとエネルギー管理	[H科開講科目]																						微生物学	[B科開講科目]																						生物学	[B科開講科目]																						<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">授業科目</th> <th colspan="19">必選別</th> <th rowspan="3">単位数</th> <th rowspan="3">標準年次</th> </tr> <tr> <th colspan="9">工学部</th> <th colspan="10">情報学部</th> </tr> <tr> <th>MS</th><th>MJ</th><th>MF</th><th>EA</th><th>EB</th><th>EC</th><th>CA</th><th>CJ</th><th>A</th> <th>I</th><th>N</th><th>D</th><th>V</th><th>RS</th><th>H</th><th>B</th><th>L</th><th>U</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="21">[Stop the CO₂専用科目群]</td> </tr> <tr> <td>a群</td> <td>Stop the CO₂入門</td> <td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>2</td><td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Stop the CO₂プロジェクトI</td> <td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>1</td><td>1</td> </tr> <tr> <td>b群</td> <td>Stop the CO₂プロジェクトII</td> <td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>2</td><td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Stop the CO₂プロジェクトIII</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td>c群</td> <td>Stop the CO₂最前線</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>環境と新エネルギー</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>新素材と省エネ技術</td> <td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> <td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td colspan="21">[各学科提供StopTheCO₂関連科目群]</td> </tr> <tr> <td>伝熱工学</td> <td>[M科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>環境・エネルギー</td> <td>[E科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>エネルギーと電力システム制御</td> <td>[E科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>環境保全・エコロジー</td> <td>[C科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>大気・水質環境</td> <td>[C科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>エネルギー化学入門J</td> <td>[C科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>自動車エンジン工学</td> <td>[V科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>スマートハウスとエネルギー管理</td> <td>[H科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>微生物学</td> <td>[B科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> <tr> <td>生物学</td> <td>[B科開講科目]</td> <td colspan="19"></td> <td></td><td></td> </tr> </tbody> </table> <p>1. [Stop the CO₂専用科目群・各学科提供StopTheCO₂関連科目群]の配当学科以外の科目は、他学科履修となります。 2. Stop the CO₂プログラムの科目から、11単位以上を修得した場合に修了証を交付する。 なお、a群からc群は、各群1科目以上合計7単位以上の修得を条件とする。</p>	授業科目	必選別																			単位数	標準年次	工学部									情報学部										MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	A	I	N	D	V	RS	H	B	L	U	[Stop the CO ₂ 専用科目群]																					a群	Stop the CO ₂ 入門	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	1		Stop the CO ₂ プロジェクトI	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	1	1	b群	Stop the CO ₂ プロジェクトII	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	2		Stop the CO ₂ プロジェクトIII	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3	c群	Stop the CO ₂ 最前線	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3		環境と新エネルギー	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3		新素材と省エネ技術	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3	[各学科提供StopTheCO ₂ 関連科目群]																					伝熱工学	[M科開講科目]																						環境・エネルギー	[E科開講科目]																						エネルギーと電力システム制御	[E科開講科目]																						環境保全・エコロジー	[C科開講科目]																						大気・水質環境	[C科開講科目]																						エネルギー化学入門J	[C科開講科目]																						自動車エンジン工学	[V科開講科目]																						スマートハウスとエネルギー管理	[H科開講科目]																						微生物学	[B科開講科目]																						生物学	[B科開講科目]																					
授業科目		必選別																					単位数	標準年次																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		工学部									情報学部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ		I	N	D	V	RS	H	B		U	L	A																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
[Stop the CO ₂ 専用科目群]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
a群	Stop the CO ₂ 入門	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	Stop the CO ₂ プロジェクトI	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
b群	Stop the CO ₂ プロジェクトII	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	Stop the CO ₂ プロジェクトIII	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
c群	Stop the CO ₂ 最前線	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	環境と新エネルギー	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	新素材と省エネ技術	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
[各学科提供StopTheCO ₂ 関連科目群]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
伝熱工学	[M科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
環境・エネルギー	[E科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
エネルギーと電力システム制御	[E科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
環境保全・エコロジー	[C科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
大気・水質環境	[C科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
エネルギー化学入門J	[C科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
自動車エンジン工学	[V科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
スマートハウスとエネルギー管理	[H科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
微生物学	[B科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
生物学	[B科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
授業科目	必選別																			単位数	標準年次																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	工学部									情報学部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	MS	MJ	MF	EA	EB	EC	CA	CJ	A	I	N	D	V	RS	H	B	L	U																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
[Stop the CO ₂ 専用科目群]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
a群	Stop the CO ₂ 入門	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	Stop the CO ₂ プロジェクトI	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
b群	Stop the CO ₂ プロジェクトII	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	Stop the CO ₂ プロジェクトIII	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
c群	Stop the CO ₂ 最前線	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	環境と新エネルギー	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	新素材と省エネ技術	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
[各学科提供StopTheCO ₂ 関連科目群]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
伝熱工学	[M科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
環境・エネルギー	[E科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
エネルギーと電力システム制御	[E科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
環境保全・エコロジー	[C科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
大気・水質環境	[C科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
エネルギー化学入門J	[C科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
自動車エンジン工学	[V科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
スマートハウスとエネルギー管理	[H科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
微生物学	[B科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
生物学	[B科開講科目]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
*下線の部分は変更箇所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			

神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）							現行（旧）						
別表4の2 栄養に係る教育に関する科目（2020年度入学生）							別表第4の2 栄養に係る教育に関する科目（2019年度入学生）						
管理栄養学科(栄養教諭)							栄養生命科学科(栄養教諭)						
(◎必修)							(◎必修)						
免許法施行規則に定める 科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考	免許法施行規則に定める 科目区分等		左記に対応する開設授業科目				備考
科目 区分	各科目に含めることが 必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当 年次		科目 区分	各科目に含めることが 必要な事項	授業科目	必選別	単位数	配当 年次	
栄養 に係る 教育に 関する 科目	・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	学校栄養指導論	◎	2	2		栄養 に係る 教育に 関する 科目	・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	学校栄養指導論	◎	2	2	
	・幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項							・幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項					
	・食生活に関する歴史的及び文化的事項	食育指導論	◎	2	3			食育指導論	◎	2	3		
	・食に関する指導の方法に関する事項						・食に関する指導の方法に関する事項						
教員免許状取得の必修単位数:栄養教諭一種 4単位							教員免許状取得の必修単位数:栄養教諭一種 4単位						

※下線の部分は変更箇所

神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）			現行（旧）				
別表第4の3 教員免許状の種類（2020年度入学生）			別表第4の3 教員免許状の種類（2019年度入学生）				
免許状授与の所要資格を得させるための課程をおく学部・学科	免許状の種類	免許教科	免許状授与の所要資格を得させるための課程をおく学部・学科	免許状の種類	免許教科		
工学部	機械工学科 電気電子情報工学科	中学校教諭一種免許状	技術	工学部	機械工学科 電気電子情報工学科	中学校教諭一種免許状	技術
		高等学校教諭一種免許状	数学			高等学校教諭一種免許状	数学
	中学校教諭一種免許状		工業		中学校教諭一種免許状		工業
		高等学校教諭一種免許状	数学			高等学校教諭一種免許状	数学
	応用化学科		中学校教諭一種免許状		理科		応用化学科
		高等学校教諭一種免許状	工業		高等学校教諭一種免許状	工業	
情報学部	情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報メディア学科	高等学校教諭一種免許状	工業	情報学部	情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報メディア学科	高等学校教諭一種免許状	工業
			情報				情報
創造工学部	自動車システム開発工学科	高等学校教諭一種免許状	工業	創造工学部	自動車システム開発工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
	ロボット・メカトロニクス学科	中学校教諭一種免許状	技術		ロボット・メカトロニクス学科	中学校教諭一種免許状	技術
		高等学校教諭一種免許状	工業			高等学校教諭一種免許状	工業
	ホームエレクトロニクス開発学科	中学校教諭一種免許状	技術		ホームエレクトロニクス開発学科	中学校教諭一種免許状	技術
		高等学校教諭一種免許状	工業			高等学校教諭一種免許状	工業
	応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	中学校教諭一種免許状		理科	応用バイオ科学部	応用バイオ科学科
高等学校教諭一種免許状			理科	高等学校教諭一種免許状	理科		
看護学部	管理栄養学科	栄養教諭一種免許状		看護学部	管理栄養学科	栄養教諭一種免許状	

神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）				現行（旧）					
別表第5（2020年度入学生）				別表第5（2019年度入学生）					
看護学部 臨床工学科				工学部 臨床工学科					
教育区分		必選別	卒業必要単位数	教育区分		必選別	卒業必要単位数		
共通基盤教育	導入系	必修	1	共通基盤教育	導入系	必修	1		
	倫理系	必修	2		倫理系	必修	2		
	人文社会系	a 群	選択		4	人文社会系	a 群	選択	4
		b 群	選択		2		b 群	選択	2
		c 群	選択		2		c 群	選択	2
	健康・スポーツ系	選択	1		健康・スポーツ系	選択	1		
	英語基礎系	選択	4		英語基礎系	選択	4		
	言語応用系	選択	3		言語応用系	選択	3		
	教理情報系	選択	2		教理情報系	選択	2		
		(小計)	(21)			(小計)	(21)		
以下省略				以下省略					
看護学部 管理栄養学科				応用バイオ科学部 栄養生命科学科					
教育区分		必選別	卒業必要単位数	教育区分		必選別	卒業必要単位数		
共通基盤教育	導入系	必修	1	共通基盤教育	導入系	必修	1		
	倫理系	必修	2		倫理系	必修	2		
	人文社会系	a 群	選択		4	人文社会系	a 群	選択	4
		b 群	選択		2		b 群	選択	2
		c 群	選択		2		c 群	選択	2
	倫理系、人文社会系（自由選択）	選択	2		倫理系、人文社会系（自由選択）	選択	2		
	健康・スポーツ系	選択	1		健康・スポーツ系	選択	1		
	英語基礎系	選択	4		英語基礎系	選択	4		
	言語応用系	選択	3		言語応用系	選択	3		
教理情報系	必修	6	教理情報系	必修	6				
		(小計)	(27)			(小計)	(27)		
以下省略				以下省略					

神奈川工科大学学則の一部変更（案）新旧対照表

改正後（新）

現行（旧）

別表第6（2020年度入学生）

入学検定料・学生納付金

学 科	費 目	入学検定料	入学金	授業料		合計	
				1年次	2年次		3年次
工学部		① 30,000円 ② 15,000円	200,000円	1年次	1,370,000円	1年次	1,570,000円
機械工学科				2年次	1,390,000円	2年次	1,390,000円
電気電子情報工学科				3年次	1,410,000円	3年次	1,410,000円
応用化学科				4年次	1,430,000円	4年次	1,430,000円
情報学部							
情報工学科							
情報ネットワーク・コミュニケーション学科							
情報メディア学科							
創造工学部							
自動車システム開発工学科							
ロボット・メカトロニクス学科							
ホームエレクトロニクス開発学科							
応用バイオ科学部							
応用バイオ科学科							

学 科	費 目	入学検定料	入学金	授業料		合計	
				1年次	2年次		3年次
看護学部		① 30,000円 ② 15,000円	200,000円	1年次	1,470,000円	1年次	1,670,000円
管理栄養学科				2年次	1,490,000円	2年次	1,490,000円
				3年次	1,510,000円	3年次	1,510,000円
				4年次	1,530,000円	4年次	1,530,000円
看護学部							
臨床工学科							
看護学部							
看護学科							

別表第6（2019年度入学生）

入学検定料・学生納付金

学 科	費 目	入学検定料	入学金	授業料		合計	
				1年次	2年次		3年次
工学部		① 30,000円 ② 15,000円	200,000円	1年次	1,370,000円	1年次	1,570,000円
機械工学科				2年次	1,390,000円	2年次	1,390,000円
電気電子情報工学科				3年次	1,410,000円	3年次	1,410,000円
応用化学科				4年次	1,430,000円	4年次	1,430,000円
情報学部							
情報工学科							
情報ネットワーク・コミュニケーション学科							
情報メディア学科							
創造工学部							
自動車システム開発工学科							
ロボット・メカトロニクス学科							
ホームエレクトロニクス開発学科							
応用バイオ科学部							
応用バイオ科学科							

学 科	費 目	入学検定料	入学金	授業料		合計	
				1年次	2年次		3年次
応用バイオ科学部		① 30,000円 ② 15,000円	200,000円	1年次	1,470,000円	1年次	1,670,000円
栄養生命科学科				2年次	1,490,000円	2年次	1,490,000円
				3年次	1,510,000円	3年次	1,510,000円
				4年次	1,530,000円	4年次	1,530,000円
工学部							
臨床工学科							
看護学部							
看護学科							

- この表の学生納付金は2020年度以降に入学する学生に適用する。但し、2019年度以前に入学した学生は、その入学年度に定めた学生納付金を納付する。
- 表中の入学検定料①は、推薦入試、アドミッションズ・オフィス入試、一般入試並びに編入学、学士入学、再入学の各試験に適用し、②は、センター方式(大学入試センター試験利用による選抜)入試に適用する。
- 編入学・学士入学・再入学する学生の納付金は、入学検定料及び入学金について当該入学年度の納付金額とし、その他の納付金は、編入学・学士入学・再入学の対象となる学年が納付する金額とする。
- 休学者は、学生納付金(学籍管理料)として、半期5万円、年間10万円を納付する。

- (注) この表の学生納付金は2019年度以降に入学する学生に適用する。但し、2018年度以前に入学した学生は、その入学年度に定めた学生納付金を納付する。
- 表中の入学検定料①は、推薦入試、アドミッションズ・オフィス入試、一般入試並びに編入学、学士入学、再入学の各試験に適用し、②は、センター方式(大学入試センター試験利用による選抜)入試に適用する。
 - 編入学・学士入学・再入学する学生の納付金は、入学検定料及び入学金について当該入学年度の納付金額とし、その他の納付金は、編入学・学士入学・再入学の対象となる学年が納付する金額とする。
 - 休学者は、学生納付金(学籍管理料)として、半期5万円、年間10万円を納付する。

神奈川工科大学 教授会運営規程

- 第 1 条 教授会の運営については学則第7条に定めるもののほか本規程の定めるところによる。
- 第 2 条 教授会は教授現在員の過半数が出席しなければ開催することができない。但し、長期病欠者及び公務出張者は、ここでの現在員に含まれないものとする。
- 第 3 条 教授会の議事は、出席構成員の過半数によって決し、賛否同数のときは議長の決するところによる。
- 第 4 条 教授会は原則として、月1回開くものとする。但し、学長が必要と認めた場合は、臨時に教授会を開くことができる。
- 第 5 条 本規程は、合同教授会を召集する場合に準用する。
- 第 6 条 本規程の改正は、学長が発議する。
- 附 則 1. 本規程は、平成2年4月1日から施行する。
2. 本規程の改正は、平成27年4月1日から実施する。

① 設置の趣旨及び必要性

1 本学が担うべき目的と役割 —教育研究組織の改編状況—

本学では、開学以来、伝統的な工学分野に関する教育研究を中心として、生活の利便向上のための技術教育を展開してきたが、現代社会においては、科学と技術の融合なくしては、真の技術者教育は困難なことから、自然認識を深めるための科学教育を加えた幅広い科学技術教育としての充実を図るとともに、この本学の教育目的を適切に表現するために、昭和63年4月より、大学名称を幾徳工業大学から神奈川工科大学へと改称した。

以来、工学分野における教育内容を基盤として、科学技術としての教育内容の整備と充実に努め、平成15年4月には、工学部の情報系学科の発展的な改組による情報学部を設置し、平成18年4月には、機械工学、電気電子工学、情報工学などの基幹分野における教育内容の融合による自動車システム開発工学科とロボット・メカトロニクス学科、平成20年4月からは、ホームエレクトロニクス開発学科を設置するとともに、上記の3学科構成の創造工学部を新設した。

一方、学則第一章、第一条に掲げている本学の目的である「教育基本法に則り、学校教育法の定める大学として広く知識を授けると共に深く専門の学芸を教授研究し、豊かな教養と円満な人格を備えた有為な人材を育て文化の発展と人類福祉の増進に寄与すること」のさらなる具現化にむけて、特に、「人類福祉の増進に寄与すること」の具現化を目指して、工学分野及び情報分野に加え、生命・健康分野を新たな教育研究対象とすることとした。

具体的には、平成18年4月に工学部の応用化学科の教育内容を基礎として、生命科学やバイオテクノロジーを教育研究対象とし、健康・医療バイオなどに関する教育内容を教授する応用バイオ科学科を設置し、その後、平成20年4月には、工学部から応用バイオ科学科を発展的に独立させ、応用バイオ科学部を設置した。

また、平成22年4月には、地域における保健医療や産業社会の多様化による栄養管理を取り巻く諸情勢を踏まえ、応用バイオ科学部に管理栄養士の養成を目的とする栄養生命科学科を設置し、NST（栄養サポートチーム）に対応できる管理栄養士の育成にむけて、臨床栄養のプロジェクト教育を推進している。

さらに、学則第一章、第一条に掲げている大学の目的を具現化するものとして推進してきた生命・健康分野の新たな教育研究組織として、平成27年4月に看護学部を設置するとともに、工学部に臨床工学科を設置し、大学の目的として掲げている「人類福祉の増進に寄与すること」の具現化にむけて、生命・健康分野の教育研究組織の整備と充実に努めてきた。

2 設置の趣旨及び必要性

今後、本学が社会の多様な期待や要請に適切に応え、自律性に基づく多様化や個性化を推進していくためには、自らの責任において、社会や学生のニーズに対応した教育組織の構築や教育内容の充実、教育方法の改善など、学部教育における組織改革と教育改革に格

段の努力を注ぐことが重要である。

一方、18歳人口の減少や高学歴志向の高まりなど、高等教育を取り巻く環境が変化しており、その方向性も多様化していることから、時代の変化と社会の要請に柔軟に対応しつつ、学部教育の多様な発展に向けた、特色ある教育研究に取り組むことによる、独自性を発展的に実現する必要性が生じている。

また、学術研究の高度化に伴い学部教育が対象とする専門領域も広範に及んできていることから、進学希望者の興味と関心や学習意欲に柔軟に応えていくために、学生の選択の幅や流動性を高める工夫も重要となっており、学術研究の進展や進学希望者の動向を勘案した教育組織の整備が求められている。

このような高等教育を取り巻く社会環境の変化や進学希望者の動向などを十分に踏まえるとともに、特に、昨今の地域社会における保健・医療・福祉サービスの動向を見据えたうえで、既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科と工学部の臨床工学科を発展的に改組転換し、令和2年4月より既設の看護学部管理栄養学科と臨床工学科を設置することとした。(資料1)

なお、今般の管理栄養学科と臨床工学科の設置計画では、既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科と工学部の臨床工学科における教育研究上の目的、養成する人材、教育課程、授与する学位の分野等に変更がない計画としていることから、開設年次を第1年次から第4年次とし、既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科と工学部の臨床工学科に在籍している学生について、管理栄養学科と臨床工学科に移籍させることとしている。

既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科と工学部の臨床工学科からの移籍に関する在学生への対応については、平成30年11月15日付けで、学長名により本学の掲示板とKait Walkerにおいて、対象となる全ての在学生に対して告知したうえで、平成30年11月15日～11月30日まで、対象となる在学生に対する個別説明の窓口を設けることにより対応し、同意を得ている。

また、保護者等への対応については、平成30年11月15日付けで、学長名による説明文を対象となる全ての保護者等宛に通知したうえで、平成30年11月15日～11月30日まで、対象となる保護者等に対する個別説明の窓口を設けることにより対応し、同意を得ている。

3 看護学部管理栄養学科を設置する理由

既設の看護学部管理栄養学科を設置する理由は、管理栄養士の業務は「傷病者に対する療養のための必要な栄養の指導」、「個人の身体の状況、栄養状態等に応じた高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導」、「特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体の状況、栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等」とされており、管理栄養士には、保健・医療・福祉サービスの担い手として、その役割を發揮することが期待されている。

特に、近年、食事は単なる嗜好だけの問題ではなく、人間の健康を左右するものとして、益々重要視され、現在では「食」は人間の健康の維持・増進あるいは医療等、健康の保持・管理の最も重要な手段の一つとされているとともに、がん、循環器病、糖尿病などの生活習慣病が国民の健康維持における大きな問題となっていることから、これらの生活習慣の改善、疾病の発症や進行などを防ぐために、保健・医療・福祉サービスの担い手としての管理栄養士への期待が高まりをみせており、このような管理栄養士が担う役割や業務を踏まえて、看護学部管理栄養学科を設置し、看護学科、管理栄養学科、臨床工学科の3学科体制とすることで、「地域社会における保健・医療・福祉サービスの発展と向上に貢献する」ための学部教育の機能の充実を目指すものである。

なお、今般、看護学部管理栄養学科と臨床工学科が設置された際には、管理栄養学科と臨床工学科の設置に伴う学部教育における教育研究の目的や養成する人材、組織として研究対象とする中心的な学問分野について、地域社会や受験生に分かり易い名称とすることから、学部の名称を現在の看護学部から健康医療科学部に変更することとしている。

4 卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要

(1) 卒業後の進路

管理栄養学科の卒業後の進路としては、病院や診療所などの医療機関、介護保険施設や障害者施設・児童施設などの社会福祉施設、小学校や中学校などの学校教育施設、事業所や寮、健康管理部門などの福利厚生施設、大学や企業の研究室などの研究・教育機関、保健所や保健センターなどの行政機関、食品・栄養関連企業等における技術・研究部門など、幅広い分野での活躍が期待される。

(2) 既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科の求人実績

既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科では、開設以来、栄養指導や栄養管理に関する基礎・応用の知識・技術を身に付け、それらを活用する力を持ち、人類の健康と人類社会の安全に貢献できる人材の養成にむけて、常に教育研究の改善に努めてきたことから、地域社会からの高い評価と信頼を得ており、これまで栄養生命科学科に寄せられた求人件数の実績からしても、人材を受け入れる側の需要の高さをうかがうことができる。(資料2)

今般の管理栄養学科の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科における卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、栄養指導や栄養管理に関する実践能力を有した幅広い職業人の養成を目指して、教育内容を充実して設置することから、これまで以上の求人件数を見込むことができるものと考えている。

(3) 卒業生の採用意向調査

管理栄養学科の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科への求人実績のある医療機関等を対象として管理栄養士の採用見込みや管理栄養

学科の設置の必要性と養成する人材及び管理栄養学科の卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、医療機関等における管理栄養士の採用見込については、有効回答数113機関の約78.76%にあたる89機関が「増加すると思う」と回答していることから、医療機関等における今後の管理栄養士の採用見込はあるものと考えられる。

また、神奈川工科大学の管理栄養学科の社会的な必要性については、有効回答数113機関の約95.58%にあたる108機関が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の管理栄養学科で養成する人材については、有効回答数113機関の約95.58%にあたる108機関が「必要性を感じる」と回答していることから、神奈川工科大学の管理栄養学科の社会的な必要性の高さをうかがうことができる。

さらに、神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生の採用については、有効回答数113機関の約91.15%にあたる103機関が「採用したいと思う」と回答しており、神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生の採用人数については、「3人以上」と回答した医療機関等の採用人数を3人、「人数は未定」と回答した医療機関等の採用人数を1人として、これらの採用人数を合計すると152人となり、この採用人数からもみても、神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科への求人実績のある医療機関等に限定した一部の医療機関等に対する調査結果においても、神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生に対する採用意向は高いことから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。(資料3)

5 教育研究の目的、人材の養成及び研究対象とする学問分野

(1) 健康医療科学部 ※看護学部から名称変更予定

健康医療科学部では、人間の健康や医療に関する教育研究を通して、「看護学分野・栄養学分野・臨床工学分野に関する基礎的な知識と実践的な能力の習得とともに、幅広い教養基盤に支えられた豊かな人間性や社会性と高い職業観、主体的な判断力と行動力、生涯にわたり自発的な職能開発を継続するための基礎的な研究能力を習得する」ことを教育研究上の目的とする。

また、健康医療科学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「看護学分野」、「栄養学分野」、「臨床工学分野」として、「看護学分野・栄養学分野・臨床工学分野の基礎知識や専門技術と生命の尊厳を基調とした倫理観を身につけ、さまざまな課題解決に積極的に取り組み、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を育成する」ことを目的とする。

(2) 管理栄養学科

管理栄養学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「栄養学分野」として、「栄養学の学問体系の理解の基に、栄養学分野に関する基礎的な知識と技能を習

得したうえで、栄養の理論と実践の関係を理解し、総合的に実践する応用能力を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、管理栄養学科では、栄養学分野に関する教育研究を通して、「栄養学分野の基礎理論と基本技能の確実な習得のもとに、栄養指導や栄養管理に関する実践能力を有した幅広い職業人を養成する」こととしている。

この養成する人材の目的を達成するために、以下の通り、学位授与の方針を定めることとし、教育課程における「共通基盤教育科目」、「専門基礎導入科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」の各科目群に配置している講義と演習や実習を通して、学位授与の方針に掲げる知識及び能力を習得させるための教育を行うこととする。

養成する人材の目的を達成するための学位授与の方針は、以下の通りとする。

1. 創造的思考力

(1) 栄養士、管理栄養士としての基礎知識・技術を応用・発展させて、栄養・健康に関する問題を発見・解決して、新たな価値を生み出すことができる。

(2) 栄養士、管理栄養士として、現場から提示された課題に対して、自分の役割を認識し専門知識を活用して、すぐに対応することができる。

(3) 栄養士、管理栄養士として、現況を総合的に把握し、前もって予習する中で、自らやるべき事を見つけ、指示がなくても的確に行動することができる。

2. チームワーク

(1) 栄養士、管理栄養士としての知識や意見をわかりやすく伝える事ができる。また、相手に対して内容の確認や質問をとおして、相手の意見を理解する事ができる。

(2) 栄養士、管理栄養士として期待されている自分の役割を把握し、行動することができる。また、栄養士・管理栄養士としての職業倫理を理解している。さらに、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。

3. 基礎学力

(1) 栄養士、管理栄養士として、その専門分野における基本的な知識・技能を体系的に理解している。

(2) 栄養士、管理栄養士の素養としての理数・情報分野の基礎知識とリテラシーを理解している。また、社会や多様な文化に関する基礎知識を理解している。

② 学部、学科等の特色

管理栄養学科における教育研究上の目的は、「栄養学の学問体系の理解の基に、栄養学分野に関する基礎的な知識と技能を習得したうえで、栄養の理論と実践の関係を理解し、総合的に実践する応用能力を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、管理栄養学科における人材養成の目的は、栄養学分野に関する教育研究を通して、「栄養学分野の基礎理論と基本技能の確実な習得のもとに、栄養指導や栄養管理に関する実践能力を有した幅広い職業人を養成する」こととしている。

特に、管理栄養学科では、高等教育の大衆化の進行と生涯学習への移行を踏まえ、学部段階の専門教育では特定分野における完成教育というよりも、生涯学び続ける基礎を培うより普遍的な教育が求められていることから、教養教育及び専門分野の基礎・基本を重視した教育を行うことにより、専門的素養のある人材として活躍できる基礎的能力や生涯学習の基礎等を培うことを特色としている。

具体的には、学部段階における栄養学教育は、栄養指導や栄養管理の専門職としての生涯学習の出発点であることを踏まえ、学部卒業後、栄養指導や栄養管理の専門職として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて体得していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会等を通じて学んで行くための資質や能力を身に付けた専門職に成長していくうえでの基礎的資質や能力を身に付けるための基礎教育を重視することとしている。

このことから、管理栄養学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うとともに、「特定の専門的分野の教育・研究」に比重を置いた教育研究に取り組むことを特色とする。

③ 学部、学科等の名称及び学位の名称

1 学部、学科等の名称及び学位の名称

管理栄養学科が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野は「栄養学分野」であり、「栄養学の学問体系の理解の基に、栄養学分野に関する基礎的な知識と技能を習得したうえで、栄養の理論と実践の関係を理解し、総合的に実践する応用能力を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、管理栄養学科では、栄養学分野に関する教育研究を通して、「栄養学分野の基礎理論と基本技能の確実な習得のもとに、栄養指導や栄養管理に関する実践能力を有した幅広い職業人を養成する」ことを人材養成の目的としている。

このような、管理栄養学科が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野と管理栄養学科における教育研究上の目的や養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「管理栄養学科」、学位を「学士（栄養学）」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Nutrition and Life Science」、学位の英訳名称を「Bachelor of Nutrition」とすることとした。

学科の名称 管理栄養学科 「Department of Nutrition and Life Science」

学位の名称 学士（栄養学）「Bachelor of Nutrition」

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

1 教育課程の編成の基本方針

管理栄養学科では、「栄養学分野の基礎理論と基本技能の確実な習得のもとに、栄養指導や栄養管理に関する実践能力を有した幅広い職業人を養成する」ことから、教育課程を「共通基盤教育科目」、「専門基礎導入科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」から編成することとし、特に、「専門基礎導入科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」では、4年間の学習期間を通して、講義から演習、演習から実習へと発展させるための体系的な教育課程の編成とする。

また、管理栄養学科では、高等教育の大衆化の進行と生涯学習への移行を踏まえ、学部段階の専門教育では特定分野における完成教育というよりも、生涯学び続ける基礎を培うより普遍的な教育が求められていることから、教養教育及び専門分野の基礎・基本を重視した教育を行うことにより、専門的素養のある人材として活躍できる基礎的能力や生涯学習の基礎等を培うこととしている。

具体的には、学部段階における教育は、職業人としての生涯学習の出発点であることを踏まえ、学部卒業後、職業人として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて体得していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会等を通じて学んで行くための資質や能力を身に付けた職業人に成長していくうえでの基礎的資質や能力を身に付けるための基礎教育を重視した教育課程の編成とする。

2 教育課程編成・実施の方針

管理栄養学科では、学位授与の方針を踏まえた教育課程編成・実施の方針を次のとおり定めることとする。

1. 創造的思考力

- (1) 専門科目の「臨地実習」、「卒業研究」などの実践型教育により、基礎知識・技能を応用して新たな問題を発見・解決することを学ぶ。
- (2) 専門基礎科目群および専門科目群の講義、演習、実習により課題解決のための専門知識・技能を修得する。また、専門科目の「総合演習」、「臨地実習」、「卒業研究」の実践的課題解決型教育により課題を解決する方法を学ぶ。
- (3) 共通基盤教育の「スタディスキル」をとおして目的設定と計画立案の方法を修得する。また、専門科目において、管理栄養士としての専門性を高めるために必要とされる「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」の講義をとおして、栄養評価・判定に基づいた企画、実施、評価の総合的なマネジメントを行う能力を学ぶ。さらに、専門基礎科目群および専門科目群の実験、演習、実習をとおして、PDCA サイクルに基づいて目的設定と計画立案、行動する力、評価して問題を発見する力を修得する。

2. チームワーク

- (1) 共通基盤教育の「情報リテラシー」、「言語応用系」科目群の講義、演習をとおして、知識や意見の伝達と傾聴の方法の基礎を学ぶ。また、『英語基礎系』科目群の講義、演習をとおして、国際的なコミュニケーションの基礎となる英語基礎力を修得する。

さらに、専門科目群の実験、実習での協働作業とプレゼンテーション実習により知識や意見の伝達力、質問力を修得する。

- (2) 共通基盤教育『倫理系』の「生命倫理」の講義をとおして社会のルールを学ぶ。また、専門科目の「栄養生命科学概論」の講義をとおして管理栄養士としての自覚を高め、対象者等との信頼関係の確立に必要な職業倫理を学ぶ。さらに、専門教育科目の「臨地実習」により、自分の役割の把握と期待される行動を学ぶ。

3. 基礎学力

- (1) 専門基礎導入科目群の講義、演習により、生命科学分野の理解に必要な生物と化学の基礎知識と科学的素養を修得する。また、管理栄養士を目指す動機づけにつながる専門基礎科目群の講義で「社会や環境と健康」、「人体の構造や機能、疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」に関する基礎知識と技術を系統的に修得する。
- (2) 共通基盤教育の『数理情報系』、『人文社会系』、『健康・スポーツ系』科目群の講義、演習、実習をとおして、自然、社会、多様な文化、グローバル化する社会に関する基礎知識を修得する。

3 教育課程の編成の考え方

管理栄養学科では、教育研究上の目的に沿った人材を養成することから、教育課程を「共通基盤教育科目」、「専門基礎導入科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」の科目区分から編成する。

(1) 共通基盤教育科目

「共通基盤教育科目」は、栄養指導や栄養管理の専門職の素養としての理数・情報分野の基礎知識とリテラシー、および社会や多様な文化に関する基礎知識の理解を目的とすることから、「導入系」、「倫理系」、「人文社会系」、「健康・スポーツ系」、「英語基礎系」、「言語応用系」、「数理情報系」の科目群から構成する。

「導入系」では、高校教育から大学教育への円滑な接続を図るための学習スキルを高めるための科目として、「スタディスキル」1単位を配置し、「倫理系」では、生命倫理に関する知識の理解と倫理観を養うための科目として、「生命倫理」2単位を必修科目として配置した。

「人文社会系」は、「a群」、「b群」、「c群」の科目群から構成することとしている。

「a群」では、多面的に物事を理解するための基本的な知識を習得するための科目として、「暮らしの経済」2単位、「日本国憲法」2単位、「日本近現代史」2単位、「ヨーロッパの歴史と文化」2単位、「アジアの文化と社会」2単位、「少子高齢化と社会問題」2単位、「マスメディア論」2単位選択科目として配置した。

また、「宗教と倫理」2単位、「比較文化論」2単位、「芸術論」2単位、「社会参加とボランティア」2単位、「国際化と異文化理解」2単位、「現代社会の心理学」2単位、「環境論」2単位、「人文社会科学演習」2単位を選択科目として配置した。

「b群」では、人間と人間理解のための基礎的な知識を習得するための科目として、「哲

学」2単位、「倫理学」2単位、「文学」2単位、「教育学」2単位、「心理学」2単位を選択科目として配置した。

「c群」では、現代の社会を理解するための基礎的な知識を習得するための科目として、「政治学」2単位、「経済学」2単位、「法学」2単位、「社会学」2単位、「企業と経営」2単位を選択科目として配置した。

「健康・スポーツ系」では、健康維持や健康習慣のための基本的な知識と方法を習得するための科目として、「健康・スポーツ科学実習Ⅰ」1単位、「健康・スポーツ科学実習Ⅱ」1単位、「レクリエーションスポーツ」1単位、「生涯スポーツ実技」1単位、「学外スポーツ」1単位を選択科目として配置した。

「英語基礎系」では、英語による「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の言語能力を高めるための科目として、「英語Ⅰ」1単位、「英語Ⅱ」1単位、「英語Ⅲ」1単位、「英語Ⅳ」1単位、「英語Ⅴ」1単位、「英語Ⅵ」1単位を選択科目として配置した。

「言語応用系」では、英語の実践的かつ総合的な運用能力を高めるための科目として、「科学技術英語Ⅰ」1単位、「科学技術英語Ⅱ」1単位、「英会話Ⅰ」1単位、「英会話Ⅱ」1単位、「総合英語演習」1単位、「TOEICⅠ」1単位、「TOEICⅡ」1単位を選択科目として配置するとともに、日本語の運用能力を高めるための科目として、「日本語表現技術」2単位、「プレゼンテーション技術」2単位、「技術文章の書き方」2単位を選択科目として配置した。

「数理情報系」では、数理科学に関する基礎的な知識を習得するための科目として、「身の回りの数学」2単位、「実践する科学Ⅰ」2単位を必修科目として配置するとともに、情報の収集や分析と効果的に活用するための基本的な知識と技能を習得するための科目として、「情報リテラシー」2単位を必修科目として配置した。

(2) 専門基礎導入科目

「専門基礎導入科目」では、化学や生物学を基盤とした生命科学に関する基礎的な知識を習得するための科目として、「化学基礎」2単位、「化学基礎実験」1単位、「生命科学概論」2単位を必修科目として配置し、「生物学概論Ⅰ」2単位、「生物有機化学」2単位を選択科目として配置した。

(3) 専門基礎科目

「専門基礎科目」では、栄養管理に関する専門性を高めるための基盤となる能力を養うことから、「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」の科目区分により編成する。

1) 社会・環境と健康

「社会・環境と健康」では、学問の体系を理解するための科目として、「栄養生命科学概論」2単位を必修科目として1年次に配置したうえで、人間や生活について理解を深め、社会や環境と健康の関わりについて理解することを教育目標として、「健康管理論」2単位、「公衆衛生学」2単位を必修科目として配置した。

2) 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち

「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」では、人体の構造や機能を系統的に理解するとともに、主要疾患の成因、病態、診断、治療等を理解するための科目として、「解剖生理学Ⅰ」2単位、「解剖生理学Ⅱ」2単位、「解剖生理学実験」1単位、「生化学Ⅰ」2単位、「生化学Ⅱ」2単位、「生化学実験Ⅰ」1単位を必修科目として配置し、「生化学実験Ⅱ」1単位、「微生物学」2単位、「微生物学実験」1単位、「病理病態学Ⅰ」2単位、「病理病態学Ⅱ」2単位を選択科目として配置した。

3) 食べ物と健康

「食べ物と健康」では、食品の各種成分や人体に対しての栄養面や安全面等への影響や評価を理解するための科目として、「食品学Ⅰ」2単位、「食品学Ⅱ」2単位、「食品学実験Ⅰ」1単位、「食品衛生学」2単位、「食品衛生学実験」1単位、「調理学」2単位、「調理学実験」1単位、「調理学実習Ⅰ」1単位、「調理学実習Ⅱ」1単位を必修科目として配置し、「食品学実験Ⅱ」1単位を選択科目として配置した。

(4) 専門科目

「専門科目」では、栄養管理に関する専門性を高めるために必要となる知識や能力と栄養評価・判定に基づいた企画、実施、評価の総合的なマネジメントを行うことのできる能力を養うことから、「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」、「総合演習・臨地実習」、「輪講」、「卒業研究」の科目区分により編成する。

1) 基礎栄養学

「基礎栄養学」では、栄養とは何か、その意義を理解するための科目として、「基礎栄養学」2単位、「基礎栄養学実習」1単位を必修科目として配置した。

2) 応用栄養学

「応用栄養学」では、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解することを教育目標として、特に、妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に応じた栄養状態の特徴を十分に理解することにより、栄養状態の評価・判定の基本的な考え方を修得するとともに、健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能等を理解し、それらの健康への影響に関するリスク管理の基本的な考え方や方法について理解するための科目として、「応用栄養学Ⅰ」2単位、「応用栄養学実習」1単位を必修科目として配置し、「応用栄養学Ⅱ」2単位、「応用栄養学Ⅲ」2単位を選択科目として配置した。

3) 栄養教育論

「栄養教育論」では、健康・栄養状態、食行動、食環境等の評価・判定に基づき、栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力を養うこととし、そのために必要とされる健康・栄養教育に関する理論と方法を修得し、行動科学やカウンセリングの理論と応用についても理解するための科目として、「栄養教育論Ⅰ」2単位、「栄養教育論Ⅱ」2単位、「栄養教育論実習Ⅰ」1単位を必修科目として配置し、「栄養教育論

Ⅲ論」 2 単位、「栄養教育論実習Ⅱ」 1 単位を選択科目として配置した。

4) 臨床栄養学

「臨床栄養学」では、傷病者の状態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理を行う能力を養うこととし、栄養アセスメントに基づいた栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について修得したうえで、医療・介護制度やチーム医療における管理栄養士の役割について理解するための科目として、「臨床栄養学Ⅰ」 2 単位、「臨床栄養学Ⅱ」 2 単位、「臨床栄養学実習Ⅰ」 1 単位、「臨床栄養学実習Ⅱ」 1 単位を必修科目として配置し、「臨床栄養学Ⅲ」 2 単位、「臨床栄養学Ⅳ」 2 単位を選択科目として配置した。

5) 公衆栄養学

「公衆栄養学」では、地域や職域等における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力を養うこととし、栄養疫学、栄養政策、の企画・評価について理解し、社会資源の活用や栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解するための科目として、「公衆栄養学Ⅰ」 2 単位、「公衆栄養学実習」 1 単位を必修科目として配置し、「公衆栄養学Ⅱ」 2 単位を選択科目として配置した。

6) 給食経営管理論

「給食経営管理論」では、給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養うこととし、マーケティングの原理や応用について理解するとともに、組織管理などマネジメントの基本的な考え方や方法を修得するための科目として、「給食経営管理論Ⅰ」 2 単位、「給食経営管理論Ⅱ」 2 単位、「給食経営管理論実習」 1 単位を必修科目として配置した。

7) 総合演習・臨地実習

栄養評価・判定に基づいた適正な栄養管理を行うためには、専門分野の教育内容ごとに修得した知識と技能を統合する能力が必要であることから、専門分野を横断して栄養評価や管理が行える総合的な能力を養うための科目として、「総合演習」を必修科目として配置した。

また、学内で修得した知識と技術を栄養管理の実践の場面に適用し、実践活動の場での課題発見や解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる理論と実践を結びつけて理解するための科目として、「給食運営臨地実習」 1 単位を必修科目として配置し、「給食経営臨地実習」 1 単位、「臨床栄養A臨地実習」 3 単位、「臨床栄養B臨地実習」 2 単位、「公衆栄養臨地実習」 1 単位を選択科目として配置した。

8) 輪講・卒業研究

専門分野の教育内容ごとに修得した知識と技能を基に、学生の興味と関心に応じて、自ら課題を設定し、調査・研究を行うことで、研究意識の涵養と調査方法や分析手法、文献

購読や資料分析などの基礎的な研究能力を養うための科目として、「卒業研究」4単位を必修科目として配置するとともに、「輪講」2単位を選択科目として配置した。

9) 専門発展科目

専門分野の教育内容の理解の基に、専門分野に関する幅広い知識を身に付けるための科目として、「食品物性学」2単位、「食品機能論」2単位、「食品分析学」2単位、「食品加工学」2単位、「食品工学」2単位、「食品官能評価論」2単位、「給食経営システム論」2単位、「栄養サポートチーム（NST）論」2単位、「管理栄養士基礎セミナー」2単位を選択科目として配置した。

また、専門分野の教育内容ごとに修得した知識と技能を基に、栄養管理を総合的に判断し、実践できる応用能力を身に付けるとともに、栄養管理の現状と課題に関する認識を深め、探究する能力を養うための科目として、「専門演習Ⅰ」1単位、「専門演習Ⅱ」1単位を選択科目として配置した。

10) 専門関連科目

専門分野に関連するバイオ科学と情報技術に関する知識と技能を身に付けるための科目として、「基礎栄養学概論」2単位、「分子栄養学」2単位、「臨床生化学」2単位、「Web技術入門」2単位、「画像情報処理」2単位、「情報統計」2単位を選択科目として配置した。

11) プロジェクト科目

管理栄養教育の特色化を図るための科目として、「+α資格取得プロジェクトⅠ（食品産業）」2単位、「+α資格取得プロジェクトⅡ（スポーツ栄養）」2単位、「+α資格取得プロジェクトⅢ（家電）」2単位、「+α資格取得プロジェクトⅣ（臨床栄養）」2単位、「+α資格取得プロジェクトⅤ（食育）」2単位を選択科目として配置した。

⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色

1 教員組織の編成の考え方

管理栄養学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「栄養学分野」として、「栄養学の学問体系の理解の基に、栄養学分野に関する基礎的な知識と技能を習得したうえで、栄養の理論と実践の関係を理解し、総合的に実践する応用能力を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、管理栄養学科では、栄養学分野に関する教育研究を通して、「栄養学分野の基礎理論と基本技能の確実な習得のもとに、栄養指導や栄養管理に関する実践能力を有した幅広い職業人を養成する」こととしている。

この管理栄養学科における教育研究上の目的及び人材養成の目的を踏まえたうえで、教育課程の編成においては、学部卒業後、栄養指導や栄養管理に関する実践能力を有した職業人として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて体得していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会等を通じて学んでいくための資質や能力

を身に付けた管理栄養士に成長していくうえでの基礎的資質や能力を身に付けるための基礎教育を重視した編成としていることから、専任教員の配置については、栄養学分野における主要な授業科目を中心に配置することとしている。

2 教員組織の編成の特色

管理栄養学科では、教育課程の編成における専門領域を専門基礎、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論の領域から構成していることから、教員組織の編成については、専門領域ごとの授業科目数及び単位数に応じて、栄養学分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授8人、准教授4人、助教1人、合計13人を配置することとしている。

具体的には、専門基礎は、教授5人、基礎栄養学は、教授1人、応用栄養学は、准教授1人、栄養教育論は、教授1人、臨床栄養学は、教授1人、准教授1人、助教1人、公衆栄養学は、准教授1人、給食経営管理論は、准教授1人を配置する。

専任教員の配置に当たっては、博士号等の学位の保有状況をはじめ、それぞれの領域における教育実績や研究業績、実務経験などと担当予定の授業科目との適合性について、十分な検討のもとに配置しており、また、職業人養成機能を果たすことから、理論と実践の融合に向けて、実技系の授業科目については、当該科目の特質を踏まえて、栄養に関する豊富な実務経験を有する教員を配置するとともに、学部教育としての一定の研究機能を果たすことから、博士号等の学位や十分な研究業績を有する教員を配置する。

3 教員組織の年齢構成

管理栄養学科の年齢構成については、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成とすることから、30歳台2人、40歳台2人、50歳台5人、60歳台3人、70歳台1人の構成としており、教授の平均年齢は約58歳、准教授は約43歳となっており、次世代を担う教員の育成を視野に入れ、特定の年齢に偏ることのないように配慮した教員の配置としている。

定年規程との関係については、定年年齢は65歳と定めており、配置計画において既に定年に達している者1人を配置することとしているが、任期制との併用により、定年年齢を超えて採用できる規程を設けており、管理栄養学科の完成年度まで在籍することができる規程となっている。(資料4)

4 教員組織編成の採用構想にかかる対応方針

今般の管理栄養学科の専任教員の配置計画において、完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える者4名(完成年度前に定年に達している者2名と完成年度末に定年を迎える者2名)を配置していることから、教員組織編成の将来構想について検討し、その対応方針として、中堅教員と若手教員の育成計画に基づく昇格人事及び新規教員の採用人事に関する中期的な人事計画を策定し、この人事計画に基づく計画的な採用を行うことにより、教員配置の適正化を図ることとし、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めることとする。(資料5)

⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1 教育方法

(1) 授業の方法

管理栄養学科における授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技術や技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、また、理論的知識や能力を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実験形式や実習形式による授業形態を採ることとする。

(2) 学生数の設定

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は40人から80人、演習形式は40人、実験科目は40人、実習科目は40人としている。

(3) 配当年次

配当年次は、基礎から基幹へと体系的な学習が可能となるようにするとともに、特に、専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、単位制度の4年間における制度設計の観点を踏まえて、特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように配慮した配当としている。

(4) 履修科目の登録上限

単位制度の実質化の観点を踏まえたうえで、学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することにより学習効果を高めるために、履修単位数の年間登録の上限（CAP）を48単位とする。

(5) 厳格なる成績評価

卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行うとともに、客観的な評価基準を適用することから、厳格な成績評価の方法として、GPA制度を導入する。

2 履修指導方法

管理栄養学科における履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じる専用の時間を設けることにより、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えるとともに、学期ごとに学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて学生の履修科目の選択に関する助言を行う専門的な職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、学生の履修指導体制を整備する。

また、専門教育科目では、管理栄養学の学問体系と学習段階に即した授業科目を配置しており、学部教育段階では、基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置

くことが重要であることを踏まえたうえで、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応したカリキュラムツリーを提示する。

(資料6)

3 卒業要件

管理栄養学科における卒業要件は、学部で4年以上在学し、体系的な授業科目の履修により、124単位以上を修得することとし、共通基盤教育科目については、必修科目9単位を含む27単位以上、専門教育科目については、必修科目64単位を含む93単位以上を修得することとする。

⑦ 施設、設備等の整備計画

本学では、昭和38年の開学以来、教育・研究環境の整備と充実に積極的に取り組んできており、大学の教育・研究のために必要な校地及び校舎等は十分に整備されており、今後、設置する管理栄養学科については、既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科を基礎として設置する計画であることから、既存の校地、校舎等を有効的に活用することとしている。

(1) 校地、運動場の整備計画

管理栄養学科の設置を計画している本学のキャンパスは、神奈川県厚木市下荻野に位置し、現在、校地面積約125,685㎡を有していることから、学生の休息その他の利用のための適当な空地を含む十分な校地面積が確保されており、大学教育に相応しい環境を整えている。

運動場は、約38,015㎡の面積を校舎と同じ敷地内に確保しており、運動用設備としては、全天候対応人工芝フィールドおよび陸上400mトラックを設け、サッカー・ラグビー及び長短距離走の競技はもとより、フットサルやソフトボール等多目的に活用している。

さらに、隣接して両翼95m、センター120mの人工芝野球場を設け、硬式野球、ソフトボールやフットサルも可能としているとともに、全天候型テニスコート4面も有しており、授業及び学生の課外活動に利用している。

また、校地中心部に約6,000㎡の中央緑地公園を設け、170席のベンチや芝地での学生の休憩やコミュニケーションの場として活用しており、この公園は、屋外の催し物を開催する場合は、約1,500人がステージを観覧可能で、さらに万一の災害時には、石畳部分も利用することで、約2,000人の一時避難を可能としている。

(2) 校舎等施設の整備計画

本学では、現在、32棟の校舎等の施設を有しており、延床面積は約98,309㎡で、教育に必要な主要な教室等の内訳としては、講義室77室、演習室34室、実験実習室94室、情報処理室14室、語学学習室1室を整備しており、その他、教員研究室22

7室、講師室、助手室、図書館、体育館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを備えていることから、これらの施設等を有効的に活用することとしている。

また、管理栄養学科における教育研究上の理念・目的や人材養成の目的を達成するために必要となる管理栄養学科の専用の施設として、講義室2室（ノートPC設置）、実験実習室3室、カンファレンス室1室、調理・食品加工室1室、国家試験対策室1室を整備しているとともに、専任教員の研究室は17室を設けており、十分な教育研究設備を整えている。

設備は、管理栄養学科における教育研究上の理念・目的や人材養成の目的を達成するための専用の設備として、教具8,370点、校具554点を整備していることから、教育に支障を生じることはないものと考えている。

本学では、開設以来、常に教育研究環境の整備と充実に積極的に取り組み、特に施設・設備については、十分な整備に努めてきたことから、管理栄養学科を設置した場合においても、十分に対応することが可能であると考えている。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

1) 図書等の資料の整備計画

本学キャンパスの図書館では、図書等の資料について、現在、図書185,290冊（うち外国書24,033冊）を所蔵しているとともに、学術雑誌336種（うち外国雑誌2種）のほか、電子ジャーナル3,537種、ビデオやDVDなどの視聴覚資料5,749点の整備がなされていることから、これらを有効的に転共用することとしている。

また、管理栄養学科における教育研究上の理念・目的や人材養成の目的を達成するために必要となる図書等の資料としては、これまで、大学全体として整備してきた専門図書のうち、栄養学に密接に関連する専門図書5,277冊を所蔵しており、雑誌についても23種を備えていることから、教育・研究に支障はないものと考えている。

2) 図書館の整備計画

図書館の機能としては、大学全体の収容定員の約13%にあたる629席の閲覧座席数を整備しており、また、学生の主体的な学習の場として、電子黒板・ディスカッションテーブル等のIT機器と可動機、壁面ホワイトボードを備えたActive Learning Room4室とシラバス図書を集めたReference Learning RoomからなるActive Learning spaceを設けているとともに、視聴覚ブース、サービスカウンター、レファレンスカウンターなどを有し、人的サービスを提供している。

さらに、館内に検索・電子資料閲覧・レポート作成等用途の汎用利用者パソコン30台、検索用パソコン7台を備え、また利用可能な電子・冊子体資料を垣根なく適切にナビゲート可能なディスカバーリーサービス“WorldCat Discovery Services”を導入し、図書館ホームページの検索窓からの使用を可能としている。

図書館システムは株式会社富士通製の「iLiswave-J」が稼働しており、国立情報学研究

所の所蔵目録の検索、医学中央雑誌や看護文献基本データベース CINAHL 等の論文検索、他大学図書館等との文献複写・相互貸借等サービスを可能としているほか、ディスカバリーサービスにより世界最大の目録データベース OCLC の WorldCat データの参照も可能としている。

また、学術情報リポジトリとして、研究紀要論文（1, 161件）、学位論文（14件）のほか、日産自動車カタログコレクション目録データ（497件）、地域資料として「NPO 法人雨岳文庫を活用する会」と連携し、伊勢原市歴史史料である雨岳文庫データベース（10, 365件）等を公開し、学内学術情報だけでなく地域と結びついた特色ある情報発信を行っている。

⑧ 入学者選抜の概要

1 基本方針

管理栄養学科における入学者選抜の基本方針は、入学志願者の大学教育を受けるに相応しい能力や適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施するとともに、学部の目的、教育内容等に応じた入学者受入方針を明確にするとともに、これに基づき、入学後の教育との関連を十分に踏まえたうえで、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努めることとする。

2 受入方針

管理栄養学科では、栄養学分野に関する教育研究を通して、「栄養学分野の基礎理論と基本技能の確実な習得のもとに、栄養指導や栄養管理等に関する実践能力を有した幅広い職業人を養成する」ことから、この養成する人材の趣旨を実現するために必要な教育課程の編成としている。

このような管理栄養学科における養成する人材や教育課程との関連性を踏まえたうえで、入学者選抜の基本的な受入方針を、以下の通り、定めることとする。

- 1 栄養管理や栄養指導に必要な食品学・栄養学・健康科学分野に関する学びに明確な意欲を有している。
- 2 管理栄養士等の養成課程として、卒業後に専門資格保有者（管理栄養士、栄養士、栄養教諭、食品衛生監視員、食品衛生管理者）として各資格者に求められている社会の要求に応えようとする強い意識を有している人。
- 3 学科のカリキュラムを学ぶために必要な数学、理科、英語、国語（現代文）の基礎学力を有している。または入学前教育と初年次教育を通じてこれらの基礎学力を修得しようとする意志を持った人。

3 選抜方法

（1）実施方法及び定員割合

入学者選抜の実施方法は、管理栄養学科における入学者選抜の受入方針を踏まえたうえで、AO入試、推薦入試、一般入試、センター方式入試により実施することとし、募集定

員の割合については、AO入試の募集定員を5名、推薦入試の募集定員を13名、一般入試の募集定員を37名、センター方式入試の募集定員を25名とする。

(2) AO入試

AO入試では、栄養管理や栄養指導に必要な食品学・栄養学・健康科学分野に関する学びに明確な意欲を有していること及び学科のカリキュラムを学ぶために必要な数学、理科、英語、国語（現代文）の基礎学力を有していることについて、調査書、志望理由書、その他の提出書類、実験・実習課題、レポート、面接、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。

(3) 推薦入試

推薦入試では、栄養管理や栄養指導に必要な食品学・栄養学・健康科学分野に関する学びに明確な意欲を有していること及び学科のカリキュラムを学ぶために必要な数学、理科、英語、国語（現代文）の基礎学力を有していることについて、調査書等、推薦書、その他の提出書類、面接、適性検査で評価する。

(4) 一般入試及びセンター方式入試

一般入試及びセンター方式入試では、栄養管理や栄養指導に必要な食品学・栄養学・健康科学分野に関する学びに明確な意欲を有していること及び学科のカリキュラムを学ぶために必要な数学、理科、英語、国語（現代文）の基礎学力を有していることについて、調査書等及び学力検査で評価する。

⑨ 資格取得を目的とする場合

1 取得可能な資格

管理栄養士（国家試験受験資格）

栄養士（資格取得可能）

2 資格取得の条件

管理栄養士については、卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで受験資格の取得が可能であるが、受験資格の取得を卒業の必須条件とはしていない。

栄養士については、卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで資格取得が可能であり、資格取得を卒業の必須条件とする。

⑩ 実習の具体的計画

ア 実習の目的

臨地実習の教育目標は、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図ることとし、学内で修得した知識や技術を管理栄養の実践の場面に適用し、理論と実践を結びつけて理解できることをねらいとしている。

イ 実習の内容

管理栄養学科の「専門科目」は、管理栄養士としての専門性を高めるために必要とされる「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」を教育内容として位置付けており、このうち、人とのかかわりについての実践の場を考慮して「給食経営管理論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」において「臨地実習」を行うこととしている。

授業科目については、「給食運営臨地実習」1単位を必修科目として配置し、「給食経営臨地実習」1単位、「臨床栄養A臨地実習」3単位、「臨床栄養B臨地実習」2単位、「公衆栄養臨地実習」1単位を選択科目として配置することとしており、実習期間については、「給食運営臨地実習」、「給食経営臨地実習」、「公衆栄養臨地実習」は1週間、「臨床栄養A臨地実習」は3週間、「臨床栄養B臨地実習」2週間としている。

また、実習科目における教育内容としては、「給食運営臨地実習」及び「給食経営臨地実習」では、給食運営や関連資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面など全般のマネジメント能力や組織管理に関する実践的な能力を修得するとともに、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得することとしている。

「臨床栄養A臨地実習」及び「臨床栄養B臨地実習」では、チーム医療における管理栄養士の役割と傷病者の身体状況や栄養状態に応じた栄養管理に関する総合的なマネジメント能力を修得することとしており、「公衆栄養臨地実習」では、地域や職域等における栄養関連サービスに関する総合的なマネジメント能力と社会資源の活用や栄養情報の管理などの実践的な能力を修得することとしている。

ウ 実習先の確保の状況

実習施設の選定は、学生の数、臨地実習の種別、実習施設の種類の、実習時間と期間などを勘案して、実習施設の種別別に必要な実習施設を選定するとともに、実習施設の確保については、本学から交通が便利な地域の施設を中心として確保することにより、学生や教員の負担軽減を図ることとしている。

実習先の確保の状況は、80名の定員に対して、「給食運営臨地実習」及び「給食経営臨地実習」では、病院、事業所、福祉施設等の特定給食施設18か所、「臨床栄養A臨地実習」及び「臨床栄養B臨地実習」では、病院、介護老人保健施設等の医療提供施設33か所、「公衆栄養臨地実習」では、保健所、保健センター又はこれに準ずる施設56か所を確保している。（資料7）

エ 実習先との契約内容

実習の依頼については、実習施設的环境や業務内容、受入体制などを確認したうえで、事前に実習施設の栄養部門責任者に実習内容の要望、期間、人数などを伝えて、実習受入れの了解を得た後に、実習施設長に文書をもって正式な実習の依頼と契約を行うこととしている。

また、実習生の受入に際しては、個人情報保護や事故防止に関する取り決めを行うこと

としており、特に、事故防止については、事故防止策や事故発生時の対処方法などについて取り決めるとともに、事故が発生した場合の緊急連携体制について、明確に定めることとしている。

オ 実習水準の確保の方法

臨地実習の教育目標は、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図ることとし、学内で修得した知識や技術を管理栄養の実践の場面に適用し、理論と実践を結びつけて理解できることをねらいとしており、この臨地実習の教育目標の達成に資するよう、各教育内容の目標に則した実習内容とすることで、実習水準の確保を図ることとしている。

また、臨地実習においては、実習担当教員による実習施設の管理責任者及び直接指導に当たる管理栄養士と実習内容等について十分協議のうえ、臨地実習を実施することとし、その教育効果をあげるために、原則として、少人数グループにより実施するとともに、総合演習等学内において十分に事前指導及び事後評価を行う体制を整えることにより、実習水準の確保を目指すこととしている。

一方、実習先の実習指導者については、管理栄養士免許を有し、かつ十分な実務経験を有するとともに、これまで管理栄養士養成施設からの実習生に対する実習指導実績を有する者としているが、実習教育の水準の確保を図ることから、実習施設の実習指導者と実習担当教員とによる臨地実習における実習内容や実習方法の改善を図るための組織的な取り組みを行うこととする。

具体的には、年度当初において、実習施設の実習指導者と実習担当教員による実習指導者連絡会を開催し、本学の教育研究上の目的、人材養成の目的、教育課程編成の考え方、臨地実習における到達目標などについての共通理解を図るとともに、定期的な研修会等の開催による臨地実習の総括や問題点の抽出、課題の検討を行うことにより、指導力の向上に努めることとする。

カ 実習先との連携体制

臨地実習の実施においては、本学と実習施設との信頼関係が不可欠であり、臨地実習における教育効果は、相互の信頼関係が深いほど高いものとなることが期待されることから、実習施設に対して学生の受入れを依頼するにあたり、次の点について十分な配慮のもとに、緊密な連携体制をとることとする。

- 1) 実習の日程や人員、内容などについて、事前に連絡し、実習施設の実習指導者の理解を得たうえで、施設長に対し正式な依頼文書を提出する。
- 2) 学生に対する十分な事前指導を行うとともに、前年度の実習時において要望が出された事項については必ず対応する。
- 3) 実習期間中は、実習指導者と日程を調整して施設を訪問し、実習の実施状況を確認するとともに、意見交換や必要な調整を行う。

- 4) 実習終了後は、学長名による施設長に対する礼状の他、実習指導者をはじめとする関係者に対して学生から礼状を出させる。
- 5) 実習担当教員と実習指導者による連絡会や研修会等を開催することにより、実習体制や実習内容の整備に向けての意見交換などを行う。
- 6) 実習施設の管理栄養士の研究や研修の支援として、図書館の利用を認めるなど、実習施設の発展と向上に協力する。

キ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

（1）感染予防対策

実習生及び実習受入先における感染予防対策として、臨地実習の開始前に、学生に対する感染予防に関する基本的な知識を教授するとともに、感染症に関する既往検査や抗体検査の実施と予防接種を行うこととする。

（2）保険等の加入状況

実習生が実習中又は実習先への往復途上に被った不慮の災害事故の補償と第三者に怪我を負わせた場合や第三者の所有物を破損した場合の補償などに備えて、学生教育研究災害障害保険及び実習賠償責任保険に加入する。

ク 事前・事後における指導計画

臨地実習では、実践の場での「課題発見、問題解決」と「専門的知識と技術の統合」を重視することから、実習の前に関連科目の履修を終えるとともに、事前準備に十分な時間をかけて、実習の目的や目標、実習施設の概略を学生に周知・動機付け、知識の整理、研究課題の検討などを行うこととする。

また、実習終了後においても、それぞれの実習施設における実習内容、研究課題の報告、実践の場で学んだ事項などの情報交換や指導など、総合的な事後学習を行い、学内での学習と臨地実習をより有効的に結び付け、知識と技術の統合を図ることとしている。

（1）事前教育内容

- ・実習の目的や目標などの理解
- ・実習にあたっての心構え
- ・事前の準備の徹底
- ・実習開始時と実習中の注意
- ・調理作業中の注意
- ・喫食者や患者への訪問時の注意点
- ・病気や怪我をした時の対応
- ・休憩時間の過ごし方
- ・実習終了時の対応
- ・実習レポートの提出

（2）事後教育内容

- ・各班や個人からの実習課題への取り組みへの報告と討論

- ・実習施設への礼状の作成
- ・実習時に起きたトラブルや注意された事の報告
- ・管理栄養士・栄養士の仕事に関する感想

ケ 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

教員及び助手の配置については、実習グループごとに実習担当教員及び実習担当助手を配置するとともに、実習期間中の巡回指導計画については、実習担当教員を中心として、専門教育科目を担当する専任教員全員と実習担当助手により行うこととしている。

実習期間中の巡回指導については、原則として、実習開始後、実習生全員に対する巡回指導を行うこととしており、巡回指導の際には、実習施設の実習指導者に対して、実習の実施における周知不足や不都合の有無、学生の実習態度、教育上の改善事項、日程や内容の確認、意見交換などを行うことにより、相互理解を深めることとする。（資料8）

コ 実習施設における指導者の配置計画

実習施設における実習指導者の配置については、実習施設ごとの各グループに管理栄養士の資格を有した実習指導者を配置することとしている。（資料9）

サ 成績評価体制及び単位認定方法

臨地実習における成績評価については、予め定める実習評価基準に基づいて、実習担当教員が行うこととし、実習施設における実習指導者の評価及び出欠等の状況、実習記録、実習レポート、自己評価表、面接などにより、実習目標の到達度合に照らしながら、総合的な判断の基に評価を行い、単位の認定を行うこととする。

⑪ 管理運営

ア 教授会

教授会は、専任の教授をもって組織され、「学生の入学、卒業及び課程の修了」、「学位の授与」、「教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの」について決定を行うに当たり意見を述べるものとするものほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるができることとしており、原則として、毎月1回定例で開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催している。

イ 大学協議会

大学協議会は、大学全般の重要事項を審議するために設置されており、審議事項については、「大学協議会規程」に規定され、構成員は、学長、副学長、学部長、学科長、自己評価委員長、教務主任、学生部長、入学委員長、キャリア就職委員長、図書館長、情報教育研究センター所長、工学教育研究推進機構長、教育開発センター所長、基礎・教養教育センター所長及び同センター系列総会会長、大学担当理事及び学長が指名した者とし、毎月1回定例で開催している。

ウ 教授会以外の委員会

教授会以外の委員会としては、「学生部委員会」、「教務委員会」、「入学委員会」、「キャリア就職委員会」をはじめ、各種委員会を組織し、学生の修学支援に努めており、各委員会の審議事項については、各委員会規程により規定されており、構成員は各学部から選出され、定例的に開催している。

⑫ 自己点検・評価

1 基本方針

本学では、自らが掲げる目的の達成および理念の実現のため、継続的に自己点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努めることを通じて、本学の教育研究の水準を保証し向上させ、本学に対する社会の信頼を一層確実なものとする。

2 実施体制

本学では、内部質保証に関する規程において、自己点検・評価を継続的かつ総合的に実施するため、自己点検・評価に関する統括委員会として(1)理事長、(2)学長、(3)研究科長、(4)専務理事、(5)常務理事、(6)副学長、(7)担当理事、(8)教員自己点検・評価委員長で構成する「内部質保証委員会」を置き、自己点検・評価に関する定期的な実務を担当する組織として(1)学長、(2)研究科長、(3)専務理事、(4)常務理事、(5)副学長、(6)担当理事、(7)入学委員長、(8)教務主任、(9)学生部長、(10)キャリア就職委員長、(11)3つのポリシー運営委員会委員長、(12)教育開発センター所長、(13)教員自己点検・評価委員長、(14)工学教育研究支援機構長、(15)事務部門の担当部長による「自己評価委員会」を置くことを規定している。

また、自己点検・評価に関する外部検証を担保するため、(1)大学の内部質保証に詳しい学識経験者、(2)地元の有識者、(3)本学の同窓会関係者、(4)その他、理事長および学長が必要と認めた者で構成する自己点検・評価に関する外部評価委員会を設置している。

3 実施方法

自己評価委員会は、次の各事項について、審議し、決定し、実施する。(1)自己点検・評価項目の設定および変更、(2)評価のあり方に関する事項、(3)自己点検・評価の実施に関する事項、(4)改善・改革に向けた方策の実施に関する事項、(5)教員の自己点検・評価に関する事項、(6)自己点検・評価結果の公表に関する事項、(7)認証評価機関の評価に関する事項、(8)その他、大学の自己点検・評価に関する事項について審議し、決定し、実施している。また、自己点検・評価結果については、その内容を内部質保証委員会に報告している。さらに、改善等を要すると認められる事項については、関連ある学内組織に適切な対応策を検討し、実施することを要請している。

内部質保証委員会は、自己評価委員会から提出された定期的な点検・評価結果および外部評価委員会の検証結果について審議し、課題等に関する方針の策定、実施、点検および改善について常に検討し、必要な事項を実施する。また、文部科学省、認証評価機関等か

らの指摘事項について、迅速かつ適切に対応するものとしている。

内部質保証委員会で策定・決定した方針、課題および改善策などの実施を自己点検・評価に関する日常的な実務を担う各組織に要請し、各組織はこれを適切、適正に実施するとともに実施状況を絶えず点検・評価を行い、改善等を要すると認められる事項については適切な対応策を検討、実施し、点検・評価結果を自己評価委員会へ報告している。その内容については、自己評価委員会で審議し、結果を内部質保証委員会へ報告している。また、教員の自己評価については毎年行い、分析内容を教授会へ報告している。

4 評価項目

- ① 理念・目的
- ② 内部質保証
- ③ 教育研究組織
- ④ 教育課程・学習成果
- ⑤ 学生の受け入れ
- ⑥ 教員・教員組織
- ⑦ 学生支援
- ⑧ 教育研究等環境
- ⑨ 社会連携・社会貢献
- ⑩ 大学運営・財務

5 結果の活用及び公表

評価の結果については、教育活動や研究活動などの改善策を検討し、改善計画や教育活動や研究活動などで達成すべき目標を設定する際に活用し、評価結果を反映させることにしている。また、評価の結果は、大学として社会に対する説明責任を果たす観点から、ホームページでの公開や自己点検・評価報告書を作成し、配布することにより公表することとしている。

⑬ 情報の公表

1 実施方法

学部等における人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的について、学則及び規則等の適切な形式により定め、これを広く社会に公表するとともに、教育研究活動等の状況など大学に関する情報全般について、インターネット上のホームページや大学案内などの刊行物への掲載、その他広く一般に周知を図ることができる方法により積極的に提供する。

特に、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表することとし、その際、大学の教育力の向上の観点から、学生がどのようなカリキュラムに基づき、何を学ぶことができるのかという観点が明確になるよう留意することとしてい

る。

教育情報の公表については、そのための適切な体制を整えたうえで、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって行うこととしており、ホームページのアドレスは、「<http://joho.kait.jp>」であり、検索方法については、「トップ>>情報公表」により検索することができる。

2 実施項目

次の教育研究活動等の状況についての情報を公表している。

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること。
- ② 教育研究上の基本組織に関すること。
- ③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- ④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。
- ⑦ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。
- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。
- ⑩ その他の関連する情報
 - ・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報
 - ・学則等各種規程
 - ・設置認可申請書
 - ・設置届出書
 - ・設置計画履行状況等報告書
 - ・自己点検・評価報告書
 - ・認証評価の結果

3 公表内容

教育研究活動等の状況についての情報を公表するに際しては、以下の点に留意したうえで行っている。

- ① 大学の教育研究上の目的に関する情報については、学部、学科又は課程等ごとに、それぞれ定めた目的を公表する。
- ② 教育研究上の基本組織に関する情報については、学部、学科又は課程等の名称を明らかにする。
- ③ 教員組織に関する情報については、組織内の役割分担や年齢構成等を明らかにし、効果的な教育を行うため組織的な連携を図っていることを明らかにする。
- ④ 教員の数については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表することとし、

法令上必要な専任教員数を確保していることや男女別、職別の人数等の詳細をできるだけ明らかにする。

- ⑤ 各教員の業績については、研究業績等にとどまらず、各教員の多様な業績を積極的に明らかにすることにより、教育上の能力に関する事項や職務上の実績に関する事項など、当該教員の専門性と提供できる教育内容に関することを確認できるという点に留意したうえで公表する。
 - ⑥ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する情報については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表する。
 - ⑦ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報については、教育課程の体系性を明らかにする観点に留意するとともに、年間の授業計画については、シラバスや年間授業計画の概要を活用する。
 - ⑧ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報については、必修科目、選択科目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能な学位に関する情報を明らかにする。
 - ⑨ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する情報については、学生生活の中心であるキャンパスの概要のほか、運動施設の概要、課外活動の状況及びそのために用いる施設、休息を行う環境その他の学習環境、主な交通手段等の状況をできるだけ明らかにする。
 - ⑩ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する情報については、寄宿舎や学生寮等の宿舎に関する費用、教材購入費、施設利用料等の費用に関することをできるだけ明らかにする。
 - ⑪ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する情報については、留学生支援や障害者支援など大学が取り組む様々な学生支援の状況をできるだけ明らかにする。
- ⑭ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等
- 1 授業の内容及び方法の改善のための組織的な研修等
 - (1) 実施体制

教育内容等の改善の組織的なFD活動の推進については、教育開発センターが担うとともに、業務を円滑に果たすため、教育開発センター運営委員会を設置し、授業の内容及び方法の改善を図るための計画の立案と実施の推進を行っている。(資料10)
 - (2) 実施内容

教育内容等の改善の組織的な研修等の実施内容については、従来の活動の中でさらに充実した取り組みを行う。

 - ① シラバスの記載項目や記載内容、記載方法などに関する整備をするとともに、個

別教員に対する記載指導を実施する。

- ② 学生による授業アンケート調査を実施するとともに、評価結果に基づき、各教員が授業の内容や方法の改善に役立てる。
- ③ 授業科目の位置付けや到達目標、他の授業科目の内容や範囲などの接続関係について教員の相互理解を図る。
- ④ 授業科目ごとの教育目標を効果的に達成するための教育手法や評価方法等の研修会を実施する。
- ⑤ 他の教員の授業を参観して、自らの授業の内容及び方法の改善に役立てるための教員相互の授業参観を実施する。
- ⑥ 授業技術や教材開発に関する定期的な研究会と研究成果の発表会を開催するとともに、授業公開の一環として報告書を作成する。

2 大学職員に必要な能力及び資質を向上させる研修等

(1) 実施体制

大学職員に必要な能力及び資質を向上させる研修等の取組みについては、「神奈川工科大学 職員研修企画運営委員会 規程」を制定し、事務職員のみならず、教員及び技術職員を含めて、大学等の教育・研究活動等の適切かつ効果的な運営を図ることを目的とした、知識・技能の修得及び能力・資質の向上のための活動（SD活動）を推進することとしており、「情報セキュリティ」「ハラスメント」「高大接続」「キャリア就職支援」「文献データベース」「高等教育政策の動向」といった大学を取巻く問題を定期的に取上げて実施することとしている。

また、事務職員を対象とした研修等は、職員研修企画運営委員会が中心となっており、教員に対する研修等は、教育開発センターが中心となっており、教育開発センターが主催する研修等についても、事務職員も積極的に参加することとしている。（資料11）

(2) 実施内容

具体的なSD活動については、以下に掲げる項目により行う。

- ① 3つのポリシーに基づく大学の取組の自己点検・評価と内部質保証に関する事項
- ② 教学マネジメントに関わる専門的職員の育成に関する事項
- ③ 大学改革に関する事項
- ④ 学生の厚生補導に関する事項
- ⑤ 業務領域の知見の獲得を目的とする事項
- ⑥ その他職員研修企画運営委員会で企画運営することが適当とされる事項

なお、研修会等については、外部団体が主催して行う「学外研修会等」と大学等が独自に企画して開催する「学内研修会等」に大別している。

⑮ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1 教育課程内における取組み

「共通基盤教育科目」においては、「栄養指導や栄養管理の専門職の素養としての理数・情報分野の基礎知識とリテラシー、および社会や多様な文化に関する基礎知識の理解を目的とする」ことから、「導入系」、「倫理系」、「人文社会系」、「健康・スポーツ系」、「英語基礎系」、「言語応用系」、「数理情報系」の各科目群から構成することとしており、「共通基盤教育科目」全体を通して、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的な知識や技能と態度を習得することとしている。

専門教育においては、1年次の前期に配当している「栄養生命科学概論」を教育課程内における社会的・職業的自立に関する導入科目として位置付け、栄養指導や栄養管理を取り巻く諸情勢や管理栄養士・栄養士が果たす役割の理解のもと、専門分野への興味と関心を深めさせることにより、自らの職業選択に対する意識の涵養を図ることとしている。

また、臨地実習では、実践現場における体験学習を通じて、職業人としての役割と責任や自覚と態度を身に付けるとともに、職業現場で必要となる実践的な能力の養成を図ることとしており、教育課程内の取組みにおける組織体制としては、実習担当教員と教務委員会及びキャリア就職委員会による社会的・職業的自立に関する指導等に関する連絡協議会を設けることとしている。

2 教育課程外における取組み

社会的・職業的自立を図るための教育課程外における取組みとしては、キャリア支援年間計画に基づき、職業興味検査、資格と仕事のセミナー、インターンシップなどの実施により職業観の涵養を図るとともに、各種資格取得講座、国家試験対策講座、キャリア支援講座、就職試験対策講座などによる職業・就職に関する知識・技能の習得を図ることとしている。

また、個別カウンセリング、Uターンガイダンス、管理栄養士・栄養士の仕事に関するガイダンスなどの進路・就職指導及び相談に加えて、医療機関等採用説明会、国家試験対策講座や国家試験対策指導などを行うこととしており、教育課程外における組織体制としては、キャリア就職委員会及びキャリア就職課が担当することとしている。

学校法人 幾徳学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神奈川工科大学					神奈川工科大学				
工学部					工学部				
機械工学科	120	-	480		機械工学科	120	-	480	
電気電子情報工学科	78	-	296		電気電子情報工学科	78	-	296	
応用化学科	60	-	240		応用化学科	60	-	240	
臨床工学科	40	-	160		臨床工学科	0	-	0	令和2年4月学生募集停止
情報学部					情報学部				
情報工学科	155	-	590		情報工学科	155	-	590	
情報ネットワーク・ コミュニケーション学科	100	-	390		情報ネットワーク・ コミュニケーション学科	100	-	390	
情報メディア学科	165	-	630		情報メディア学科	165	-	630	
創造工学部					創造工学部				
自動車システム 開発工学科	55	-	210		自動車システム 開発工学科	55	-	210	
ロボット・ メカトロニクス学科	50	-	180		ロボット・ メカトロニクス学科	50	-	180	
ホームエレクトロニクス 開発学科	40	-	160		ホームエレクトロニクス 開発学科	40	-	160	
応用バイオ科学部					応用バイオ科学部				
応用バイオ科学科	125	-	490		応用バイオ科学科	125	-	490	
栄養生命科学科	80	-	320		栄養生命科学科	0	-	0	令和2年4月学生募集停止
看護学部					看護学部				
看護学科	80	-	320	⇒	看護学科	80	-	320	
					管理栄養学科	80	-	320	学科設置(届出)
					臨床工学科	40	-	160	学科設置(届出)
計	1,148	-	4,466		計	1,148	-	4,466	
神奈川工科大学大学院					神奈川工科大学大学院				
工学研究科 博士前期課程					工学研究科 博士前期課程				
機械工学専攻	14	-	28		機械工学専攻	14	-	28	
電気電子工学専攻	16	-	32		電気電子工学専攻	16	-	32	
応用化学・ バイオサイエンス専攻	16	-	32		応用化学・ バイオサイエンス専攻	16	-	32	
機械システム工学専攻	14	-	28		機械システム工学専攻	14	-	28	
情報工学専攻	18	-	36		情報工学専攻	18	-	36	
ロボット・メカトロニクス システム専攻	6	-	12		ロボット・メカトロニクス システム専攻	6	-	12	
計	84	-	168		計	84	-	168	
工学研究科 博士後期課程					工学研究科 博士後期課程				
機械工学専攻	2	-	6		機械工学専攻	2	-	6	
電気電子工学専攻	2	-	6		電気電子工学専攻	2	-	6	
応用化学・ バイオサイエンス専攻	2	-	6		応用化学・ バイオサイエンス専攻	2	-	6	
機械システム工学専攻	2	-	6		機械システム工学専攻	2	-	6	
情報工学専攻	2	-	6		情報工学専攻	2	-	6	
計	10	-	30		計	10	-	30	

資料2（本文P3）

応用バイオ科学部 栄養生命科学科 求人状況等（平成26年度～平成30年度）

年度	求人社数	就職希望者数	求人倍率	就職者数	就職率	備考
平成30年度	13,263	75	176.84	75	100.0%	求人検索ナビ
平成29年度	12,170	62	196.29	62	100.0%	求人検索ナビ
平成28年度	11,604	80	145.05	79	98.8%	求人検索ナビ
平成27年度	2,502	69	36.26	69	100.0%	旧システム
平成26年度	2,317	64	36.20	63	98.4%	旧システム

進学需要等に関するアンケート調査－抜粋－

□管理栄養士の採用見込み

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、今後の管理栄養士の採用見込みについて質問したところ、回答件数 113 件の約 78.76%にあたる 89 件が「増加すると思う」と回答していることから、病院や企業等における管理栄養士の採用見込みの高さをうかがうことができる。

問1 管理栄養士の採用見込み

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	増加すると思う	89	78.76
2	増加すると思わない	23	20.35
	未回答・不明	1	0.88
	合計	113	100.00

□管理栄養学科の社会的な必要性

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の管理栄養学科の社会的な必要性について質問したところ、回答件数 113 件の約 95.58%にあたる 108 件が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の管理栄養学科の社会的な必要性を認めている。

問2 管理栄養学科の社会的な必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	108	95.58
2	必要性を感じない	4	3.54
	未回答・不明	1	0.88
	合計	113	100.00

□管理栄養学科で養成する人材の必要性

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の管理栄養学科で養成する人材について質問したところ、回答件数 113 件の約 95.58%にあたる 108 件が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の管理栄養学科で養成する人材の必要性を認めている。

問3 管理栄養学科で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	108	95.58
2	必要性を感じない	3	2.65
	未回答・不明	2	1.77
	合計	113	100.00

□管理栄養学科で学んだ卒業生の採用

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 113 件の約 91.15%にあたる 103 件が「採用したいと思う」と回答しており、神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生の採用に積極的な意向を示している。

問 4 管理栄養学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	採用したいと思う	103	91.15
2	採用したいと思わない	6	5.31
	未回答・不明	4	3.54
	合計	113	100.00

□管理栄養学科で学んだ卒業生の採用人数

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生の採用人数について質問したところ、問 4 で神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した病院や企業等のうち、「採用人数 1 人」と回答したのが 13 件、「採用人数 2 人」と回答したのが 5 件、「採用人数 3 人以上」と回答したのが 22 件となっている。

なお、「採用人数 3 人以上」と回答した 22 件の採用人数を 3 人、「人数は未定」と回答した 63 件の採用人数を 1 人として、これらの採用人数を合計すると 152 人となり、この採用人数からも神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

問 4 × 問 5 卒業生の採用 × 卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数/件	全体/人
1*1	採用したいと思う/1人	13	13
1*2	採用したいと思う/2人	5	10
1*3	採用したいと思う/3人以上	22	66
1*4	採用したいと思う/人数は未定	63	63
	未回答・不明	0	-
	合計	103	152

神奈川工科大学 特任教員規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、神奈川工科大学（以下、「本学」という。）の教育研究または組織運営上等の目的で、先端的、学際的、総合的な教育研究、短期間の教育研究、専門的な企画・運営上の諸問題等で特別な任務に従事できる教員（以下、「特任教員」という。）に関する事項について定めるものとする。

(対象・資格)

第2条 この規程において特任教員とは、つぎの職位を対象とする。

- (1) 教 授 (特任教授)
- (2) 准 教 授 (特任准教授)
- (3) 専任講師 (特任講師)

2. 特任教員は、別に定める「教育職員選考規程」第2条（教授の資格）、第3条（准教授の資格）または第5条（専任講師の資格）の要件を満たし、かつ、本学教員に準じて教育研究の振興発展に貢献できると認められる者とする。ただし、職位の資格要件については、これに拠り得ない特段の理由があるときはこの限りでない。

(態 様)

第3条 特任教員は、常勤（専任）と非常勤を区別し、各態様によりその内容を定める。

(特任教員の申請)

第4条 特任教員を必要とする場合、各専攻、各学科、基礎・教養教育センター、各附属センターおよび研究所の長（以下、「所属長」という。）は、文書により、特任教員選考委員会（以下、「選考委員会」という。）の設置を学長に申請する。

(選考委員会の設置)

第5条 所属長の申請に基づき、学長が特任教員の必要を認めるときは、選考委員会を設置する。ただし、選考委員会については、別に定める「教育職員の採用候補者の選考に関する申合せ」を準用する。

(選考・採用手続き)

第6条 選考委員会の委員長は、選考結果につき、人事委員会の意見を求めたうえ、学長の承認を得るものとする。

2. 学長は、選考結果を承認した特任教員候補者の採用につき、教授会に報告するとともに理事会に提案する。

(常勤の特任教員)

第7条 常勤の特任教員（以下、単に「特任教員」という。）は、別表に定める場合に限り採用の申請ができるものとし、かつ採用時に70歳未満でなければならないものとする。

2. 特任教員の雇用期間は、1年以上5年以下の期間で、その都度定める。ただし、当初の雇用期間から連続して8年以内であれば、雇用期間の更新ができるものとする。
3. 雇用期間の更新時に70歳以上の者については、雇用期間を更新できないものとする。ただし、余人をもって替えがたく後任者の雇用が著しく困難な場合は、雇用期間を1年毎に、かつ連続して3年以内（当初の雇用期間から連続して8年以内）に限りこの期間を更新することができるものとする。

(会議等の構成員)

第8条 特任教員は、原則として、研究科委員会、教授総会、教授会、各種委員会等の構成員としない。

(勤務条件)

第9条 特任教員の授業担当時間その他の勤務条件は、採用の際、その都度定める。

(処遇の決定)

第10条 特任教員の給与、その他の処遇内容は、学長の申請により、その都度理事会が決定する。

(研究指導、研究費等)

第11条 学長は、特任教員が学生の卒業研究、研究指導等を行うことを認める場合、その都度教授会または研究科委員会にその旨を報告する。

2. 前項の卒業研究、研究指導等を行う場合は、原則として、所属する組織の予算、施設、設備等の範囲内で実施するものとする。

(新研究科・専攻、新学部・学科等開設の場合の特例)

第12条 別表に定める新研究科・専攻、または新学部・学科等の開設にあたり、本学にとって特別な専門分野の教員を特任教員として採用する場合は、つぎの各号に定める特段の規定によるものとする。

- (1) 採用時において70歳以上の者を採用することができる。ただし、雇用期間は5年以内を限度とし、雇用期間の更新はできないものとする。
- (2) 大学院および学部の授業を担当することができる。
- (3) 研究科委員会、教授会、各種委員会等の構成員になることができる。
2. 前項の場合、学長は、選考委員会の設置を要しないものとする。ただし、選考の経緯、結果等については、人事委員会に報告するものとする。

(教育研究に不可欠な場合)

第13条 専攻または学科の教育研究を実施するうえで必要不可欠と認められる場合は、当該専攻または学科において、特任教員を採用できるものとする。ただし、専任教員に準ずる勤務を必要とする場合に限る。

(その他必要とする場合)

第14条 第1条に定める目的を達成するため、特段の必要性があり、かつ理事会がその必要性を事前に承認する場合、学長は、別表4に示す特任教員の選考に着手できるものとする。

2. 前項による特任教員の採用にあたり、学長は、採用の趣旨および理由に基づき、具体的な採用手続き、処遇内容等を明確にして理事会に提案するとともに、選考委員会の設置を要しない場合、または学長の判断によりこれを要しないとする場合は、当該選考の経緯、結果等について、人事委員会に報告するものとする。

(自己点検・評価義務等)

第15条 特任教員は、専任教員と同様に、自己点検・評価を実施し、授業を担当する場合は、授業アンケートを実施しなければならないものとする。

2. 前項により、授業評価が著しく劣り改善されない場合は、当該特任教員の担当授業を打ち切るものとする。

(非常勤の特任教員)

第16条 非常勤の特任教員(以下、「非常勤者」という。)は、つぎに定める区分に該当する者で、かつ採用時に70歳未満でなければならないものとする。

- (1) 本学に経理を任された外部資金もしくは競争的資金による研究費(以下、「特定経費」という。)により実施する事業、または本学が規程を定めて行う特定の事業(以下、「特定事業」という。)における教育研究を行う教授、准教授または専任講師に相当する者

(2) 寄附講座もしくは連携大学院講座における教育研究を行う教授、准教授または専任講師に相当する者

2. 同一の特定経費の事業もしくは特定事業または寄附講座等において複数の非常勤者を同時に選考しようとする場合は、個々に選考委員会を設置することなく、単一の選考委員会において選考することができる。
3. 前項の定めにかかわらず、存続期間または事業年度が定められている場合等にあつては、その都度選考委員会を設置することなく、単一の選考委員会を当該存続期間または定められた事業年度の間、継続して設置し、非常勤者を選考することができる。
4. 第1項第1号に定める非常勤者の雇用期間は、当該事業等が存続する期間を超えない範囲内で、非常勤者毎に定める。ただし、雇用期間は連続して8年以内とし、雇用期間を更新できる場合も、当初の雇用期間から連続して8年以内とする。
5. 第1項第2号に定める非常勤者の雇用期間は、1年を超えない範囲内で非常勤者毎に定める。ただし、雇用期間を更新できる場合も、当初の雇用期間から連続して8年以内とする。
6. 非常勤者の処遇は、学長の申請により、その都度理事会が決定する。ただし、第1項の事業等の場合は、計画内予算で対応することがある。

(常勤者に関する規定の準用等)

- 第17条 常勤の特任教員に関する定めは、非常勤の性質に反しない範囲で、非常勤の特任教員に準用する。ただし、採用または雇用期間の更新等の手続きに関しては、学長の判断により、手続きを簡略にし、または省略することができるものとし、その場合、学長は、人事委員会にその旨および手続きの結果を報告する。
2. 非常勤者が、大学院または学部の授業を担当する場合は、別に定める非常勤講師に関する内規に基づく手当相当額を支給する。ただし、授業の担当が雇用目的に含まれるとき、または、理事会がこの点も含めて処遇を決定しているときは、この限りでない。

(雇用以外の契約)

- 第18条 特段の理由により、常勤または非常勤の特任教員を雇用以外の契約で採用するときは、雇用の場合に準じて取り扱うものとする。

(改 廃)

- 第19条 この規程の改廃は、学長が発議する。

- 附 則
1. この規程は、平成20年4月1日から実施する。
 2. この規程の一部改正は、平成21年3月5日から実施する。
 3. この規程の一部改正は、平成27年4月1日から実施する。ただし、雇用期間の制限は、平成25年4月1日以降に締結する契約（採用、更新）から対象とする。

(別 表) 常勤の特任教員採用申請が認められる場合

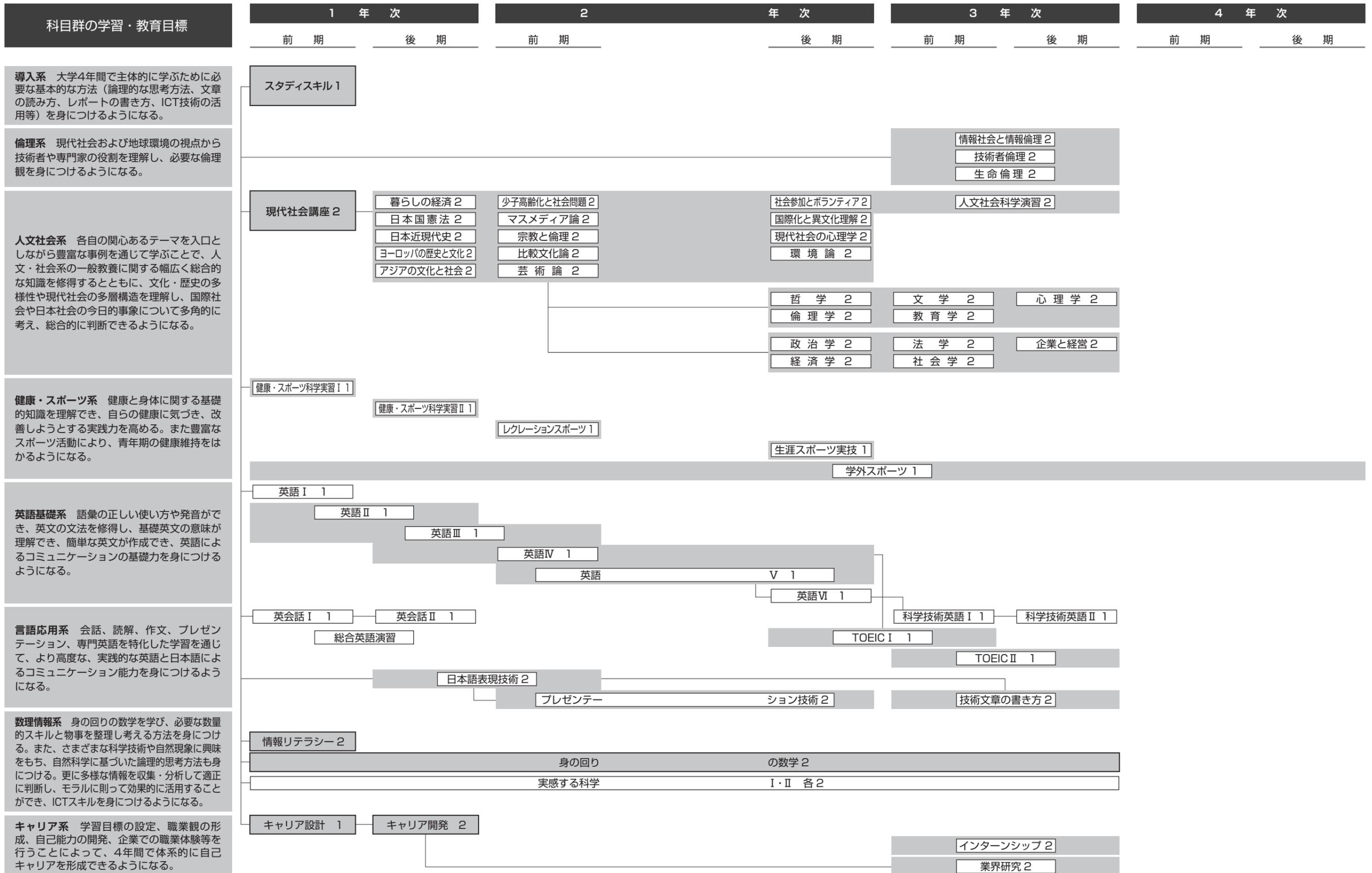
	対 象 者	採 用 の 申 請 条 件
1	本学を定年退職した教員	昇任人事により定年が短縮された教員について、所属部署の要請があり、短縮前の定年を限度として雇用する場合
2	新研究科・専攻、または新学部・学科等において必須とする特別な専門分野の教員	新学部学科準備会、学内検討委員会等の要請により、採用が必要と認められた場合
3	専攻または学科で先端的、学際的、総合的な教育研究を実施するうえで必要不可欠であり、専任教員に準ずる勤務の教員	専攻または学科の要請により、教育研究を実施するうえで不可欠であり採用が必要と認められた場合
4	その他、特任教員として必要とする教員	本学に附置する各センター、機構、研究所において、企画、運営等の高度な知識と経験を有する専門家、特定の研究分野で顕著な研究成果が期待できる国内外の研究者など、特段の合理的な必要性があり、かつ理事会がその必要性を事前に承認する場合

資料5（本文P13）

管理栄養学科 昇格人事及び新規教員の採用に関する人事計画

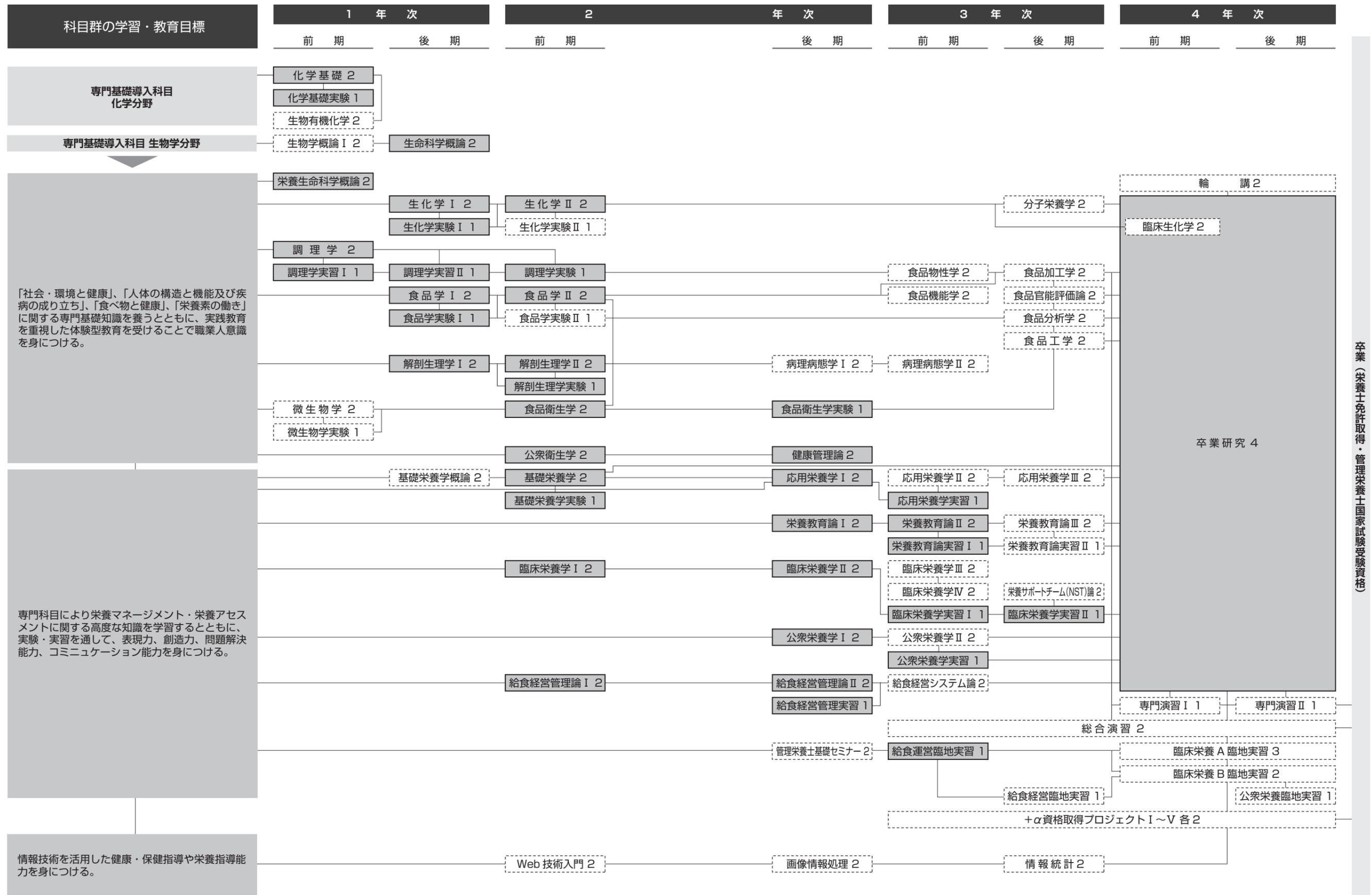
教員配置計画	令和5年度（完成年度）末	令和6年度～令和9年度
退職予定	定年規程により教授4名が退職予定 ※内教授2名は職員特別任用規程に基づき雇用延長	定年規程により教授2名が退職予定
昇格予定		本学科の教員構成を鑑み、給食経営管理論分野、応用栄養学分野、臨床栄養学分野の准教授3名については、教育研究業績等の評価に基づき教授に昇格予定
新規採用	公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、栄養教育学分野に関する研究実績を有する中堅の教授1名を採用 公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、臨床栄養学分野に関する研究実績を有する中堅の教授1名を採用	公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、調理学分野に関する研究実績を有する中堅の准教授1名を採用 公募等により、博士の学位、大学等における教育歴、健康管理論分野に関する研究実績を有する中堅の教授1名を採用

共通基盤教育 [カリキュラムツリー]



看護学部 管理栄養学科 [カリキュラムツリー]

■: 必修 □: 選択



卒業 (栄養士免許取得・管理栄養士国家試験受験資格)

臨地実習先一覧

臨地実習の状況 (管理栄養士・給食運営臨地実習)					
都道府県	法人	臨地実習受入施設	受入人数	学科定員	
神奈川県	厚木市北部学校給食センター	北部学校給食センター	6名	80名	
	厚木市南部学校給食センター	南部学校給食センター	6名		
	厚木市立依知南小学校	厚木市立依知南小学校	2名		
	厚木市立毛利台小学校	厚木市立毛利台小学校	2名		
	厚木市立厚木第二小学校	厚木市立厚木第二小学校	2名		
	エームサービス株式会社	ソニー厚木テクノロジーセンター	9名		
	株式会社寿食品	日立オートモティブシステムズ厚木事業所	6名		
	株式会社寿食品	AGC株式会社京浜工場	6名		
	ジャパンウェルネス株式会社	株式会社リコー厚木事業所	9名		
	株式会社日京クリエイト	リコー海老名食堂	6名		
	西洋フードコンパスグループ株式会社	リコー海老名テクノロジーセンター	2名		
	西洋フードコンパスグループ株式会社	キヤノン矢向事業所	2名		
	西洋フードコンパスグループ株式会社	アズビル藤沢テクノセンター事業所	2名		
	株式会社グリーンハウス	パナソニック佐江戸店	9名		
	株式会社グリーンハウス	住友電気工業店	6名		
	アンリツ興産株式会社	アンリツ興産(株)S&S食堂グループ	3名		
	東京都	シダックスフードサービス株式会社	日清食品本店		9名
		株式会社グリーンハウス	みずほ銀行本店		3名
都道府県	合計	18施設	90名	80名	

臨地実習先一覧

臨地実習の状況
(管理栄養士・給食経営臨地実習)

都道府県	法人	臨地実習受入施設	受入人数	学科定員
神奈川県	株式会社寿食品	日立オートモティブシステムズ厚木事業所	12名	80名
	株式会社寿食品	AGC京浜工場事業所	12名	
	西洋フードコンパスグループ株式会社	リコー海老名テクノロジーセンター	8名	
	西洋フードコンパスグループ株式会社	キヤノン矢向事業所	8名	
	西洋フードコンパスグループ株式会社	アズビル藤沢テクノセンター事業所	8名	
	アンリツ興産株式会社	アンリツ興産(株)S&S食堂グループ	9名	
	株式会社グリーンハウス	パナソニック佐江戸南事業所	9名	
	株式会社グリーンハウス	住友電気工業(株)横浜製作所	12名	
	株式会社グリーンハウス	みずほ銀行本店(東京)	12名	
都道府県	合計(予定)	9施設	90名	80名

臨地実習先一覧

臨地実習先の状況
(管理栄養士・臨床栄養学臨地実習)

都道府県	法人	臨地実習受入施設	受入人数	学科定員
神奈川県	医療法人 弘徳会	愛光病院	2名	80名
	厚木市	厚木市立病院	2名	
	JA神奈川県厚生連	伊勢原協同病院	6名	
	社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス	海老名総合病院	2名	
	独立行政法人国立病院機構	神奈川病院	4名	
	医療法人 鉄蕉会	亀田森の里病院	6名	
	川崎市	川崎市立井田病院	2名	
	川崎市	川崎市立川崎病院	1名	
	川崎市	川崎市立多摩病院	2名	
	社会福祉法人恩賜財団 済生会支部神奈川県	済生会湘南平塚病院	2名	
	社会福祉法人恩賜財団	済生会横浜市東部病院	3名	
	独立行政法人 国立病院機構	相模原病院	2名	
	JA神奈川県厚生連	相模原協同病院	2名	
	医療法人	佐藤病院	2名	
	医療法人 沖縄徳洲会	湘南厚木病院	3名	
	特定医療法人 仁厚会	仁厚会病院	6名	
	学校法人 聖マリアンナ医科大学	聖マリアンナ医科大学病院	2名	
	社会福祉法人 聖隷福祉事業団	聖隷横浜病院	2名	
	学校法人 帝京大学	帝京大学医学部附属溝口病院	4名	
	学校法人 東海大学	東海大学医学部付属病院	2名	
	学校法人 東海大学	東海大学医学部付属大磯病院	2名	
	医療法人社団 相和会	澁野辺総合病院	2名	
	平塚市	平塚市民病院	2名	
	国家公務員共済組合連合会	平塚共済病院	2名	
	医療法人 尽誠会	山近記念総合病院	2名	
	独立行政法人 国立病院機構	横浜医療センター	4名	
	公立大学法人 横浜市立大学	横浜市立大学附属 市民総合医療センター	2名	
	日本赤十字社	横浜市立みなと赤十字病院	2名	
	独立行政法人 労働者健康安全機構	横浜労災病院	2名	
	東京都	学校法人 東京医科大学	東京医科大学八王子医療センター	
学校法人 東京慈恵会医科大学		東京慈恵会医科大学附属病院	4名	
社会福祉法人恩賜財団 済生会支部東京都済生会		東京都済生会中央病院	3名	
学校法人 東海大学		東海大学医学部付属八王子病院	2名	
都道府県	合計(予定)	33施設	90名	80名

臨地実習先一覧

臨地実習の状況		(管理栄養士・公衆栄養臨地実習)				
都道府県	自治体	臨地実習受入施設	受入人数	学科定員		
神奈川県	神奈川県(9施設)	平塚保健福祉事務所	40名*	80名		
		平塚保健福祉事務所秦野センター				
		平塚保健福祉事務所茅ヶ崎支所				
		鎌倉保健福祉事務所				
		鎌倉保健福祉事務所三崎センター				
		小田原保健福祉事務所				
		小田原保健福祉事務所足柄上センター				
		厚木保健福祉事務所				
		厚木保健福祉事務所大和センター				
	横浜市(18区役所)	鶴見福祉保健センター				
		神奈川福祉保健センター				
		西福祉保健センター				
		中福祉保健センター				
		南福祉保健センター				
		港南福祉保健センター				
		保土ヶ谷福祉保健センター				
		旭福祉保健センター				
		磯子福祉保健センター				
		金沢福祉保健センター				
		港北福祉保健センター				
		緑福祉保健センター				
		青葉福祉保健センター				
		都筑福祉保健センター				
		戸塚福祉保健センター				
		栄福祉保健センター				
		泉福祉保健センター				
		瀬谷福祉保健センター				
		川崎市(7区役所)			川崎市役所地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所)	
					幸区役所地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所)	
					中原区役所地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所)	
	高津区役所地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所)					
	宮前区役所地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所)					
	多摩区役所地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所)					
	麻生区役所地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所)					
	相模原市				相模原市保健所	
					横須賀市	横須賀市保健所
					藤沢市	藤沢市保健所
					茅ヶ崎市	茅ヶ崎市保健所

臨地実習先一覧

臨地実習の状況		(管理栄養士・公衆栄養臨地実習)		
都道府県	自治体	臨地実習受入施設	受入人数	学科定員
山梨県	山梨県(5保健所)	中北保健福祉事務所(中北保健所)	出身者受入	80名
		中北保健福祉事務所(中北保健所峡北支所)		
		峡東保健福祉事務所(峡東保健所)		
		峡南保健福祉事務所(峡南保健所)		
		富士・東部保健福祉事務所(富士・東部保健所)		
宮崎県	宮崎市	宮崎市保健所	出身者受入	
	宮崎県(2保健所)	宮崎県小林保健所		
		宮崎県都城保健所		
秋田県	秋田県(8保健所)	大館保健所	出身者受入	
		北秋田保健所		
		能代保健所		
		秋田中央保健所		
		由利本荘保健所		
		大仙保健所		
		横手保健所		
		湯沢保健所		
		秋田市保健所		秋田市保健所
静岡県	静岡市	静岡市保健所	出身者受入	
都道府県	合計	56施設	40*	80

* 神奈川県より、県内受入人数は40名を上限として割り振られている。
41名以上の場合は学生の出身県にて受入を要請。

本実習を履修する場合は、臨床栄養B臨地実習(2週間)も履修する。

本実習を履修しない場合は、臨床栄養A臨地実習(3週間)または臨床栄養B臨地実習(2週間)
および給食経営臨地実習(1週間)を履修する。

各班のスケジュール表（臨床栄養臨地実習）

月	4月				5月				6月				7月				8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月																																	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60																		
1G 4名																																						東京医科大学八王子医療センター 楠木（助教）																																								
2G 2名																																						伊勢原協同病院 1班 横山（教授）																																								
3G 2名																																						海老名総合病院 横山（教授）																																								
4G 2名																																						川崎市立多摩病院 楠木（助教）																																								
5G 2名																																						済生会湘南平塚病院 楠木（助教）																																								
6G 2名																																						聖マリアンナ医科大学病院 楠木（助教）																																								
7G 2名																																						聖隷横浜病院 楠木（助教）																																								
8G 2名																																						帝京大学医学部附属溝口病院 横山（教授）																																								
9G 3名																																						亀田森の里病院 1班 澤井（准教授）																																								
10G 2名																																						横浜労災病院 楠木（助教）																																								
11G 3名																																						済生会横浜市東部病院 澤井（准教授）																																								
12G 2名																																						東海大学医学部付属大磯病院 澤井（准教授）																																								
13G 2名																																						東海大学医学部付属八王子病院 楠木（助教）																																								
14G 4名																																						東京慈恵会医科大学附属病院 澤井（准教授）																																								
15G 2名																																						平塚共済病院 楠木（助教）																																								
16G 4名																																						横浜医療センター 楠木（助教）																																								
17G 2名																																						横浜市立みなと赤十字病院 楠木（助教）																																								
18G 2名																																						厚木市立病院 澤井（准教授）																																								
19G 3名	報告会																																					仁厚会病院 1班 澤井（准教授）																																								
20G 3名																																						東京都済生会中央病院 横山（教授）																																								
21G 2名																																						澁野辺総合病院 楠木（助教）																																								
22G 2名																																						湘南厚木病院 澤井（准教授）																																								
23G 2名																																						神奈川病院 1班 横山（教授）																																								
24G 2名																																						平塚市民病院 澤井（准教授）																																								
25G 2名																																						山近記念総合病院 横山（教授）																																								
26G 3名																																						亀田森の里病院 2班 澤井（准教授）																																								
27G 3名																																						仁厚会病院 2班 澤井（准教授）																																								
28G 2名																																						伊勢原協同病院 2班 横山（教授）																																								
29G 2名																																						神奈川病院 2班 横山（教授）																																								
30G 2名																																						相模原病院 横山（教授）																																								
31G 2名																																						東海大学医学部付属病院 澤井（准教授）																																								
32G 2名																																						愛光病院 横山（教授）																																								
33G 2名																																						佐藤病院 楠木（助教）																																								
34G 2名																																						市民総合医療センター 澤井（准教授）																																								
35G 2名																																						川崎市立井田病院 楠木（助教）																																								
36G 1名																																						川崎市立川崎病院 澤井（准教授）																																								
37G 2名																																						相模原協同病院 楠木（助教）																																								

◇巡回指導 実習担当教員
左記の1G~37Gの実習担当教員が実習開始後2~3週目に1回巡回する。

◇メール、電話での指導
実習生は1週ごとに、メールで実習実施状況を報告し、実習担当教員はそれに対して指導を行う。緊急の場合は、電話で随時対応する。

夏季休暇

冬期休暇

各班のスケジュール表(公衆栄養臨地実習)

作成日 2019/4/15

月	4月					5月					6月					7月					8月					9月					10月					11月					12月					1月					2月					3月												
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26					27					28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
40名																夏季休暇					I 期					II 期										季休										春季休暇																						

2019年度 公衆栄養臨地実習予定

1G 4名	夏季休暇	鎌倉保健福祉事務所	◇巡回指導 実習担当教員(原島(准教授)) I期及びII期の木曜日または金曜日に巡回する。 ※1週間の施設数が多い場合、横山(教授)、澤井明香(准教授)と分担して巡回する。 ◇電話、メールでの報告	冬季休暇	春季休暇
2G 3名		厚木保健福祉事務所 大和センター			
3G 2名		鎌倉保健福祉事務所 三崎センター			
4G 3名		平塚保健福祉事務所 秦野センター			
5G 4名		厚木保健福祉事務所			
6G 3名		小田原保健福祉事務所 足柄上センター			
7G 4名		横浜市 栄福祉保健センター			
8G 3名		川崎市多摩区役所 地域みまもり支援センター			
9G 3名		川崎市川崎区役所 地域みまもり支援センター			
10G 3名		川崎市幸区 地域みまもり支援センター			
11G 2名		相模原市保健所			
12G 2名		藤沢市保健所			
以上 36名					

給食運営 臨地実習配置

資料9(本文P22)

自治体・法人	臨地実習受入施設	施設責任者	実習担当者	施設担当者	郵便番号	住所	最寄駅	電話番号
厚木市教育委員会	北部学校給食センター	大谷 正英	作間 江梨香	大澤 046-206-0210	243-0211	神奈川県厚木市三田172番地	本厚木	046-225-2653
厚木市教育委員会	南部学校給食センター	粟木原 浩	東郷 しのぶ	大澤 046-206-0210	243-0034	神奈川県厚木市船子602番地の7	本厚木	046-225-2652
厚木市教育委員会	厚木市立依知南小学校	中川 洋太	福本 あゆみ	饗場 046-206-0207	243-0806	厚木市下依知2-7-1	本厚木	046-245-1166
厚木市教育委員会	厚木市立毛利台小学校	山田 淳司	大野 留未	饗場 046-206-0207	243-0037	厚木市毛利台1-23-1	本厚木	046-247-9351
厚木市教育委員会	厚木市立厚木第二小学校	大田垣 洋	岩井 未菜実	饗場 046-206-0207	243-0014	厚木市旭町5-38-1	本厚木	046-228-0690
エームサービス(株)	SONY(株)厚木テクノロジーセンター事業所	村岡 俊一	大波 麻子	三宅 046-206-0205	243-0014	神奈川県厚木市旭町4丁目14番1号	本厚木	050-3140-9859
(株)寿食品	日立オートモティブシステムズ(株)厚木事業所	白方 直也	白石 菜々子	飯島 046-206-0209	243-0032	神奈川県厚木市恩名4丁目7番1号	本厚木	046-224-7117
(株)寿食品	AGC株式会社京浜工場事業所	東田 操	坪田 香	大澤 046-206-0210	230-0045	横浜市鶴見区末広町1丁目1番地	弁天橋	045-503-2889
ジャパン・ウェルネス(株)	(株)RICOH厚木事業所	中山 琢意	矢野 聖美	大澤 046-206-0210	243-0203	神奈川県厚木市下荻野1005	本厚木	050-3817-4770
(株)日京クリエイト	(株)RICOHテクノロジーセンター海老名事業所	渡部 正人	飯塚 みほ子	大澤 046-206-0210	243-0460	神奈川県海老名市泉2丁目7番1号 リコーテクノロジーセンター内	海老名	046-231-4104
西洋フード・コンパスグループ(株)	(株)RICOHテクノロジーセンター海老名事業所	松田 康志	車谷 真保	大澤 046-206-0210	243-0460	神奈川県海老名市泉2丁目7番地1号 リコー海老名テクノロジーセンター内	海老名	046-235-0076
西洋フード・コンパスグループ(株)	アズビル(株)藤沢テクノセンター事業所	重永 典幸	田邊 玲	大澤 046-206-0210	251-8522	神奈川県藤沢市川名1丁目12番2号	藤沢	046-624-7640
西洋フード・コンパスグループ(株)	キャンノン矢向事業所	鈴木 智美	鈴木 智美	大澤 046-206-0210	212-8530	神奈川県川崎市幸区塚越3-451	矢向	044-522-3621
(株)グリーンハウス	住友電気工業(株)横浜製作所	中澤 文博	和田 瑞歩	大澤 046-206-0210	244-8588	神奈川県横浜市栄区田谷町1 住友電工(株)横浜製作所内	大船	045-852-3353
(株)グリーンハウス	パナソニック佐江戸南事業所	田中 幸一	丹野 明香	大澤 046-206-0210	224-0054	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町600番地	鴨居	045-935-6556
(株)グリーンハウス	みずほ銀行本店	大橋 大都	田中 絵理	大澤 046-206-0210	100-0004	東京都千代田区大手町1-5-5大手町タワー10階	大手町	03-3218-3781
アンリツ興産(株)	アンリツ興産(株)S&S食堂グループ	小林 清和	牛坂 久子	大澤 046-206-0210	243-0032	神奈川県厚木市恩名5丁目1番1号	本厚木	046-296-6732
シダックスコントラクトフードサービス株式会社	日清食品株式会社東京本社事業所	佐賀 康二	日高 七帆子	大澤 046-206-0210	160-8524	東京都新宿区新宿6-28-1	新宿	03-3205-5270

給食経営 臨地実習配置

法人	受入施設	施設責任者	指導担当者	施設担当者	郵便番号	住所	最寄駅	連絡先
(株)寿食品	日立オートモティブシステムズ厚木事業所	白方 直也	白石 菜々子	大澤 046-206-0210	243-0032	神奈川県厚木市 恩名4丁目7番1号	本厚木	046-224-7117
西洋フード・コンパスグループ(株)	(株)RICOHテクノロジーセンター海老名事業所	松田 康志	車谷 真保	大澤 046-206-0210	243-0460	神奈川県海老名市泉2丁目7番地1号 リコー海老名テクノロジーセンター内	海老名	046-235-0076
西洋フード・コンパスグループ(株)	アズビル(株)藤沢テクノセンター事業所	重永 典幸	田邊 玲	大澤 046-206-0210	251-8522	神奈川県藤沢市川名1丁目12番2号	藤沢	046-624-7640
西洋フード・コンパスグループ(株)	キヤノン矢向事業所	鈴木 智美	鈴木 智美	大澤 046-206-0210	212-8530	神奈川県川崎市幸区塚越3-451	矢向	044-522-3621
アンリツ興産(株)	アンリツ興産(株)S&S食堂グループ	野崎 隆	牛坂 久子	大澤 046-206-0210	243-0032	神奈川県厚木市恩名5丁目1番1号	本厚木	046-296-6732
(株)グリーンハウス	住友電気工業(株)横浜製作所	中澤 文博	和田 瑞歩	大澤 046-206-0210	244-8588	神奈川県横浜市栄区田谷町1 住友電工(株)横浜製作所内	大船	045-852-3353
(株)グリーンハウス	パナソニック佐江戸南事業所	田中 幸一	丹野 明香	大澤 046-206-0211	224-0054	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町600番地	鴨居	045-935-6556
(株)グリーンハウス	みずほ銀行本店	大橋 大都	田中 絵理	大澤 046-206-0212	100-0004	東京都千代田区大手町1-5-5大手町タワー10階	大手町	03-3218-3781

臨床栄養 臨地実習配置

病院名	院長名	実習責任者 (管理栄養士)	郵便番号	住所	最寄駅	電話番号
医療法人 弘徳会 愛光病院	竹内 知夫	栄養課 課長 岩谷 不二子	243-0005	厚木市松枝2-7-1	本厚木	(代表)046-221-1737 (栄養課)046-221-1767
厚木市 厚木市立病院	病院事業管理者 長谷川 節	栄養科 長濱 真希	243-8588	厚木市水引1-16-36	本厚木	(代表)046-221-1570
JA神奈川県厚生連 伊勢原協同病院	井上 元保	医療技術部栄養室 室長 佐藤 作喜子	259-1187	伊勢原市田中345	伊勢原	(代表)0463-94-2111 (作喜子)0463-94-2642
社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院	服部 智任	栄養科 青藤 大蔵	243-0433	海老名市河原口1320	海老名	(代表)046-233-1311 (栄養科)内線1020
独立行政法人国立病院機構 神奈川病院	橋詰 寿律	内科栄養管理室 室長 藤田 かほる	257-8585	秦野市落合666-1	秦野	(代表)0463-81-1771 (栄養管理室)0463-81-8710
医療法人 鉄蕉会 亀田森の里病院	高木 敦司	栄養室 桑 結花子	243-0122	厚木市森の里3-1-1	本厚木	(代表)046-247-2121
川崎市 川崎市立井田病院	中島 洋介	食養科 科長 北岡 聡子	211-0035	川崎市中原区井田2-27-1	日吉	(代表)044-766-2188
川崎市 川崎市立川崎病院	金井 蔵雄	食養科 科長 太田 博子	210-0013	川崎市川崎区新川通12-1	川崎	(代表)044-233-5521
川崎市 川崎市立多摩病院	鈴木 通博	栄養部 宮下 実	214-8525	川崎市多摩区宿河原1-30-37	登戸	(代表)044-933-8111
社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部神奈川県 済生会湘南平塚病院	赤星 透	栄養科 科長 関根 優子	254-0036	平塚市宮松町18-1	平塚	(代表)0463-71-6161
社会福祉法人 恩賜財団 済生会横浜市東部病院	三角 隆彦	栄養部 課長 工藤 雄洋	230-8765	横浜市鶴見区下末吉3-6-1	京急川崎	(代表)045-576-3000
独立行政法人 国立病院機構 相模原病院	金田 悟郎	栄養管理室 室長 高橋 美恵子	252-0392	相模原市南区桜台18-1	相模原	(代表)042-742-8311
JA神奈川県厚生連 相模原協同病院	高野 靖悟	栄養室 室長 上條 広高	252-5188	相模原市緑区橋本2-8-18	橋本	(代表)042-772-4291
医療法人 佐藤病院	佐藤 克之	栄養科 主任 辻村 裕美	232-0006	横浜市南区南太田1-10-3	南太田	(代表)045-731-1515
医療法人 沖繩徳洲会 湘南厚木病院	黒木 則光	栄養室 林 慎一郎	243-8551	厚木市温水118-1	本厚木	(代表)046-223-3636
特定医療法人 仁厚会 仁厚会病院	近藤 脩	栄養科 吉原 尚矢	243-0018	厚木市中町3-8-11	本厚木	(代表)046-221-3330
学校法人 聖マリアンナ医科大学 聖マリアンナ医科大学病院	北川 博昭	栄養部 柴田 みち	216-8511	川崎市宮前区菅生2-16-1	向ヶ丘遊園	(代表)044-977-8111 (栄養部)044-977-8138
社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷横浜病院	林 泰広	栄養課 課長 大塚 純子	240-8521	横浜市保土ヶ谷区岩井町215	保土ヶ谷	(代表)045-715-3111 (栄養課)045-715-3114
学校法人 帝京大学 帝京大学医学部附属溝口病院	沖永 恵津子	栄養部 江口 浩之	213-8507	川崎市高津区二子5-1-1	高津	(代表)044-844-3333 (栄養部)044-844-3521
学校法人 東海大学 東海大学医学部付属病院	飯田 政弘	診療技術部栄養科 科長 藤井 穂波	259-1193	伊勢原市下糟屋143	伊勢原	(代表)0463-93-1121
学校法人 東海大学 東海大学医学部付属大磯病院	島田 英雄	診療協力部栄養科 科長 鈴木 孝	259-0198	中郡大磯町月京21-1	大磯	(代表)0463-72-3211
学校法人 東海大学 東海大学医学部付属八王子病院	小林 義典	診療技術部栄養科 科長 石井 宏明	192-0032	東京都八王子市石川町1838	八王子	(代表)042-639-1111
学校法人 東京医科大学 東京医科大学八王子医療センター	池田 寿昭	栄養管理科 主査 深谷 祥子	193-0998	東京都八王子市館町1163	高尾	(代表)042-665-5611
学校法人 慈恵大学 東京慈恵会医科大学附属病院	井田 博幸	栄養部 濱 裕宣	105-8471	東京都港区西新橋3-19-18	御成門	(代表)03-3433-1111
社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部東京都済生会 東京都済生会中央病院	高木 誠	栄養管理科 科長 木村 正彦	108-0073	東京都港区三田1-4-17	赤羽橋	(代表)03-3451-8211 (栄養管理科)内線2051
医療法人社団 相和会 淵野辺総合病院	世良田 和幸	栄養科 科長 杉山 功	252-0206	相模原市中央区淵野辺3-2-8	淵野辺	(代表)042-754-2222
平塚市 平塚市民病院	山田 健一郎	栄養科 安藤 智恵美	254-0065	平塚市南原1-19-1	平塚	(代表)0463-32-0015
国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院	稲瀬 直彦	栄養科 科長 佐藤 哲男	254-8502	平塚市追分9-11	平塚	(代表)0463-32-1950
医療法人 尽誠会 山近記念総合病院	久保田 光博	栄養管理室 室長 瀬戸 春美	256-0815	小田原市小八幡3-19-14	国府津	(代表)0465-47-7151
独立行政法人 国立病院機構 横浜医療センター	平原 史樹	栄養管理室 管理室長 矢ヶ崎 栄作	245-8575	横浜市戸塚区原宿3-60-2	戸塚	(代表)045-851-2621 (栄養管理室)045-853-8319
公立大学法人 横浜市立大学附属 市民総合医療センター	後藤 隆久	栄養部 課長補佐 守屋 隆	232-0024	横浜市南区浦舟町4-57	阪東橋	(代表)045-261-5656 (栄養部)045-253-5746
日本赤十字社 横浜市立みなと赤十字病院	小森 博達	栄養課 田代 保恵	231-8682	横浜市中区新山下3-12-1	桜木町	(代表)045-628-6100
独立行政法人 労働者健康安全機構 横浜労災病院	梅村 敏	栄養管理部 室長 長谷部 武	222-0036	横浜市港北区小机町3211	新横浜	(代表)045-474-8111

公衆栄養 臨地実習配置

自治体	臨地実習受入施設	施設責任者	実習担当者 (管理栄養士)	郵便番号	所在地	電話	
神奈川県(9施設)	平塚保健福祉事務所	平塚保健福祉事務所長	保健福祉課管理栄養士	254-0051	平塚市豊原町6-21	0463(32)0130	
	平塚保健福祉事務所秦野センター	平塚保健福祉事務所秦野センター長	保健福祉課管理栄養士	257-0031	秦野市曾屋2-9-9	0463(82)1428	
	平塚保健福祉事務所茅ヶ崎支所	平塚保健福祉事務所茅ヶ崎支所長	保健福祉課管理栄養士	253-0041	茅ヶ崎市茅ヶ崎1-8-7	0467(85)1173	
	鎌倉保健福祉事務所	鎌倉保健福祉事務所長	保健福祉課管理栄養士	248-0014	鎌倉市由比が浜2-16-13	0467(24)3900	
	鎌倉保健福祉事務所三崎センター	鎌倉保健福祉事務所三崎センター長	保健福祉課管理栄養士	238-0221	三浦市三崎町六合32	046(882)6811	
	小田原保健福祉事務所	小田原保健福祉事務所長	保健福祉課管理栄養士	250-0042	小田原市荻窪350-1	0465(32)8000	
	小田原保健福祉事務所足柄上センター	小田原保健福祉事務所足柄上センター長	保健福祉課管理栄養士	258-0021	開成町吉田島2489-2	0465(83)5111	
	厚木保健福祉事務所	厚木保健福祉事務所長	保健福祉課管理栄養士	243-0004	厚木市水引2-3-1	046(224)1111	
	厚木保健福祉事務所大和センター	厚木保健福祉事務所大和センター長	保健福祉課管理栄養士	242-0021	大和市中央1-5-26	046(261)2948	
横浜市(18区役所)	鶴見福祉保健センター	鶴見区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	230-0051	横浜市鶴見区鶴見中央3-20-1	045-510-1818	
	神奈川福祉保健センター	神奈川区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	221-0824	横浜市神奈川区広台太田町3-8	045-411-7171	
	西福祉保健センター	西区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	220-0051	横浜市西区中央1-5-10	045-320-8484	
	中福祉保健センター	中区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	231-0021	横浜市中区日本大通35	045-224-8181	
	南福祉保健センター	南区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	232-0024	横浜市南区浦舟町2-33	045-341-1212	
	港南福祉保健センター	港南区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	233-0003	横浜市港南区港南4-2-10	045-847-8484	
	保土ヶ谷福祉保健センター	保土ヶ谷区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	240-0001	横浜市保土ヶ谷区川辺町2-9	045-334-6262	
	旭福祉保健センター	旭区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	241-0022	横浜市旭区鶴ヶ峰1-4-12	045-954-6161	
	磯子福祉保健センター	磯子区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	235-0016	横浜市磯子区磯子3-5-1	045-750-2323	
	金沢福祉保健センター	金沢区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	236-0021	横浜市金沢区泥亀2-9-1	045-788-7878	
	港北福祉保健センター	港北区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	222-0032	横浜市港北区大豆戸町26-1	045-540-2323	
	緑福祉保健センター	緑区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	226-0013	横浜市緑区寺山町118	045-930-2323	
	青葉福祉保健センター	青葉区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	225-0024	横浜市青葉区市ケ尾町31-4	045-978-2323	
	都筑福祉保健センター	都筑区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	224-0032	横浜市都筑区茅ヶ崎中央32-1	045-948-2323	
	戸塚福祉保健センター	戸塚区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	244-0003	横浜市戸塚区戸塚町16-17	045-866-8484	
	栄福祉保健センター	栄区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	247-0005	横浜市栄区桂町303-19	045-894-8181	
	泉福祉保健センター	泉区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	245-0024	横浜市泉区和泉中央北5-1-1	045-800-2323	
	瀬谷福祉保健センター	瀬谷区福祉保健センター長	福祉保健課管理栄養士	246-0021	横浜市瀬谷区二ツ橋町190	045-367-5656	
	川崎市(7区役所)	川崎市役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)	川崎市地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)所長	地域サポート担当管理栄養士	210-8570	川崎市川崎区東田町8	044-201-3113
		幸区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)	幸区地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)所長	地域サポート担当管理栄養士	212-8570	川崎市幸区戸手本町1-11-1	044-556-6666
中原区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)		中原区地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)所長	地域サポート担当管理栄養士	211-8570	川崎市中原区小杉町3-245	044-744-3113	
高津区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)		高津区地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)所長	地域サポート担当管理栄養士	213-8570	川崎市高津区下作延2-8-1	044-861-3113	
宮前区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)		宮前区地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)所長	地域サポート担当管理栄養士	216-8570	川崎市宮前区宮前平2-20-5	044-856-3113	
多摩区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)		多摩区地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)所長	地域サポート担当管理栄養士	214-8570	川崎市多摩区登戸1775-1	044-935-3113	
麻生区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)		麻生区地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)所長	地域サポート担当管理栄養士	215-8570	川崎市麻生区万福寺1-5-1	044-965-5100	
相模原市	相模原市保健所	相模原市長	地域保健課管理栄養士	252-5277	相模原市中央区中央2-11-15	042-754-1111	
横須賀市	横須賀市保健所	横須賀市保健所長	健康づくり課管理栄養士	238-0046	横須賀市西逸見町1-38-11	046-822-4300	

公衆栄養 臨地実習配置

自治体	臨地実習受入施設	施設責任者	実習担当者 (管理栄養士)	郵便番号	所在地	電話
藤沢市	藤沢市保健所	藤沢市長	地域保健課管理栄養士	251-0022	藤沢市鶴沼2131-1	0466-25-1111
茅ヶ崎市	茅ヶ崎市保健所	茅ヶ崎市長	担当課管理栄養士	253-8660	茅ヶ崎市茅ヶ崎1-8-7	0467-85-1171
山梨県(5保健所)	中北保健福祉事務所 (中北保健所)	中北保健福祉事務所長	担当課管理栄養士	400-8543	甲府市太田町9-1	055-237-1382
	中北保健福祉事務所 (中北保健所峡北支所)	中北保健福祉事務所長	担当課管理栄養士	407-0024	韮崎市本町4丁目2-4	0551-23-3071
	峡東保健福祉事務所 (峡東保健所)	峡東保健福祉事務所長	担当課管理栄養士	405-0003	山梨市下井尻126-1	0553-20-2751
	峡南保健福祉事務所 (峡南保健所)	峡南保健福祉事務所長	担当課管理栄養士	400-0601	南巨摩郡富士川町畷沢771-2	0556-22-8151
	富士・東部保健福祉事務所 (富士・東部保健所)	富士・東部保健福祉事務所長	担当課管理栄養士	403-0005	富士吉田市上吉田1丁目2-5	0555-24-9033
宮崎市	宮崎市保健所	宮崎市保健所長	担当課管理栄養士	880-0879	宮崎市宮崎駅東1丁目6番地2	0985-29-4111
宮崎県(2保健所)	宮崎県小林保健所	宮崎県小林保健所長	担当課管理栄養士	886-0003	小林市大字埴字金鳥居3020-13	0984-23-3118
	宮崎県都城保健所	宮崎県都城保健所長	担当課管理栄養士	885-0012	都城市上川東3-14-3	0986-23-4504
秋田県(8保健所)	大館保健所	大館保健所長	担当課管理栄養士	018-5601	大館市十二所字平内新田237-1	0186-52-3955
	北秋田保健所	北秋田保健所長	担当課管理栄養士	018-3331	北秋田市鷹巣字東中岱76-1	0186-62-1165
	能代保健所	能代保健所長	担当課管理栄養士	016-0815	能代市御指南町1-10	0185-55-8023
	秋田中央保健所	秋田中央保健所長	担当課管理栄養士	018-1402	潟上市昭和乱橋字古開172番地の1	018-855-5171
	由利本荘保健所	由利本荘保健所長	担当課管理栄養士	015-0001	由利本荘市水林408	0184-22-4120
	大仙保健所	大仙保健所長	担当課管理栄養士	014-0062	大仙市大曲上栄町13-62	0187-63-3403
	横手保健所	横手保健所長	担当課管理栄養士	013-0033	横手市旭川1丁目3-46	0182-32-4005
	湯沢保健所	湯沢保健所長	担当課管理栄養士	012-0857	湯沢市千石町2丁目1-10	0183-73-6155
秋田市	秋田市保健所	秋田市保健所	担当課管理栄養士	010-0976	秋田市八橋南1-8-3	018-883-1170
静岡市	静岡市保健所	静岡市保健所長	担当課管理栄養士	420-0846	静岡市葵区城東町24番1号	054-249-3170

* 神奈川県より、県内受入人数は40名を上限として割り振られている。41名以上の場合は学生の出身県にて受入を要請。

本実習を履修する場合は、臨床栄養B臨地実習(2週間)も履修する。

本実習を履修しない場合は、臨床栄養A臨地実習(3週間)または臨床栄養B臨地実習(2週間)および給食経営臨地実習(1週間)を履修する。

2019年度FD活動計画(案)

FD活動は、教員の自己改善に向けた自主的な活動を支援し、大学が社会的役割を果たすために掲げる教育改善・意識改革を支援するものと位置付け、以下のように計画し、実施することとする。

【具体的な内容】

A. 集合研修の実施

1. (仮称) 教育課程の適正な運用のための3ポリシーの構成: 授業者に求められるカリキュラム開発の視点(実施時期未定)
2. (仮称) 授業を語ろう【手挙げ式(定員40名: 学生との協働)】(6月)
3. (仮称) 授業公開研究会(7月または11月の「授業公開にあわせて実施」)
4. (仮称) 授業アンケート研究会(手挙げ式(定員40名: 学生との協働))(10月)
5. シラバスFD研修会(12~1月)

B. 新採用教員研修会の実施

1. 新採用教員研修会(4月3日 水)

C. 教育力向上ワークショップ

1. 「授業設計のための目標と評価の設定」(4月24日 水)
2. 「学生の主体的学びに向けた授業の設計」(5月24日 金)
3. 「ティーチング・ポートフォリオ入門(初級: チャートの作成)」(6月21日 金)
4. 「manaba活用入門」(7月19日 金)
5. 「(仮) 発達障害学生の支援」(9月20日 金)
6. 「授業における知的財産法入門」(10月18日 金)
7. 「授業設計のための知識構造理解と課題分析」(11月22日 金)
8. 「学生の興味を喚起する授業デザイン」(12月20日 金)
9. 「主体的な学修を支援する評価方法」(2月21日 金)

※このうち1, 2, 3, 4, 7, 8, 9は、オンデマンドで通年受講可とする。

D. 高大連携 授業見学・研究会

1. 本学教員協定高校訪問 授業見学・研究会(年間2校を計画)
2. 協定高校教員本学訪問 授業見学・研究会(11月)

E. 授業アンケート・教員授業アンケートの実施(前期7月・後期12月)

F. 授業公開の実施(実施時期・方法も含めて要検討)

G. センターニュースの発行(年4回)

H. 3ポリシー運用のためのFD(教育開発センター運営委員会にて検討・必要に応じ実施)

I. SCOT(※) 育成のための研修会の実施(6~2月)

※SCOT(Students Consulting on Teaching): 研修を受けた学生が教員の要望により学生目線で授業観察を行い、授業改善の支援をする活動

以上

2019 年度 S D 活動計画 (案)

教職員が同時に参加することが困難であることから、研修内容については、映像化して学内限定WEBにて配信し、全員が内容を理解できるようにする。

事務職員を対象としたSDについては、個々の能力向上を目的とするが、第一段階として各部署の重点テーマについての共有を図るための研修の企画・運営を主に進めていく。

4月22日(月) 14:30~15:30

- (1) 認証評価結果と今後の対応について
- (2) 改組の趣旨と進捗状況および今後の予定

6月7日(金) 教授会(拡大)

- (1) ハラスメント研修会

6月17日(月) 14:30~15:30

- (1) 2018年度事業報告と2019年度事業計画のポイント

7月22日(月) 14:30~15:30

- (1) 高大接続、入試改革、2020年度入試のポイント

9月6日(金) 13:00~16:00

- (1) エンロールマネジメントと学生本位主義

10月21日(月) 14:30~15:30

- (1) 本学の学生サポートについて

以 上

栄養生命科学科志願者状況 (過去5年間)

年度	27	28	29	30	31	平均
志願者数 (人)	573	447	458	395	391	452.8
倍率 (志願者数/入学定員)	7.16	5.59	5.73	4.94	4.89	5.66
受験者数	561	430	443	381	381	439.2
合格者数	206	230	228	223	291	235.6
倍率 (受験者数/合格者数)	2.72	1.87	1.94	1.71	1.31	1.86
入学者数	83	89	84	84	68	81.6
入学定員充足率	103.8%	111.3%	105.0%	105.0%	85.0%	102.0%

- ※ 志願者数・受験者数に選考の対象となった志願順位制志願者を含む
- ※ 合格者数には追加合格者を含まない
- ※ 入学者数は各年度4/1現在

資料 2 (本文 P 1)

進学需要等に関するアンケート調査－抜粋－

□管理栄養学科の受験希望

神奈川工科大学への進学実績のある高等学校の2年生に、神奈川工科大学の管理栄養学科の受験希望について質問したところ、回答者数 5,567 人の約 7.78%にあたる 433 人が「受験を希望する」と回答しており、神奈川工科大学の管理栄養学科の受験意向の高さがうかがえる。

問 5 管理栄養学科の受験希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	受験を希望する	433	7.78
2	受験を希望しない	4700	84.43
	未回答・不明	434	7.80
	合計	5567	100.00

□管理栄養学科への進学希望

神奈川工科大学の管理栄養学科の「受験を希望する」と回答した者のうち、管理栄養学科に合格した場合「進学を希望する」と回答した者は 310 人となっている。

問 5 × 問 7 管理栄養学科の受験を希望 × 管理栄養学科への進学を希望

No.	カテゴリ	件数／人
1*1	受験を希望／管理栄養学科への進学を希望	310

資料3 (本文P2)

他大学の初年次学生納付金 (他大学は平成31年度実績)

大学名	学部・学科名	初年度納入額合計	入学金	授業料等
神奈川工科大学	看護学部 管理栄養学科	1,732,000	200,000	1,532,000※
東京農業大学	応用生物科学部 栄養科学科	1,643,000	270,000	1,373,000
女子栄養大学	栄養学部 実践栄養学科	2,098,000	361,000	1,737,000

※授業等の内訳：授業料 1,470,000、大学委託徴収金等 62,000

募集活動の実績等

年度	資料 請求者数	オープン キャンパス 参加者数	高校進学 ガイダンス 実施回数	進学相談会 実施回数	出前講義 実施回数	高校団体 大学見学 実施回数	志願者 総数
平成26年度 (平成27年度入試)	36,645	5,620	500	179	148	39	6,677
平成27年度 (平成28年度入試)	37,230	5,819	516	194	140	32	5,910
平成28年度 (平成29年度入試)	41,445	5,467	646	243	168	28	6,094
平成29年度 (平成30年度入試)	46,664	5,961	689	198	123	31	7,420
平成30年度 (平成31年度入試)	51,541	5,765	726	205	129	29	8,617

※ 志願者数は選考の対象となった志望順位制志願者を含む。

資料5（本文P2）

高校訪問（予備校・塾含む）実施状況・今後の実施計画

【実施状況】

志願者の多い重点地域に進学アドバイザーを設置し、進学アドバイザー1人につき、年間で50校～100校の高校について複数回の高校訪問を実施する。

・進学アドバイザー設置地区と人数

（高校）

北海道（1人）、青森（1人）、岩手（1人）、宮城（1人）、秋田（1人）、山形（1人）、福島（1人）、茨城（1人）、栃木（1人）、群馬（1人）、千葉（1人）、首都圏（東京23区、埼玉）（1人）、東京都下（1人）、神奈川（3人）、新潟（1人）、山梨（1人）、長野（1人）、静岡（3人）、宮崎・鹿児島（1人）、沖縄（1人）

（塾・予備校）

神奈川（1人）

* 神奈川以外の上記地区は、高校訪問担当者が塾・予備校を一部訪問。

総数：21地区25名

・訪問時期と訪問目的

前期：4月～7月

在籍生の状況報告、大学の案内、推薦入試（指定校制）の案内、オープンキャンパスの案内等

中期：8月～11月

AO入試や推薦入試の志望状況確認、一般入試の案内、オープンキャンパスの案内等

後期：12月～3月

一般入試の志望状況確認、AO入試・推薦入試合格者に対する入学までの対応の案内、オープンキャンパスの案内等

・訪問校数

進学アドバイザー1人につき、60校～100校を担当する。

（高校訪問 2018年度実績：約2,095校 述べ訪問数：約6,401校）

【今後の実施計画】

今後の高校訪問実施計画は、今までの方法を踏襲し、今回設置予定学科の認知度を高めていくこととする。

以上

オープンキャンパスの実施日時期・テーマ

月	平成30年(7回実施)	平成31年(7回実施)	平成32年
3月	◆3/24(土)オープンキャンパス 大学基本講座 ～大学を知る!～ 「大学」の基本的なところから徹底解剖 理工系大学の魅力 系統別学科探究&体験 専門高校生対象ガイダンス (9:40~16:00)	◆3/23(土)オープンキャンパス 大学基本講座 ～大学を知る!～ 系統別学科探究&体験 専門高校生対象ガイダンス ※系統別ガあり ※1学科1教室集結型プログラム (9:40~15:00)	◆3/22(日)オープンキャンパス 大学基本講座 ～大学を知る!～ 系統別学科探究&体験 専門高校生対象ガイダンス ※系統別ガあり ※1学科1教室集結型プログラム (9:40~15:00)
6月	◆6/10(日)オープンキャンパス 学部学科紹介、AO/推薦入試対策 専門高校生対象入試対策 系統別学科探究&体験 (10:00~15:30)	◆6/9(日)オープンキャンパス 学部学科紹介、AO/推薦入試対策 専門高校生対象入試対策 系統別学科探究&体験 (10:00~15:30)	
7月	◆7/22(日)オープンキャンパス 研究室大公開 (10:00~15:30) ◆7/29(日)オープンキャンパス 研究室体験(予約制)(10:00~15:30)	◆7/21(日)オープンキャンパス 研究室大公開 (10:00~15:30) ◆7/28(日)オープンキャンパス 研究室体験(予約制)(10:00~15:30)	
8月	◆8/18(土)オープンキャンパス 授業体験(専門・実習)(予約制) (10:00~15:30)	◆8/18(日)オープンキャンパス 授業体験(専門・実習)(予約制) (10:00~15:30)	
9月	◆9/30(日)オープンキャンパス 学部学科紹介、推薦入試対策 (10:00~15:00)	◆9/29(日)オープンキャンパス 学部学科紹介、推薦入試対策 (10:00~15:00)	
11月	◆11/24(土)オープンキャンパス 自己推薦・一般入試対策 高校1,2年生対象ガイダンス ※系統別ガなし ※1学科1教室で取組み紹介 (13:00~16:00)	◆11/23(土)オープンキャンパス 自己推薦・一般入試対策 高校1,2年生対象ガイダンス ※系統別ガなし ※1学科1教室集結型プログラム (13:00~16:00)	

オープンキャンパス実施結果報告—平成30年度・平成29年度—

	平成30年度									平成29年度								
	新2.3年 (3/24)	学部学科 (6/10)	研究室 (7/22)	マルチ型 (7/29)	マルチ型 (8/18)	学部学科 (9/30)	自己推一般 (11/24)	合計	新2.3年 (3/25)	学部学科 (6/11)	研究室 (7/23)	マルチ型 (7/30)	マルチ型 (8/20)	学部学科 (10/1)	自己推一般 (11/18)	合計		
●参加者数	生徒 325	666	661	655	956	230	234	3,727	336	688	732	631	878	347	232	3,844		
	父母等 197	377	348	366	470	144	136	2,038	228	359	360	319	522	212	117	2,117		
	合計 522	1043	1009	1021	1,426	374	370	5,765	564	1047	1092	950	1,400	559	349	5,961		
●高等学校所在地別参加者人数	北海道	3	1		5		1	10	1		1	2		2		6		
	青森	2		1	4	8	1	3	6	3	5	2	4	2	1	23		
	岩手	1	2	1	3	2	3	1	3		2	1	4	2		12		
	宮城	1	3	1	2	8	2		1	1	5	5	3	1	1	16		
	秋田		1			1	2		1	4		2	2	2		11		
	山形	2	2	4	2	2	1	2	15	3		4	6	4	4	22		
	福島	4	10	7	8	6	5	2	42	9	13	7	11	6	2	48		
	茨城	4	8	6	5	20	4	4	51	3	16	10	8	11	4	54		
	栃木	5	5	7	10	16	4	3	50	6	13	13	16	16	5	86		
	群馬	7	7	7	8	15	3	1	48	8	7	7	11	11	1	47		
	埼玉	2	7	11	20	7	1	4	52	5	3	4	7	4	3	26		
	千葉	3	6	5	2	4	4		24	8	6	6	7	6	2	37		
	東京	18	58	78	56	74	31	26	341	33	62	80	56	84	36	375		
	神奈川	193	455	424	382	609	125	129	2,317	187	475	455	389	575	203	144	2,428	
	新潟	2	3	1	1	9	5	1	22	2	3	4	8	8	4	29		
	富山		1		2	4		1	8	1	1	1	2	1		6		
	石川								0				1			1		
	福井				1	1			2							0		
	山梨	3	8	7	14	14	2	3	51	2	7	12	21	18	11	3	74	
	長野	10	18	27	36	21	3	6	121	14	14	19	16	13	7	5	88	
	岐阜					1			1			2		1		1	4	
	静岡	59	63	67	86	117	33	41	466	42	52	87	52	96	52	21	402	
	愛知	1	2	2	2			2	9		2	3		1		6		
	三重								0				1	2		3		
	滋賀								0							0		
	京都	1	2						3							0		
	兵庫								0	2	4					6		
	奈良								0						1	1		
	大阪	1							1							0		
	和歌山								0							0		
	鳥取						1		1							0		
	島根			1		1			2							0		
	岡山								0							0		
広島				1				1			1				2			
山口		1		1	3			5						1	1			
徳島		1					1	2		1					1			
愛媛		1			1			2			1				1			
香川					1			1					2		2			
高知								0					1		1			
福岡					3			3					2		2			
佐賀								0							0			
長崎								0							0			
熊本								0							0			
大分				1				1		1					1			
宮崎								0				1			1			
鹿児島					1	1		2			2	1			3			
沖縄	2			3	3		1	9			1		1		3			
専修・高認								0							0			
外国							2	2			1				1			
記載なし	1	1	4		3			9				4	2	3	5	14		
合計	325	666	661	655	956	230	234	3,727	336	688	732	631	878	347	232	3,844		

資料7（本文P5）

応用バイオ科学部 栄養生命科学科 求人状況等（平成26年度～平成30年度）

年度	求人社数	就職希望者数	求人倍率	就職者数	就職率	備考
平成30年度	13,263	75	176.84	75	100.0%	求人検索ナビ
平成29年度	12,170	62	196.29	62	100.0%	求人検索ナビ
平成28年度	11,604	80	145.05	79	98.8%	求人検索ナビ
平成27年度	2,502	69	36.26	69	100.0%	旧システム
平成26年度	2,317	64	36.20	63	98.4%	旧システム

進学需要等に関するアンケート調査－抜粋－

□管理栄養士の採用見込み

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、今後の管理栄養士の採用見込みについて質問したところ、回答件数 113 件の約 78.76%にあたる 89 件が「増加すると思う」と回答していることから、病院や企業等における管理栄養士の採用見込みの高さをうかがうことができる。

問 1 管理栄養士の採用見込み

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	増加すると思う	89	78.76
2	増加すると思わない	23	20.35
	未回答・不明	1	0.88
	合計	113	100.00

□管理栄養学科の社会的な必要性

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の管理栄養学科の社会的な必要性について質問したところ、回答件数 113 件の約 95.58%にあたる 108 件が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の管理栄養学科の社会的な必要性を認めている。

問 2 管理栄養学科の社会的な必要性

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	必要性を感じる	108	95.58
2	必要性を感じない	4	3.54
	未回答・不明	1	0.88
	合計	113	100.00

□管理栄養学科で養成する人材の必要性

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の管理栄養学科で養成する人材について質問したところ、回答件数 113 件の約 95.58%にあたる 108 件が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の管理栄養学科で養成する人材の必要性を認めている。

問 3 管理栄養学科で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	必要性を感じる	108	95.58
2	必要性を感じない	3	2.65
	未回答・不明	2	1.77
	合計	113	100.00

□管理栄養学科で学んだ卒業生の採用

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 113 件の約 91.15%にあたる 103 件が「採用したいと思う」と回答しており、神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生の採用に積極的な意向を示している。

問 4 管理栄養学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	採用したいと思う	103	91.15
2	採用したいと思わない	6	5.31
	未回答・不明	4	3.54
	合計	113	100.00

□管理栄養学科で学んだ卒業生の採用人数

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある病院や企業等に対して、神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生の採用人数について質問したところ、問 4 で神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した病院や企業等のうち、「採用人数 1 人」と回答したのが 13 件、「採用人数 2 人」と回答したのが 5 件、「採用人数 3 人以上」と回答したのが 22 件となっている。

なお、「採用人数 3 人以上」と回答した 22 件の採用人数を 3 人、「人数は未定」と回答した 63 件の採用人数を 1 人として、これらの採用人数を合計すると 152 人となり、この採用人数からも神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

問 4 × 問 5 卒業生の採用 × 卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数/件	全体/人
1*1	採用したいと思う/1人	13	13
1*2	採用したいと思う/2人	5	10
1*3	採用したいと思う/3人以上	22	66
1*4	採用したいと思う/人数は未定	63	63
	未回答・不明	0	-
	合計	103	152

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生確保の見通し

ア 定員充足の見込み（概要）

管理栄養学科の入学定員設定の考え方は、基礎となる既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科の最近5年間における志願者状況等を踏まえるとともに、神奈川県を中心に所在する高等学校に在籍している2年生に対する進学需要調査の結果などを総合的に勘案したうえで、入学定員を80名としていることから、十分な学生確保を見込むことができるものと考えている。

なお、管理栄養学科の入学定員80人については、看護学部に管理栄養学科が設置された場合に募集停止を予定している既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科から80人を振り替えることとしている。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1 基礎となる既設学科の学生確保の状況

管理栄養学科の基礎となる既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科の最近5年間の志願者数は、入学定員80人に対して、平成27年度573人、平成28年度447人、平成29年度458人、平成30年度395人、平成31年度391人と安定した志願者数の確保を維持しており、最近5年間の平均志願者数は453人、入学定員に対する志願者数の平均倍率は5.66倍、実質的な競争倍率である合格者数に対する受験者数の平均倍率は1.86倍、平均入学定員充足率は102.0%となっており、18歳人口の減少期においても安定的な学生確保の状況を維持している。

（資料1）

2 進学意向に関するアンケート調査結果

管理栄養学科の設置計画は、既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科の学生確保の状況を踏まえたうえで計画していることから、十分な学生確保が見込めるものと考えられるが、管理栄養学科の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から確認することを目的として、神奈川県を中心に所在する高等学校の2年生に対する進学意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、神奈川工科大学の管理栄養学科の「受験を希望する」と回答した433人のうち、神奈川工科大学の管理栄養学科に合格した場合「管理栄養学科への進学を希望する」と回答した者は約71.6%にあたる310人となっており、神奈川県を中心に所在する一部の高等学校の2年生に限定した調査結果においても、神奈川工科大学の管理栄養学科への進学意向の高さがうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあるものと考えられる。（資料2）

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、大学及び学部運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、設置圏周辺地

域における類似学科を設置している私立大学（東京農業大学、女子栄養大学）の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育研究経費比率や経常経費依存率を見極めつつ、大学及び学部の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定している。（資料3）

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた具体的な取組状況は、大学案内や学科パンフレット等の印刷物の配布をはじめ、ホームページや高校生向けSNS等の電子媒体による情報の提供、進学情報誌や進学ネット等の各種メディアを活用したPR活動を行うとともに、資料等請求者に対するダイレクトメールによる各種情報の提供を行うこととしている。

また、高校訪問、オープンキャンパス、高校進学ガイダンス、出前講義、本学見学会などを通じて、学部・学科の理念、養成する人材像、学位授与方針・教育課程編成の方針・入学者の受入方針、学生生活を通じた活動や想定される進路など様々な教育情報について、設置圏域を中心とする高校生や保護者、高校教員に対して広く周知を図ることとしている。

また、募集活動に対する効果、反応等を示す資料として、過去の募集活動の実績推移について、別紙に示す。（資料4）

ア 高校訪問

高校訪問を中心とする個別募集活動に向けた募集戦略の強化を図ることとしており、具体的には、地元神奈川県や志願者の多い地域に専属の進学アドバイザーを設置し、企画入学課の教職員と連携して各地域の高校と大学とのネットワーク構築の強化を図っており、看護学部管理栄養学科についても同様に取り組む計画である。進学アドバイザーの設置地区・人数は21地区25名であり、重要な募集戦略として位置づけている。（資料5）

高校訪問は、募集対象者が多数在籍している高校の教員に対して、本学の様々な教育情報を直接的に周知することができるとともに、継続的な訪問活動を行うことで、高校の教員との信頼関係を築くことができるものであり、高校の教員との信頼関係が構築できた場合には、高校内での生徒に対する進学説明会の実施をはじめ、当該専門分野に進学を希望している生徒の紹介をしてもらえるなどの効果が期待される。

イ オープンキャンパス

本学への入学を希望・考慮している高校生やその保護者を対象として、施設内を積極的に公開し、本学への関心を深めてもらうための入学促進イベントとしてオープンキャンパスの実施を予定しており、大学概要や入試概要に関するガイダンス、在学生や教職員による施設見学会、各学科による体験授業、大学で学べる学問内容、取得可能資格、入学者選抜制度、大学生活についての個別相談や質問を受け付けるなど、受験生や保護者との対面による丁寧な説明を行うことにより、本学への関心を深め

てもらおうとともに、よりミスマッチの少ない学生を入学させることの効果が期待される。(資料6)

ウ 高校進学ガイダンス、進学相談会、出前講義

高校からの直接の依頼または広告代理店等が主催する高校進学ガイダンスや出前講義に参加する機会を増やすことで、高校生に直接、大学の魅力を伝えていくことを重視している。出前講義では、年度初めに「出前講義プログラム」を制作し、212の講座を紹介する等、高校側が直接依頼できる工夫を行っている。大学教職員の説明や授業を聞くことにより、大学進学又は本学進学を希望する高校生が大学を決定する際に役立ててもらおうことが期待できる。

なお、平成30年度においては、高校内での進学ガイダンスに参加した回数は726回、本学企画入学課職員や進学アドバイザーが参加した進学相談会は205回、本学教員が高校で行った出前講義は129回に及んでいる。

エ 高校団体の本学見学会

高校の行事の一環として行われる高校生の本学見学会について、進学アドバイザー等の高校訪問を通して高校から直接受ける依頼または広告代理店等が間に入って受ける依頼について、積極的な受け入れを行っている。具体的には、高校側の希望に合わせて「大学基本講座」「本学概要説明会」「体験授業」「施設見学」等を組み合わせ合わせて対応するとともに、できる限り、来校する高校出身の学生へ協力を依頼し、先輩の活躍している姿を高校生に見てもらおうような内容を盛り込んでいる。大学を直接見学することは、高校生が進学を考える際、大学をイメージすることができ、適切な判断ができると期待される。

平成30年度においては29校の高校が単独で本学を見学している。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的

管理栄養学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「栄養学分野」として、「栄養学の学問体系の理解の基に、栄養学分野に関する基礎的な知識と技能を習得したうえで、栄養の理論と実践の関係を理解し、総合的に実践する応用能力を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、管理栄養学科では、栄養学分野に関する教育研究を通して、「栄養学分野の基礎理論と基本技能の確実な習得のもとに、栄養指導や栄養管理に関する実践能力を有した幅広い職業人を養成する」こととしている。

この養成する人材の目的を達成するために、以下の通り、学位授与の方針を定めることとし、教育課程における「共通基盤教育」、「専門基礎導入」、「専門基礎」及び「専門」の各科目群に配置している講義と演習や実習を通して、学位授与の方針に掲げる知識及び能力を習得させるための教育を行うこととする。

養成する人材の目的を達成するための学位授与の方針は、以下の通りとする。

1. 創造的思考力

- (1) 栄養士、管理栄養士としての基礎知識・技術を応用・発展させて、栄養・健康に関する問題を発見・解決して、新たな価値を生み出すことができる。
- (2) 栄養士、管理栄養士として、現場から提示された課題に対して、自分の役割を認識し専門知識を活用して、すぐに対応することができる。
- (3) 栄養士、管理栄養士として、現況を総合的に把握し、前もって予習する中で、自らやるべき事を見つけ、指示がなくても的確に行動することができる。

2. チームワーク

- (1) 栄養士、管理栄養士としての知識や意見をわかりやすく伝える事ができる。また、相手に対して内容の確認や質問をとおして、相手の意見を理解する事ができる。
- (2) 栄養士、管理栄養士として期待されている自分の役割を把握し、行動することができる。また、栄養士・管理栄養士としての職業倫理を理解している。さらに、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。

3. 基礎学力

- (1) 栄養士、管理栄養士として、その専門分野における基本的な知識・技能を体系的に理解している。
- (2) 栄養士、管理栄養士の素養としての理数・情報分野の基礎知識とリテラシーを理解している。また、社会や多様な文化に関する基礎知識を理解している。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

① 基礎となる既設学科の求人状況

管理栄養学科の基礎となる既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科の最近5年間の求人件数の実績は、平成26年度は2,317件、平成27年度は2,502件、平成28年度は11,604件、平成29年度は12,170件、平成30年度は13,263件となっており、また、最近5年間の栄養生命科学科の就職希望者に対する求人倍率の平均は約1.18、1倍と安定した求人状況となっている。(注：平成28年度から求人受付システムをweb受付に変更)

② 基礎となる既設学科の就職状況

管理栄養学科の基礎となる既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学科の最近5年間の就職率の実績は、平成26年度は就職希望者64人に対して就職者数63人、平成27年度は就職希望者69人に対して就職者数69人、平成28年度は就職希望者80人に対して就職者数79人、平成29年度は就職希望者62人に対して就職者数62人、平成30年度は就職希望者75人に対して就職者数75人となっており、最近5年間の就職率の平均は約99.4%と高い就職率で推移している。

このように、管理栄養学科の基礎となる既設の応用バイオ科学部の栄養生命科学

科では、昨今の就職難の状況下においても大きな影響を受けることなく、安定した求人件数と高い就職率で推移しており、このことは、栄養生命科学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることを示しているものであり、今般、設置する管理栄養学科における卒業後の進路についても十分に見込めるものとする。（資料7）

③ 人材需要の根拠となる調査結果の概要

管理栄養学科の設置計画を策定するうえで、管理栄養学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることを客観的根拠となるデータから検証することを目的として、管理栄養学科の卒業後の主な就職先として想定される医療機関や関連企業などを対象として、管理栄養士の採用見込みや管理栄養学科の設置の必要性と養成する人材及び管理栄養学科の卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。（資料8）

ア 管理栄養士の採用見込み

医療機関等における管理栄養士の採用見込みについては、有効回答数113機関の約78.76%にあたる89機関が「増加すると思う」と回答していることから、医療機関等における今後の管理栄養士の採用見込みはあるものと考えられる。

イ 管理栄養学科の社会的な必要性

神奈川工科大学の管理栄養学科の社会的な必要性については、有効回答数113機関の約95.58%にあたる108機関が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の管理栄養学科で養成する人材については、有効回答数113機関の約95.58%にあたる108機関が「必要性を感じる」と回答していることから、神奈川工科大学の管理栄養学科の社会的な必要性の高さをうかがうことができる。

ウ 管理栄養学科で学んだ卒業生の採用

神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生の採用については、有効回答数113機関の約91.15%にあたる103機関が「採用したいと思う」と回答しており、神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生の採用人数については、「3人以上」と回答した医療機関等の採用人数を3人、「人数は未定」と回答した医療機関等の採用人数を1人として、これらの採用人数を合計すると152人となり、この採用人数からもみても、神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような限定された一部の医療機関や関連企業等に対する調査結果においても、神奈川工科大学の管理栄養学科で学んだ卒業生に対する採用意向は高いことから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。